

ISSN 0918-3728

# 東京家政学院生活文化博物館

## 年 報

第 32 号



2023

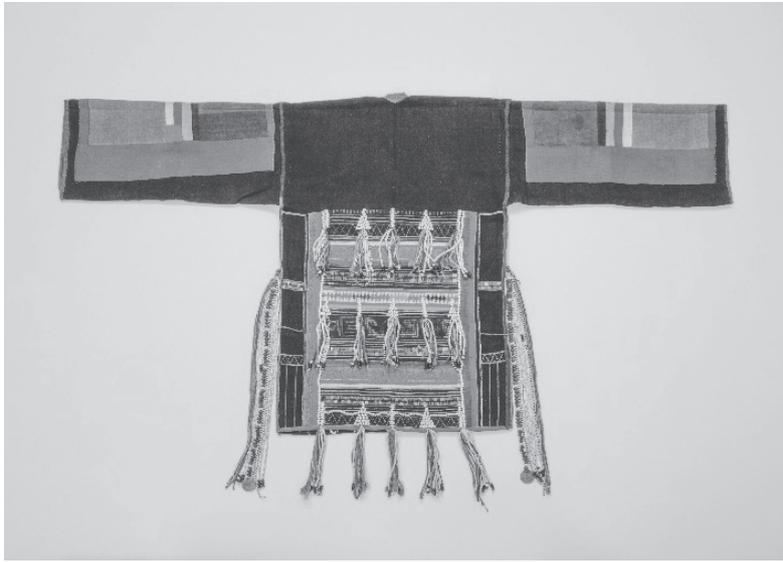
東京家政学院生活文化博物館

年 報

第 32 号

2023





女性上衣

東京家政学院生活文化博物館蔵



# 東京家政学院生活文化博物館

## 年 報

第 32 号

### 目 次

口絵

目次

英文目次

はじめに	1
I 令和3年度博物館運営委員	2
II 令和3年度博物館研究員	2
III 令和3年度受贈資料目録	2
IV 令和3年度貸出資料一覧	2
V 令和3年度受贈図書目録	3
VI 令和3年度展示研究報告	
(1) 令和3年度第10回企画展「学生たちの贈り物」	川 本 利 恵 14
(2) 令和3年度第11回企画展「ニットの魔法」	川 本 利 恵 19
(3) 令和3年度第33回特別展 「新たな出発点—東京家政学院生活文化博物館の30年—」	川 本 利 恵 23
(4) 令和3年度第12回企画展「学生成果展」	各担当教員 29
(5) 令和3年度第12回企画展「教員研究成果展」	各担当教員 44
(6) 地域連携・研究センター企画展	川 本 利 恵 57
(7) 令和3年度博物館実習（館園実習）を振り返って	田 尾 誠 敏 58
VII 博物館資料の保存事業報告	
・令和3年度生活文化博物館害虫調査報告	川 本 利 恵 64
-----	
令和3年度生活文化博物館日誌抄	69
東京家政学院生活文化博物館規程	70
東京家政学院生活文化博物館運営規程	71

# Annual Bulletin of the Museum of Daily Life Tokyo Kasei Gakuin

---

Number 32, March 2023

## Contents

Preface .....	1
I Museum of Daily Life Administration Personnel, in 2021 .....	2
II Museum of Daily Life Research Personnel, in 2021 .....	2
III Donations Received in 2021 .....	2
IV Lending of Collections in 2021 .....	2
V Books Donated in 2021 .....	3
VI Exhibition Reports	
(1) 2021 Exhibition : Gifts from Students .....	KAWAMOTO Rie 14
(2) 2021 Exhibition : The Magic of Knitwea .....	KAWAMOTO Rie 19
(3) 2021 Special Exhibition : A New Starting Point : 30 Years of the Tokyo Kasei Gakuin Museum of Daily Life ...	KAWAMOTO Rie 23
(4) Works by Senior Students.....	29
(5) Works by Teacher's Achievement .....	44
(6) Local Cooperation and the Study Planning Center .....	KAWAMOTO Rie 57
(7) Looking back on "2021 Practical Lesson of Museology" of Students .....	TAO Masatoshi 58
VII Preservation activities Reports	
· An Investigation into which Insects Are Harmful to Books and Documents .....	KAWAMOTO Rie 64
-----	
Excerpts from the 2021 Museum Journal .....	69
Museum Regulations .....	70
Museum Operational Regulations .....	71

## はじめに

平成2（1990）年5月に本大学・短期大学の附属施設として開館した東京家政学院生活文化博物館は、創設30周年を超えて、新たな役割と可能性を探ることになりました。令和3年度の活動報告となる本号では、令和3（2021）年10月26日（火）～令和4（2022）年2月4日（金）に開催した第33回特別展『新たな出発点—東京家政学院生活文化博物館の30年—』の全貌を掲載しています。そのタイトルにあるように、文化・歴史的な資産の継承という役割に終わることなく、様々な地域のコミュニティーや企業・研究機関と連携してきた展示表現の成果を捉え直し、新たな活動の次元に進むことを展望した企画となりました。こうした働きかけの自覚は、「学内共催展」、「産官学共催展」、「移管資料展」の三部となった展示構成にも特徴づけられています。そして、資料選定の主たる枠組みとした過去の特別展が掲げた主題そのものが、積極的に社会に開いてきた志向を物語っている事実改めて気づく機会になったことを示しているといえるでしょう。

さらに本号の「展示研究報告」では、新入生やオープンキャンパスに訪れる学生の鑑賞を意図した「東京家政学院の学び」展〔令和3年4月23日（金）から5月27日（金）〕や、「学生たちの贈り物」展〔令和3年6月7日（月）から7月30日（金）〕などの様子を報告しています。いずれも、創立者大江スミの建学の精神や授業に対する考え方、この学舎で学ぶ姿と喜びについて、教科書や作品などから感じてもらうことを期待したものといえます。

また、「学習成果報告」や「教員研究報告」では、現在本学で学ぶ学生の取組み、教員の方々の貴重な研究成果の展示について詳しく記録しております。特に、学生が主体的に学ぶ成果は、昨今地域連携や高大連携事業によって本学を訪れる機会が増えた学外の児童・生徒の目に触れる場面を増やし、次世代を担う方々との対話から当館の新しい役割がより広く展望できることを願っております。

2023年3月

東京家政学院生活文化博物館館長  
立川 泰史

## I 博物館運営委員

令和3年度（2021.4～2022.3）

役職・所属（学部学科）		氏名	適用条項	備考	
博物館長		立川泰史	第3条－(1)	職指定	
学芸員教育委員会委員長		佐藤広美	第3条－(2)	職指定	
大学	現代生活学部	現代家政学科	青柳由佳	第3条－(3)	再任
		生活デザイン学科	佐々木麻紀子	第3条－(3)	再任
		食物学科	高尾純宏	第3条－(3)	再任
		児童学科	阿尾有朋 ※杉野学	第3条－(3)	再任 新任
	人間栄養学部	人間栄養学科	吉野知子	第3条－(3)	再任
附属図書館長		河田敦子	第3条－(4)	職指定	
副学長		山村明子	第3条－(5)	職指定	
副学長		吉永早苗	第3条－(5)	職指定	
大学事務局長		飯谷俊一郎	第3条－(6)	職指定	
学術情報グループ課長		鶴田智也	第3条－(7)	職指定	

※後期から児童学科の運営委員交替

## II 博物館研究員

令和3年度（2021.4～2022.3）

所	属	職名	氏名	分野
大学	現代生活学部	現代家政学科	井澤尚子	被服造形
		生活デザイン学科	深石圭子	住居学
		食物学科	高尾純宏	生活用具論
		児童学科	立川泰史	芸術教育
		現代家政学科	正地里江	被服構成学

## III 受贈資料目録

令和3年（2021.1～2021.12）

寄贈者	品名	点数	受入日
金親香織	雛人形一式	1	2021年5月7日
	秤	1	
	算盤	1	
	皿	4	
	墨つぼ	1	
木下洋子	薬箱	2	2021年7月31日
	振袖	1	
	帯	1	
	和装コート	2	
	喪服	3	
	帯	1	
	留袖	1	
江原絢子	曲尺	1	2021年11月8日
	カーブ尺	2	

## IV 貸出資料一覧

令和3年度（2021.4～2022.3）

貸出先	資料名	点数	貸出期間	利用目的
菱川師宣記念館	うずみ豆腐 雪花菜飯 卵なます 磯菜卵 豆腐田楽 おぼろ大根くずかけ ズズヘイいも 煎りだし蓮根	8	令和3年 12月10日～ 令和4年 3月4日	特別展「江戸グルメ紀行 おいしい浮世 絵展」の展示に利用。 会期：令和3年12月14日（火）～令和4 年2月27日（日） 内容：江戸時代の食にスポットをあて、 浮世絵に描かれた江戸の食文化を紹介す る展覧会。

## V 受贈図書目録

令和3年度(2021.4～2022.3)

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
アイ・ケイ コーポレーション	2021	日本食の文化—原始から現代に至る食のあゆみ—
青森県立郷土館	2020	令和2年度企画展 鎌田清衛写真展「青森の風土と人」解説書
青森県立郷土館	2021	青森県立郷土館報 通巻48号(2021年度)
青森県立郷土館	2021	令和2年度考古資料相互活用促進事業 青森県立郷土館サテライト考古展示室 with 奈良国立博物館収蔵資料
青山学院大学文学部史学研究室	2021	青山史学 第39号
飛鳥資料館	2021	飛鳥資料館秋期特別展図録第74冊 屋根を彩る草花 —飛鳥の軒瓦とその文様
飛鳥資料館	2022	令和3年度 冬期企画展 飛鳥の考古学二〇二一
足立区立郷土博物館	2021	足立区立郷土博物館だより No.75
板橋区教育委員会	2021	第19回櫻井徳太郎賞受賞論文・作文集 歴史民俗研究
一般財団法人 日本手工芸指導協会	2021	手工芸 第55巻第1号
一般財団法人化学及血清療法研究所 ・株式会社りそな銀行・株式会社イビソク	2021	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告89 [TM111] 白金台町五丁目町屋跡遺跡発掘調査報告書
出光美術館	2021	出光美術館館報 第192号
出光美術館	2021	出光美術館館報 第193号
出光美術館	2021	出光美術館研究紀要 第26号(2020年度)
伊能忠敬記念館	2021	伊能忠敬記念館年報 第22号 令和元年度
印刷博物館	2021	印刷博物館ニュース Printing Museum News 季刊第80号
印刷博物館	2021	印刷博物館ニュース Printing Museum News 季刊第83号
浦幌町立博物館	2020	浦幌町立博物館だより 令和2(2020)年3・4月合併号
浦幌町立博物館	2020	浦幌町立博物館だより 令和2(2020)年5月号
浦幌町立博物館	2020	浦幌町立博物館だより 令和2(2020)年6月号
浦幌町立博物館	2020	浦幌町立博物館だより 令和2(2020)年7月号
浦幌町立博物館	2020	浦幌町立博物館だより 令和2(2020)年8月号
浦幌町立博物館	2020	浦幌町立博物館だより 令和2(2020)年9月号
浦幌町立博物館	2020	浦幌町立博物館だより 令和2(2020)年10月号
浦幌町立博物館	2020	浦幌町立博物館だより 令和2(2020)年11月号
浦幌町立博物館	2020	浦幌町立博物館だより 令和2(2020)年12月号
浦幌町立博物館	2021	浦幌町立博物館だより 令和3(2021)年1月号
浦幌町立博物館	2021	浦幌町立博物館だより 令和3(2021)年2月号
浦幌町立博物館	2021	浦幌町立博物館だより 令和3(2021)年3月号
浦幌町立博物館	2021	浦幌町立博物館紀要 第21号
江戸東京たてもの園	2021	江戸東京たてもの園だより 57
江戸東京たてもの園	2021	江戸東京たてもの園だより 58
大磯町郷土資料館	2021	年報 令和2年度
大磯町郷土資料館	2021	資料館資料19 吉田茂関連資料目録(一) 吉田家旧蔵資料
大磯町郷土資料館	2021	資料館資料20 大磯町助役日誌 大正六年一月～十二月
大磯町郷土資料館	2021	資料と証言に見る大磯と戦争
大磯町郷土資料館	2022	Report—大磯町郷土資料館だより—No.42
大阪大谷大学博物館	2021	大阪大谷大学博物館報告書 第68冊 日新誌(一) —明治前期富田林戸長日記—
大阪大谷大学博物館	2021	博物館だより No.130
大阪大谷大学博物館	2021	博物館だより No.131
大阪大谷大学博物館	2022	博物館だより No.132
大阪歴史博物館	2021	大阪歴史博物館年報 令和2年度

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
大阪歴史博物館	2021	なにわ歴博カレンダー No.79
大田区立郷土博物館	2022	大田区立郷土博物館紀要 第24号 令和3(2021)年度
大田区立郷土博物館	2022	企画展 田園調布の遺跡発見!～初代館長、西岡秀雄の足跡～
大田原市なす風土記の丘湯津上資料館 ・大田原市歴史民俗資料館	2021	大田原市なす風土記だより 第2号
大田原市なす風土記の丘湯津上資料館 ・大田原市歴史民俗資料館	2022	大田原市なす風土記だより 第3号
岡山市立オリエント美術館	2021	岡山市立オリエント美術館研究紀要 第32巻
お札と切手の博物館	2021	お札と切手の博物館ニュース Vol.48
お札と切手の博物館	2021	お札と切手の博物館ニュース Vol.49
甲斐黄金村・湯之奥金山博物館	2021	博物館だより 第96号
甲斐黄金村・湯之奥金山博物館	2021	博物館だより 第97号
甲斐黄金村・湯之奥金山博物館	2022	博物館だより 第98号
学習院大学史料館	2021	学習院大学史料館紀要 第27号
学習院大学史料館	2021	学芸員 - Bulletin for Curator's Course No.25
家具の博物館	2021	家具の博物館だより No.80
家具の博物館	2022	家具の博物館だより No.81
鹿児島大学総合研究博物館	2021	鹿児島大学総合研究博物館年報 No.19 2019・2020
鹿児島大学総合研究博物館	2021	鹿児島大学総合研究博物館 News Letter No.46
鹿児島大学総合研究博物館	2021	鹿児島大学総合研究博物館 News Letter No.47
葛飾区郷土と天文の博物館	2021	葛飾区郷土と天文の博物館収蔵古文書目録5 資料編 東京府志料解説集
葛飾区郷土と天文の博物館	2021	博物館だより No.129
葛飾区郷土と天文の博物館	2021	博物館だより No.130
葛飾区郷土と天文の博物館	2021	博物館だより No.131
葛飾区郷土と天文の博物館	2021	令和3年度特別展 戦国時代の漆器—出土品からみた漆器の様相—
神奈川県公園協会	2021	市民協働調査10年の歩み みんなで掘った津久井城
株式会社 悠光堂	2017	「大鏡」作者の位置
株式会社 悠光堂	2021	「大鏡」作者の位置 続編
株式会社イネス	2021	東京都町田市田端遺跡 2021年度 発掘調査報告書
株式会社クマヒラ・ホールディングス	2022	抜萃のつゞり 81
株式会社島田組	2021	神奈川県鎌倉市横小路周辺遺跡 (No.259) 二階堂字横小路98番ほか地点発掘調査報告
株式会社島田組	2021	神奈川県藤沢市川名原・市場遺跡 第2次調査発掘調査報告書
株式会社四門	2021	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告86[TM108-1] 溜池跡遺跡発掘調査報告書
川越市立博物館	2021	東京2020オリンピック・パラリンピック協議大会開催に向けた 記念特別展 霞ヶ関カントリー倶楽部と発智庄平 —川越にオリンピックがやってくるまで—
川崎市市民ミュージアム	2021	2020年度 川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキューの記録集
川崎市市民ミュージアム	2021	川崎市市民ミュージアム紀要 第33集
川崎市市民ミュージアム	2022	川崎市市民ミュージアム紀要 第34集
関西学院大学博物館	2021	祈りの造形
関西学院大学博物館	2021	バリ 布の万華鏡—布が伝える美のこころ—
関西学院大学博物館	2021	第45回キリスト教美術展
関西大学博物館	2020	阡陵 No.81
関西大学博物館	2021	阡陵 No.83
関西大学博物館	2021	関西大学博物館紀要 第27号

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
北区飛鳥山博物館	2021	北区飛鳥山博物館だより ぽいす 46
北区教育委員会	2021	北区飛鳥山博物館研究報告 第23号
北区教育委員会	2021	北区飛鳥山博物館 常設展示案内
岐阜県博物館	2021	岐阜県博物館館報 第44号
岐阜県博物館	2021	岐阜県博物館調査研究報告 第41号
北九州市立自然史・歴史博物館	2021	北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B類 歴史 第18号
九州歴史資料館	2021	九州歴史資料館 研究論集 46
九州歴史資料館	2021	九暦だより 第53号
九州歴史資料館	2021	九暦だより 第54号
行田市郷土博物館	2021	行田市郷土博物館収蔵資料目録 原田庄左衛門家資料目録
行田市郷土博物館	2021	第31回テーマ展 近代日本の写真と出版～原田家と小川一眞～
京都工芸繊維大学美術工芸資料館	2021	2019年度 京都工芸繊維大学美術工芸資料館年報28
京都工芸繊維大学美術工芸資料館	2021	新デザインへの渴望 京都高等工芸学校とドイツ・オーストリアのアル・ヌーヴォー
京都工芸繊維大学美術工芸資料館	2021	開館40周年記念企画展第2弾 美術の教育／教育の美術
京都大学総合博物館	2021	京都大学総合博物館年報 令和2年度(2020年度)
京都大学総合博物館	2021	京都大学総合博物館ニュースレター No.51
京都大学総合博物館	2021	京都大学総合博物館ニュースレター No.52
京都大学総合博物館	2021	京都大学総合博物館ニュースレター No.53
共立女子大学博物館	2021	2020 共立女子大学博物館 年報／紀要
共立女子大学博物館	2022	2021 共立女子大学博物館 年報／紀要 第5号
熊本大学五高記念館	2022	熊本大学五高記念館館報 第4号 2017(平成29)年度～2020(令和2)年度
慶応義塾大学文学部民族学考古学研究室・トキオ文化財株式会社	2021	三田二丁目屋跡遺跡－慶応義塾大学三田キャンパス東別館建て替え 工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－
高知県立高知城歴史博物館	2021	高知県立高知城歴史博物館 城博ニュース Vol.13
高知県立高知城歴史博物館	2021	城博ニュース Vol.14
高知県立高知城歴史博物館	2022	高知城歴史博物館 JOHAKU NEWS Vol.16
高知県立歴史民俗資料館	2021	高知県立歴史民俗資料館年報 令和2年度 No.30
高知県立歴史民俗資料館	2021	岡豊風日 第111号
高知県立歴史民俗資料館	2021	岡豊風日 第112号
高知県立歴史民俗資料館	2021	岡豊風日 第113号
高知県立歴史民俗資料館	2021	岡豊風日 第114号
高知県立歴史民俗資料館	2022	岡豊風日 第115号
GOEN 出版	2022	鳥根県立古代出雲歴史博物館 【企画展】出雲と都を結ぶ道—古代山陰道—
國學院大學博物館	2022	國學院大學博物館研究報告 第38輯
国士舘大学イラク古代文化研究所	2021	ラーフィダーン 第XLⅡ巻 2021
国文学研究資料館	2021	データ駆動による課題解決型人文学の創成
国文学研究資料館 ・古典籍共同研究事業センター	2021	ふみ 「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」 ニュースレター 第16号
国文学研究資料館 ・古典籍共同研究事業センター	2022	ふみ 「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」 ニュースレター 第17号
國華清話会・國華社	2021	「國華清話会」会報 第38号 令和3年秋刊
相模原市	2021	相模原市埋蔵文化財調査報告 61 青野原下原遺跡 高度処理型浄化槽設置工事に伴う発掘調査
相模原市教育委員会	2021	相模原市埋蔵文化財調査報告 59 国指定史跡 寸沢嵐石器時代遺跡 —史跡指定90周年の顕彰と再評価—

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
相模原市教育委員会	2021	相模原市埋蔵文化財調査報告 60 太井己遺跡第5地点 —店舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—
相模原市教育委員会	2021	相模原市埋蔵文化財発掘調査 63 上溝4丁目彼岸沢遺跡 第7地点 —保育園建替えに伴う発掘調査報告書—
相模原市立博物館	2021	相模原市立博物館 研究報告 第29集
相模原市立博物館	2021	相模原市埋蔵文化財調査報告 62 津久井城跡 —城坂曲輪群1～5号曲輪の市民協働調査—
相模原市立博物館	2021	変化の時代を生きた縄文人 相模原市域の縄文時代中・後期文化
笹川保健財団	2021	国立ハンセン病資料館 資料館だより No.112
札幌国際芸術祭実行委員会・札幌市	2021	SIAF Lab ARCHIVE 2018-2020   SIAF ラボ活動報告書
サントリーホール	2021	サントリーホール情報誌『Hibiki』Vol.15
サントリーホール	2022	SUNTORY HALL CONCERT CALENDER 2022-23
サントリー美術館	2021	サントリー美術館ニュース vol.283
サントリー美術館	2021	サントリー美術館ニュース vol.284
サントリー美術館	2021	サントリー美術館ニュース vol.285
サントリー美術館	2021	サントリー美術館ニュース vol.286
サントリー美術館	2022	サントリー美術館ニュース vol.287
実践女子大学香雪記念資料館	2021	実践女子大学香雪記念資料館館報 第18号 2020年度
品川区立品川歴史館	2021	品川歴史館紀要 第36号
品川区立品川歴史館	2021	令和3年度 品川区立品川歴史館特別展 変わりゆく品川の風景
鳥根県教育委員会	2021	鳥根県古代文化センター調査研究報告書56 鳥根県西川津遺跡出土品1 鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センター所蔵資料再整理事業報告書2
鳥根県教育委員会	2021	鳥根県古代文化センター研究論集 第25集 山陰弥生文化の形成過程
鳥根県教育委員会	2021	鳥根県古代文化センター研究論集 第26集 日本書紀と出雲観
鳥根県教育委員会	2021	古代文化研究 第29号
鳥根県教育委員会	2021	鳥根県立古代出雲歴史博物館所蔵 影印 出雲風土記鈔(雲州風土記)
鳥根県立古代出雲歴史博物館	2021	鳥根県立古代出雲歴史博物館 令和2(2020)年度 年報
城西国際大学水田美術館	2021	相撲浮世絵 房総の力士そろい踏み
昭和館	2021	昭和館館報 第22号(令和2年度)
昭和館	2021	昭和のくらし研究 第19号
昭和館	2021	昭和館特別企画展図録 ポスターのちから ～変化する役割と広がるデザイン～
昭和館	2022	昭和館特別企画展図録『SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク ～挿絵画家 椛島勝一と小松崎茂の世界～』
昭和女子大学光葉博物館	2021	秋の特別展「被爆者の足跡—被団協関連文書の歴史的研究から—」
女子美術大学美術館	2021	2019年度 女子美術大学美術館年報(第18号)
女子美術大学美術館	2021	ニケプレス vol.16 齊藤彩展
新橋田村町地区市街地再開発組合 ・株式会社パスコ	2021	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告85[TM199] 港区No.199遺跡発掘調査報告書
杉並区立郷土博物館分館	2021	令和3年度 区民参加型展示 昭和は遠くなりにけり —めずらしい戦前の報道写真—
杉野学園衣裳博物館	2021	杉野学園衣裳博物館年報 3 (2015年4月—2020年3月)
住友不動産株式会社・国際文化財株式会社	2020	東京都新宿区下落合二丁目遺跡 —集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
駿府博物館	2021	駿府博物館50周年 所蔵名品図録
成城大学民俗学研究所	2021	民俗学研究所紀要 第四十五集
成城大学民俗学研究所	2021	民俗学研究所紀要 第四十五集 別冊
成城大学民俗学研究所	2021	民俗学研究所ニュース No.132

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
成城大学民俗学研究所	2021	民俗学研究所ニュース No.133
成城大学民俗学研究所	2021	民俗学研究所ニュース No.134
成城大学民俗学研究所	2022	民俗学研究所ニュース No.135
世田谷区立郷土資料館	2021	資料館だより No.73
世田谷区立郷土資料館	2021	資料館だより No.74
世田谷区立郷土資料館	2021	令和3年度特別展 多摩川と世田谷の人々
全国大学博物館学協議会	2022	全博協 研究紀要 第24号
全国大学博物館学協議会	2022	全博協会報 59
全国大学博物館学講座協議会	2021	全博協研究紀要 第23号
全国大学博物館学講座協議会	2021	全博協会報 58
仙台市教育委員会	2021	仙台市歴史民俗資料館 年報2021
仙台市教育委員会	2021	調査報告書第39集 足元からみる民俗29 -失われた伝承・変容する伝承・新たなる伝承-
仙台市教育委員会	2021	仙台市歴史民俗資料館 資料館だより No.53
仙台市教育委員会	2021	特別展図録 和の道具〜くらしの知恵と工夫〜
仙台市教育委員会	2021	仙台市歴史民俗資料館 常設展示図録
仙台市教育委員会	2021	仙台市歴史民俗資料館 資料集第19冊 収蔵資料目録 (IX)
大正大学教務課学芸員課程	2021	けやき 大正大学学芸員課程年報 第25号 (令和2年度)
大和地所レジデンス株式会社	2022	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告90[TM215] 越後長岡藩牧野家屋敷跡第4遺跡発掘調査報告書
鷹陵史学会	2021	鷹陵史学 第47号
たばこと塩の博物館	2021	2020年度版 たばこと塩の博物館 年報 (36号)
たばこと塩の博物館	2021	たばこ盆 地味な立ち位置・たしかな仕事
玉川大学教育博物館	2021	玉川大学教育博物館 館報 第19号 2020年度
玉川大学教育博物館	2021	玉川大学教育博物館 紀要 第18号
玉川大学教育博物館	2021	博物館ニュース SHÛ No.56
玉川大学教育博物館	2021	博物館ニュース SHÛ No.57
たましん地域文化財団	2021	多摩のあゆみ 第182号
たましん地域文化財団	2021	多摩のあゆみ 第183号
たましん地域文化財団	2021	多摩のあゆみ 第184号
たましん地域文化財団	2022	多摩のあゆみ 第185号
多摩美術大学・多摩美術大学博物館	2021	現代日本画の系譜 タマビDNA
たまろくミュージアム多文化共生推進実行委員会	2021	令和2年度文化庁文化芸術振興費補助金 「地域と共働した博物館創造活動支援事業」 ミュージアムを中心とした地域の多文化共生プロジェクト報告書
筑紫女学園大学文学部博物館学芸員課程	2021	博物館実習体験記『学芸員の星たち』
千葉県立加曽利貝塚博物館	2021	貝塚博物館紀要 第47号
千葉県立加曽利貝塚博物館	2022	貝塚博物館紀要 第48号
千葉県立関宿城博物館	2021	令和3年度企画展図録 関宿関所は川関所?
千葉市美術館	2020	千葉市美術館研究紀要 採蓮 第22号
千葉市美術館	2021	千葉市美術館研究紀要 採蓮 第23号
通信文化協会 博物館部	2021	令和2年度郵政博物館 年報
筑波大学人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群人文学学位 プログラム歴史・人類学サブプログラム	2021	筑波大学先史学・考古学研究 第32号
土浦市立博物館	2021	土浦市立博物館年報 第33号
土浦市立博物館	2021	土浦市立博物館紀要 第31号

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
土浦市立博物館	2021	土浦市立博物館第42回特別展 東城寺と「山ノ荘」 —古代からのタイムカプセル、未来へ—
土浦市立博物館	2021	土浦市立博物館夏休みファミリーミュージアムテーマ展 先人たちのうでくらべ Part II—土浦藩士たちの武芸—
土浦市立博物館	2021	土浦市立博物館テーマ展 災害の記憶をたどる
都留市博物館「ミュージアム都留」	2020	崇高なる造形 日本刀 名刀と名作から識る武士の美学
都留市博物館「ミュージアム都留」	2021	生誕100年展 増田誠—パリに描いた知られざる人生—
天理大学出版部	2021	天理参考館報 第34号
東京家政大学博物館	2020	東京家政大学博物館年報 令和元年度
東京家政大学博物館	2022	東京家政大学博物館年報 令和2年度
東京工芸大学芸術学部	2021	東京工芸大学写大ギャラリー年報 Annual Report 2020
東京大学駒場博物館	2021	宇佐美圭司 よみがえる画家
東京大学大学院人文社会系	2021	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部美術史研究室紀要 美術史 論叢 37
東京都江戸東京博物館	2021	東京都江戸東京博物館紀要 第11号
東京都江戸東京博物館	2022	東京都江戸東京博物館紀要 第12号
東京都教育庁地域教育支援部管理課	2021	文化財の保護 第54号
東京都三多摩公立博物館協議会 2020年度会長 調布市郷土博物館	2021	東京都三多摩公立博物館協議会会報 ミュージアム多摩 No.42
東京都埋蔵文化財センター	2020	たまのよこやま 123
東京都埋蔵文化財センター	2021	たまのよこやま 124
東京都埋蔵文化財センター	2021	たまのよこやま 125
東京都埋蔵文化財センター	2021	たまのよこやま 126
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター 年報41
東京都埋蔵文化財センター	2021	令和3年度企画展示『現場のミカタ』解説冊子
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第350集 新宿区四谷一丁目遺跡 —東京都市計画四谷駅前地区第一種市街地再開発事業に伴う調査— 正誤図表
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第360集 三鷹市北野遺跡 —三鷹3・4・12号街路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第361集 新宿区市谷本村町遺跡 —国土交通省建設事業に伴う調査—
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第362集 中央区築地市場跡遺跡 —東京都市計画道路環状2号線(築地)整備事業に伴う埋蔵文化財 発掘調査—
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第363集 新宿区市谷薬王寺町 遺跡X—旧薬王寺宿舍埋蔵文化財包蔵地の発掘調査—
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第364集 豊島区长崎一丁目周辺 遺跡—都道補助第172号線整備事業に伴う調査—
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第365集 八王子市No.987遺跡 —一般国道20号(八王子市南バイパス)建設事業に伴う埋蔵文化財調査
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第366集 八王子市館町龍見寺裏 山地区遺跡II・日南田遺跡IV—一般国道20号(八王子南バイパス) 建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査— 第1分冊
東京都埋蔵文化財センター	2021	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第366集 八王子市館町龍見寺裏 山地区遺跡II・日南田遺跡IV—一般国道20号(八王子南バイパス) 建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査— 第2分冊
東京都埋蔵文化財センター	2022	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第367集 港区高輪南町遺跡 —東京都市計画道路事業幹線街路環状第4号線整備に伴う 旧衆議院高輪議員宿舍跡地埋蔵文化財発掘調査—第1分冊

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
東京都埋蔵文化財センター	2022	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第367集 港区高輪南町遺跡—東京都市計画道路事業幹線街路環状第4号線整備に伴う旧衆議院高輪議員宿舎跡地埋蔵文化財発掘調査—第2分冊
東京都埋蔵文化財センター	2022	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第368集 日野市平山遺跡—一般国道20号(日野バイパス(延伸))建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 その1—
東京都埋蔵文化財センター	2022	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第369集 日野市川辺堀之内遺跡・No.16遺跡—一般国道20号(日野バイパス(延伸))建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—第2分冊(日野市No.16遺跡)
東京都埋蔵文化財センター	2022	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第369集 日野市川辺堀之内遺跡・No.16遺跡—一般国道20号(日野バイパス(延伸))建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—第2分冊(川辺堀之内遺跡)
東京都埋蔵文化財センター	2022	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第370集 世田谷区下野田遺跡—東京外かく環状道路(世田谷区喜多見六丁目地区)建設事業に伴う調査—第1分冊
東京都埋蔵文化財センター	2022	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第370集 世田谷区下野田遺跡—東京外かく環状道路(世田谷区喜多見六丁目地区)建設事業に伴う調査—第2分冊
東京都埋蔵文化財センター	2022	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第371集 福生市長沢遺跡(第十次調査)—東京消防庁福生消防署庁舎改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—
東京農業大学「食と農」の博物館	2021	東京農業大学「食と農」の博物館年報 2017・2018・2019
東北歴史博物館	2021	東北歴史博物館 令和2年度年報
東洋海事工業株式会社 ・国際文化財株式会社	2021	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告82[TM205] 旗本土方家屋敷跡遺跡発掘調査報告書
TOTO出版	2021	東京に生きた縄文人
徳島県埋蔵文化財センター	2021	徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.32 - 令和2(2020)年度 -
徳島県立近代美術館	2021	徳島県立近代美術館研究紀要 第21号
取手市埋蔵文化財センター	2021	取手市制施行50周年記念・第48回企画展 取手の発掘50年史
取手市埋蔵文化財センター	2021	市制施行50周年・『目で見る取手の歩み』発刊記念企画展 昭和・平成時代の取手
長崎純心大学博物館	2021	純心 博物館だより No.39
長崎純心大学博物館	2021	純心 博物館だより No.40
奈良県立民俗博物館	2021	奈良県立民俗博物館だより Vol.46 No.1
奈良国立博物館	2021	奈良国立博物館だより 第117号
奈良国立博物館	2021	奈良国立博物館だより 第118号
奈良国立博物館	2021	奈良国立博物館だより 第119号
奈良国立博物館	2022	奈良国立博物館だより 第120号
南山大学人類学博物館	2022	南山大学人類学博物館紀要 第40号
新潟県立歴史博物館	2021	新潟県立歴史博物館研究紀要 第22号
新潟県立歴史博物館	2022	新潟県立歴史博物館研究紀要 第23号
新島村教育委員会・新島村博物館	2021	2019年度 新島村博物館年報
「日蓮聖人と法華文化」展実行委員会 ・新潟県立歴史博物館・山梨県立博物館	2021	日蓮聖人と法華文化
日本芸術文化振興会日本博事務局	2021	「日本博」開催に係る効果検証報告書
日本考古学協会	2021	日本考古学年報73(2020年度版)
日本考古学協会	2021	日本考古学 第52号
日本考古学協会	2021	日本考古学 第53号
日本博物館協会	2021	令和3年度 会員名簿
日本博物館協会	2021	博物館研究 Vol.56 No.4

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
日本博物館協会	2021	博物館研究 Vol.56 No.5
日本博物館協会	2021	博物館研究 Vol.56 No.6
日本博物館協会	2021	博物館研究 Vol.56 No.7
日本博物館協会	2021	博物館研究 Vol.56 No.8
日本博物館協会	2021	博物館研究 Vol.56 No.9
日本博物館協会	2021	博物館研究 Vol.56 No.10
日本博物館協会	2021	博物館研究 Vol.56 No.11
日本博物館協会	2021	博物館研究 Vol.56 No.12
日本博物館協会	2022	博物館研究 Vol.57 No.1
日本博物館協会	2022	博物館研究 Vol.57 No.2
日本博物館協会	2022	博物館研究 Vol.57 No.3
日本福音ルーテル帯広教会記念誌編集委員会	2021	浦幌町立博物館企画展図録 信仰の灯は永遠に 日本福音ルーテル池田教会と吉田康登牧師の足跡
日本文化財保護協会	2021	公益財団法人日本文化財保護協会 紀要 第5号 2021.8
日本ミュージアム・マネジメント学会	2021	日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要 第25号
練馬区立石神井公園ふるさと文化館	2021	資料集「スポーツの祭典1964—オリンピックと練馬—」
練馬区立石神井公園ふるさと文化館	2021	練馬の集団学童疎開資料集 東京第三師範学校附属国民学校の学童 集団疎開
練馬区立石神井公園ふるさと文化館	2021	石神井公園ふるさと文化館ニュース Vol.41
練馬区立石神井公園ふるさと文化館	2021	石神井公園ふるさと文化館ニュース Vol.42
練馬区立石神井公園ふるさと文化館	2022	石神井公園ふるさと文化館ニュース Vol.43
野田市郷土博物館	2021	野田の桃源郷～漢詩文にみる岩名桃林と座生沼～
野田市郷土博物館・市民会館	2022	野田市郷土博物館 市民会館 年報・紀要 第14号 2020年度
ハーベスト出版	2021	COME on 山陰弥生ライフ—米作り、はじめました。—
浜松町二丁目地区市街地再開発組合	2021	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告88[TM210] 相模小田原藩 大久保家屋敷跡第2・北新網町町屋跡遺跡—浜松町二丁目地区 第一種市街地再開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—
菱川師宣記念館	2021	「江戸グルメ紀行 おいしい浮世絵展」図録
日立市郷土博物館	2020	市民と博物館 第135号
日立市郷土博物館	2020	市民と博物館 第136号
日立市郷土博物館	2020	市民と博物館 第137号
日立市郷土博物館	2021	市民と博物館 第138号
平塚市博物館	2021	平塚市博物館年報 第44号
平塚市博物館	2021	平塚市博物館研究報告 自然と文化 第44号
平塚市博物館	2021	聞き書き集 記憶をつないで 第4集
福岡市博物館	2020	福岡市博物館 研究紀要 第29号
福岡市博物館	2021	福岡市博物館 研究紀要 第30号
福岡市博物館	2020	平成29(2017)年度収集 収蔵品目録 35
福岡市博物館	2021	平成30(2018)年度収集 収蔵品目録 36
藤沢市教育委員会	2021	藤沢市埋蔵文化財調査報告 第5集 神奈川県藤沢市西俣野 御所ヶ谷遺跡 第3次調査発掘調査報告書
藤沢市教育委員会	2021	藤沢市埋蔵文化財調査報告 第6集 神奈川県藤沢市大庭羽根沢東遺跡 第7次調査発掘調査報告書
藤沢市教育委員会	2021	藤沢市埋蔵文化財調査報告 第7集 神奈川県藤沢市内遺跡試掘 ・確認調査報告2—平成4(1992)年・平成5(1993)年度実施の 埋蔵文化財試掘・確認調査—
藤沢市教育委員会	2021	藤沢市埋蔵文化財調査報告 第8集 神奈川県藤沢市大庭城跡 —第24次・第25次発掘調査報告書—

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
武相文化財研究所	2021	神奈川県厚木市厚木町上町遺跡
武相文化財研究所	2021	神奈川県鎌倉市若宮大路周辺遺跡群(鎌倉市小町一丁目81番10地点)
武相文化財研究所	2021	神奈川県平塚市寺尾遺跡 第4地点
府中市文化スポーツ部文化生涯学習課 ・ふちゅう生涯学習センター共同事業体	2021	府中市生涯学習センター 生涯楽習だより 第75号
府中市文化スポーツ部文化生涯学習課 ・ふちゅう生涯学習センター共同事業体	2021	府中市生涯学習センター 生涯楽習だより 第76号
府中市文化スポーツ部文化生涯学習課 ・ふちゅう生涯学習センター共同事業体	2021	府中市生涯学習センター 生涯楽習だより 第77号
府中市文化スポーツ部文化生涯学習課 ・ふちゅう生涯学習センター共同事業体	2021	府中市生涯楽習センター 生涯楽習だより 第78号
船橋市教育委員会・船橋市郷土資料館 ・飛ノ台史跡公園博物館	2021	みゅーじあむ・船橋 第16号
船橋市教育委員会・船橋市郷土資料館 ・飛ノ台史跡公園博物館	2021	みゅーじあむ・船橋 第17号
船橋市郷土資料館	2021	令和2年度 船橋市郷土資料館年報
文化庁	2021	紀の国わかやま文化祭2021 関連特別展 和歌山と皇室 —宮内庁三の丸尚蔵館名品展—
文化庁文化財第二課	2022	水中遺跡ハンドブック
文京区	2021	文京ふるさと歴史館年報 第24号(令和2年度)
文京区アカデミー推進部 アカデミー推進課文化資源担当室 (文京ふるさと歴史館)	2021	令和3年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業
文京ふるさと歴史館	2021	文京ふるさと歴史館だより 第28号
文京ふるさと歴史館友の会事務局	2021	文京ふるさと歴史館「友の会」だより増刊号X X IX 花時計
法政大学資格課程	2021	法政大学資格課程年報 Vol.10 2020年度
法政大学文学部	2021	法政大学文学部紀要 第83号 令和3年度
HOSEIミュージアム	2022	HOSEIミュージアム紀要 第2号・法政大学史資料集 第40集
北海道立北方民族博物館	2021	令和2年度年報
北海道立北方民族博物館	2021	北海道立北方民族博物館資料目録16 山口吉彦コレクション
北海道立北方民族博物館	2021	北方民族博物館だより No.120
北海道立北方民族博物館	2021	北方民族博物館だより No.121
北海道立北方民族博物館	2021	北方民族博物館だより No.122
北海道立北方民族博物館	2021	北方民族博物館だより No.123
北海道立北方民族博物館	2021	北海道立北方民族博物館第36回特別展図録 トナカイと暮らす —タイガの遊牧民たち Living with Reindeer—Herders of the Taiga
町田市教育委員会	2020	町田市文化財年報 2017年度
町田市教育委員会	2020	町田市文化財年報 2018年度
町田市教育委員会	2021	町田市文化財年報 2019年度
町田市教育委員会	2022	町田市文化財年報 2020年度
町田市教育委員会	2021	自由民権 34号
町田市教育委員会	2021	武相近代資料集1—1 村野日誌1 明治42—43年
町田市立博物館	2021	和菓子×工芸—町田市立博物館所蔵品より—
「守れ!文化財～モノとヒトに 光を灯す～」事業実行委員会	2021	守れ!文化財～モノとヒトに光を灯す～ 2020年度事業報告書
三重県総合博物館	2021	みえんしす 33号
三重県総合博物館	2021	みえんしす 34号
三重県総合博物館	2022	みえんしす 35号
三重県総合博物館	2022	みえんしす 36号

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
みえむプロジェクト実行委員会	2022	令和3年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業 地域をつなぐ伊勢参り再発見プロジェクト 活動の記録
港区教育委員会	2020	令和2年度港区指定文化財
港区教育委員会	2021	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告83[TM145] 承教寺跡・承教寺門前町屋敷遺跡発掘調査報告書Ⅱ
港区教育委員会	2021	港区立郷土歴史館特別展 江戸の武家屋敷—政治・生活・文化の舞台—
港区教育委員会	2021	港区立郷土歴史館特別展 人形一人とともにあるもの—
港区教育委員会	2021	港区立郷土歴史館 常設展示図録
港区立郷土歴史館	2021	港区立郷土歴史館 館報 -1- 平成30(2018)年度・令和元(2019)年度
港区立郷土歴史館	2021	港区立郷土歴史館 研究紀要1
港区立郷土歴史館	2021	歴史館ニュース 第7号
港区立郷土歴史館	2021	歴史館ニュース 第8号
港区立郷土歴史館	2021	歴史館ニュース 第9号
港区立郷土歴史館	2021	歴史館ニュース 第10号
港区立郷土歴史館	2021	歴史館だより 第7号
港区立郷土歴史館	2021	歴史館だより 第8号
港区立郷土歴史館	2021	歴史館だより 第9号
港区立郷土歴史館	2021	歴史館だより 第10号
港区立郷土歴史館	2021	歴史館ファイル 第2号
港区立郷土歴史館	2022	歴史館ファイル 第3号
武庫川女子大学附属総合ミュージアム	2021	2021年度 武庫川女子大学附属総合ミュージアム 秋季展 王朝文化(ロイヤリティ)へのまなざし—戦前期女子教育における—
八千代市立郷土博物館	2021	八千代市立郷土博物館 館報 No.27(令和2年度)
横浜市ふるさと歴史財団	2020	横浜ユーラシア文化館紀要 第8号
横浜市ふるさと歴史財団	2021	横浜ユーラシア文化館紀要 第9号
横浜市ふるさと歴史財団	2021	横浜ユーラシア文化館ニュース 第36号
横浜市ふるさと歴史財団	2021	横浜ユーラシア文化館ニュース 第35号
横浜市ふるさと歴史財団	2021	横浜市歴史博物館紀要 第25号
横浜市ふるさと歴史財団	2021	横浜市歴史博物館調査研究報告 第17号 横浜市港南区最戸 笠原市郎氏旧蔵 笠原靖幸氏所蔵資料目録
横浜市ふるさと歴史財団	2021	戦後大衆文化史の軌跡 緒形拳とその時代
横浜市ふるさと歴史財団 ・横浜市歴史博物館	2021	横浜市歴史博物館資料目録 第29集
横浜ユーラシア文化館	2020	杏咲く頃—絵筆と歩いたシルクロード 小間嘉幸絵画展
立正大学博物館	2021	立正大学博物館年報 19 令和2(2020)年度
立正大学博物館	2021	立正大学博物館館報 万吉だより 第32号
立正大学博物館	2022	万吉だより 第34号
立正大学博物館	2021	立正大学博物館 第15回特別展 立正の考古学
立正大学博物館	2021	立正大学博物館 第15回企画展図録 瓦塔と瓦堂
立正大学博物館	2021	館蔵資料「基礎文献」叢刊 第9輯 吉田格コレクション 城ノ台北貝塚・子母口貝塚考古資料
立正大学博物館学芸員課程	2021	立正大学博物館学芸員課程年報 第23号
立正大学文学館図書館司書課程	2021	立正大学図書館司書課程年報 第7号(2021)
立命館大学国際平和ミュージアム	2021	立命館大学国際平和ミュージアム紀要 立命館平和研究 第22号
立命館大学国際平和ミュージアム	2021	立命館大学国際平和ミュージアム資料研究報告 第5号
立命館大学国際平和ミュージアム	2021	立命館大学国際平和ミュージアムだより 第29巻第1号
立命館大学国際平和ミュージアム	2021	立命館大学国際平和ミュージアムだより 第29巻第2号

寄贈・発行者	発行年	書名(巻・号)
立命館大学国際平和ミュージアム	2022	立命館大学国際平和ミュージアムだより 第29号 第3号
立命館大学国際平和ミュージアム	2022	立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要—第23号
和歌山県立博物館	2021	和歌山県立博物館研究紀要 27号
和歌山県立博物館	2021	博物館だより 第26号
和歌山県立博物館	2021	特別展 きのくに 刀剣ワールド
和歌山県立博物館	2021	きのくにの宗教美術—神仏のさまざまな姿—
和歌山県立博物館	2021	和歌山県立博物館創立50周年記念 特別展 きのくにの名宝 和歌山県の国宝・重要文化財
和歌山市	2021	特別展「加太淡嶋神社展—女性・漁民の祈り—」
早稲田大学會津八一記念博物館	2021	早稲田大学會津八一記念博物館 研究紀要 第22号
早稲田大学會津八一記念博物館	2021	山内清男コレクション受贈記念 山内清男の考古学

## 令和3年度第10回企画展 「学生たちの贈り物」

川本 利恵\*

### はじめに

令和3(2021)年6月7日(月)から7月30日(金)の期間、企画展「学生たちの贈り物」を開催した。

昨年度に引き続き今回も8月までに開催されるオープンキャンパスのために、前回開催した「学学生成果展」から引きついだ作品とともに、収蔵資料の中からテーマを決めて選定し、まとめることにした。

### 1. タイトルの決定

例年、5月から8月にかけての企画は収蔵資料を中心に構成しているが、上記のようにオープンキャンパスで来校する高校生にも見てもらえるよう「学学生成果展」の中から、延長してもよいとの了解を得た染色品や建築模型、装飾品、実習報告などを引き続き展示することに決まった。それ以外で展示ケース1台から2台分にまとまる程度の資料と点数を選定することにした。

今回は作品ではなく活動報告もあるため、学生の作品や調査研究の報告は学生自身の学びの成果であるとともに大学の教育の成果でもあることをふまえ、学生から大学への贈り物と捉え、タイトルを「学生たちの贈り物」とした。

### 2. 展示構成

学生の作品以外では、卒業記念として寄贈された資料も展示することにした。展示資料は、平成8(1996)年度の博物館実習に関連して実習生から寄贈された郷土玩具13点、平成22(2010)年度特別展に際して児童学科から提供を受けた創作おもちゃ33点、旧人文学部平成2(1990)年度卒業生からの寄付金により購入したチェコのセーブル花瓶1点、旧人文学部平成4(1992)年度卒業生からの寄付金により購入した中国の彩文土器1点、旧人文学部日本文化学科平成8(1996)年度卒業生からの寄付金により購入したタイのバンチェン土器2点を選んだ。

### 3. 印刷物

A4判ポスター(写真1)を作成し、その裏面に資料リストを印刷した。

ポスターは大判コピー機でA1判大に印刷し、入口の扉やボードに貼り、A4・A3判で印刷したものを校内の掲示板に貼って学内者へ向けての広報とした。



写真1 ポスター

### 4. 展示作業

当館には、全体がガラス張りの「大ケース」と大ケースの高さ半分あたりから上部がガラス張りの「中ケース」、上からのぞき見る高さの「のぞきケース」、中ケースの幅半分の大きさの「柱ケース」と称する通常4種類の展示ケースがあり、それぞれに資料を振り分けていった。

入口を入れて窓側に向かう壁際の大ケース2台に友禪染の浴衣(写真2)とドレスを入れ、窓側に沿って中ケース4台を並べ、それぞれに絞り染のTシャツ・トレーナー(写真3)と、建築模型(写真4)3点を入

\*川本 利恵(かわもと りえ) 令和3年度生活文化博物館学芸員

れた。そこから直角に中ケース、大ケース1台を並べ、先のケースには金網を取り付け、「図画工作科教育」の報告書パネル(写真5)を掛けた。次のケースには風神雷神図屏風からヒントを得、その図を刺繍模様として取り付けたブラジャーと付け衿をそれぞれ着せたトルソー2体を入れた。またそこから直角に配した中ケース2台に創作おもちゃ(写真6)を入れ、続く中ケース1台に彩文土器とセーブル花瓶(写真7)を入れた。最後に柱ケースを2台並べ、それぞれにバンチェン土器を1点ずつ入れた。その向かいの壁面には本学創立期の写真パネルを貼った。

次に展示室中央にのぞきケースを2台と柱ケース2台を背中合わせにして島をつくり、のぞきケースには郷土館具(写真8)を入れ、柱ケースには、スチームパンクをイメージした装飾品(写真9)と浴衣の着付けに関する絵本をそれぞれ入れた。その向かいの壁面には、令和2年度実践健康栄養プロデュース実習の報告パネル(写真10)を貼った。



写真4 建築模型



写真5 「図画工作科教育」報告パネル



写真2 友禅染の浴衣



写真6 創作おもちゃ



写真3 絞り染による衣服のリフォーム



写真7 彩文土器、セーブル花瓶

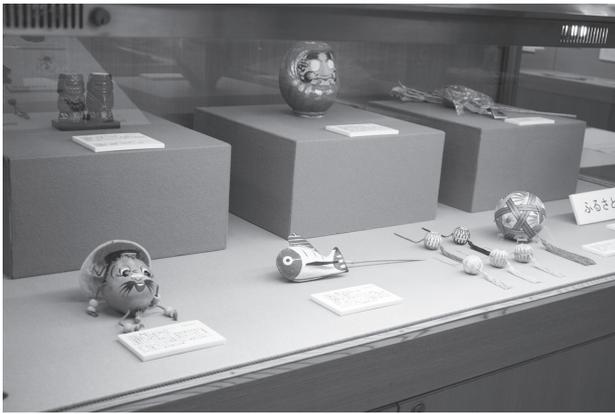


写真8 郷土玩具

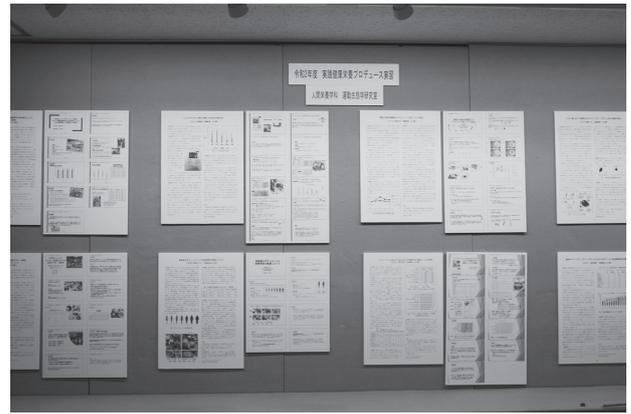


写真10 「実践健康栄養プロデュース実習」 報告パネル



写真9 スチームパンクをイメージした装飾品

おわりに

今年も新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため、見学に際しては他館同様当館も予約制をとることとした。そしてマスクの着用、手指の消毒についても提示して促した。

今回の展覧会についても上記した開催日には緊急事態宣言が発出されていたため休館が続き、実際は6月21日（月）からの開館となった。その後、宣言が解除されたとはいえ、やはり出控えされる方が多いのか、残念ながら見学者は少なかった。

## 展示資料一覧

番号	タイトル	年代	作者・製作地
1	友禅染の浴衣	令和3年(2021)	生活デザイン学科 4年 岡田李恋
2	手描き染を用いたダンス衣装	令和3年(2021)	生活デザイン学科 4年 加藤こと実
3	絞り染による衣服のリフォーム	令和3年(2021)	生活デザイン学科 4年 渡邊晴南
4	connect	令和3年(2021)	生活デザイン学科 4年 小澤優香
5	み「鷹」館 —東京都三鷹市における美術館兼熱帯鳥温室—	令和3年(2021)	生活デザイン学科 4年 奥山紗与
6	水と空を感じる思い出づくり —渡良瀬遊水地に建つ複合施設—	令和3年(2021)	生活デザイン学科 4年 小師佳奈
7	図画工作科教育	令和3年(2021)	児童学科1年次 受講生一同
8	日本古美術の屏風から発想した衣服 (ブラジャー・付け襟)	令和3年(2021)	生活デザイン学科 4年 久保真彩
9	浴衣の着付けに関する絵本・着付け人形	令和3年(2021)	生活デザイン学科 4年 馬場倫加
10	スチームパンクをイメージした装飾品	令和3年(2021)	生活デザイン学科 4年 渡邊唯香
11	小学生ジュニアサッカー合宿における運動練習時の自由飲水による水分補給量と体重減少の関係	令和2年(2020)	人間栄養学科 4年 菅井鈴乃
12	小学生ジュニアサッカー合宿における食育サポート事例 喫食時の好き嫌いへの働きかけについて	令和2年(2020)	人間栄養学科 4年 齋藤里月
13	ジュニアサッカー合宿に持参した弁当の内容分析	令和2年(2020)	人間栄養学科 4年 間染稀
14	高齢者のボディイメージと食事摂取の関連について	令和2年(2020)	人間栄養学科 4年 高柳ひかり
15	捕食の食後血糖値からアスリートに向いている食品	令和2年(2020)	人間栄養学科 4年 木曾花衣
16	パフォーマンス向上のための女子大学選手向け簡単レシピの開発	令和2年(2020)	人間栄養学科 4年 竹原万祐
17	コロナ禍における高校女子チアリーディングチーム向け食育の試み	令和2年(2020)	人間栄養学科 4年 磯めぐみ
18	高校チアリーディングトップチームにおけるポジション別栄養摂取状況調査	令和2年(2020)	人間栄養学科 4年 酒井美岬
19	総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツ栄養サポート活動	令和2年(2020)	2016・2017年度 人間栄養学科入学生
20	Tシャツ・ Poloシャツ	令和3年(2021)	人間栄養学科 運動生態学研究室
21	紀州鞠(きしゅうまり)	平成8年(1996)	和歌山県南部町 寄贈者: 峯野和恵
22	黄鮒(きぶな)	平成8年(1996)	栃木県宇都宮市 小川昌信 作 寄贈者: 戸田裕子
23	瓢細工(ふくべさいく)	平成8年(1996)	栃木県宇都宮市 寄贈者: 戸田裕子
24	鬼子母神のミミズク	平成8年(1996)	東京都豊島区 鬼子母神 飯塚喜代子 作 寄贈者: 伊藤康子
25	白河だるま	平成8年(1996)	福島県白河市横町 佐川平吉(8代目) 作 寄贈者: 北川真理子
26	アイヌ人形(ニッポポ) 男・女	平成8年(1996)	北海道函館市 大沼公園 寄贈者: 谷山晃子・梅原愛
27	ずぼんぼ	平成8年(1996)	東京都台東区浅草 助六 寄贈者: 大沢真弓

番号	タイトル	年代	作者・製作地
28	川越扇凧（おうぎだこ）	平成8年（1996）	埼玉県富士見市 大曾根力男 作 寄贈者：渡辺倫子
29	力士独楽（りきしこま）	平成8年（1996）	東京都港区虎ノ門 寄贈者：増子清佳
30	竹トンボ	平成8年（1996）	東京都多摩市関戸 寄贈者：永井友子
31	ゲッチョウ	平成8年（1996）	沖縄県詠谷村 寄贈者：奥間圭子
32	カッコウ笛	平成8年（1996）	長野県上高井郡小布施町 祥雲寺 須坂土笛の会事務局 （山岸鷲雄） 作 寄贈者：山岸寿江
33	たて笛	平成8年（1996）	東京都八王子市 高尾山 寄贈者：小林知子
34	ささぶね	平成22年（2010）	児童学科 島可織 作
35	玉入れゲーム	平成22年（2010）	児童学科 阿部純子 作
36	私・ぼくの水族館	平成22年（2010）	児童学科 井澤晴香 作
37	くまちゃんヨット	平成22年（2010）	児童学科 古川あすか 作
38	魚つり	平成22年（2010）	児童学科 作田美香 作
39	魚つり	平成22年（2010）	児童学科 土屋瑛美 作
40	うで時計と望遠鏡	平成22年（2010）	児童学科 長田知美 作
41	ぶんぶんごま	平成22年（2010）	児童学科 小林恭子 作
42	ぶんぶんごま	平成22年（2010）	児童学科 今井麻友子 作
43	迷路	平成22年（2010）	児童学科 小倉優 作
44	玉入れトレイ	平成22年（2010）	児童学科 藤中彩加 作
45	ストロロケット	平成22年（2010）	児童学科 浅倉裕美 作
46	みの虫	平成22年（2010）	児童学科 潮野亜由美 作
47	くるくる紙コップ	平成22年（2010）	児童学科 小賀坂美波 作
48	とべとべ飛行機	平成22年（2010）	児童学科 河原麻衣 作
49	おり紙のお弁当	平成22年（2010）	児童学科 横手法子 作
50	筒の花	平成22年（2010）	児童学科 土田綾乃 作
51	とびだすカエル	平成22年（2010）	児童学科 山崎奈緒子 作
52	カエルさんカスタネット	平成22年（2010）	児童学科 金内めい 作
53	トンボロケット	平成22年（2010）	児童学科 見須藍 作
54	サイコロ	平成22年（2010）	児童学科 折尾友季菜 作
55	ツリー	平成22年（2010）	児童学科 武井佐代 作
56	カエル	平成22年（2010）	児童学科 香西真璃 作
57	パクンチョ	平成22年（2010）	児童学科 中西香苗 作
58	けん玉	平成22年（2010）	児童学科 小林鈴菜 作
59	織り姫と彦星	平成22年（2010）	児童学科 大野理佐 作
60	手作りひな人形	平成22年（2010）	児童学科 木戸祐樹奈 作
61	トントンずもう	平成22年（2010）	児童学科 大野夏季 作
62	額入りの絵	平成22年（2010）	児童学科 菅佐原千恵 作
63	ヒマワリの壁画	平成22年（2010）	児童学科 本宮美貴 作
64	ひまわりの絵	平成22年（2010）	児童学科 佐々木里菜 作
65	パラシュート	平成22年（2010）	児童学科 渡邊香織 作
66	パラシュート	平成22年（2010）	児童学科 江口由華 作
67	彩文土器	紀元前3000年頃	中国
68	モーゼル花瓶	平成2年（1990）	チェコ
69	バンチェン土器	紀元前後	タイ
70	バンチェン土器	紀元前後	タイ

## &lt;VI 展示研究報告 (2) &gt;

令和3年度第11回企画展  
「ニットの魔法」

川本 利恵\*

## はじめに

令和3(2021)年9月21日(火)から10月22日(金)の期間、企画展「ニットの魔法」を開催した。

例年9月には光塩会(東京家政学院大学同窓会)との共催展を開催していたが、コロナ禍のおり、昨年に続き中止となったため、収蔵資料の中からこれまであまり展示してこなかった資料のニット作品を選択した。

なお、同期間に学芸員資格課程「博物館実習」における展示実習展(58～63ページ参照)も同時開催した。

## 1. タイトルの決定

ニットの資料は、平成15(2003)年に当時の館長(小林忠雄氏)の伝手で石川県金沢市のニットデザイナー中村定子氏(故人)の作品151点を遺族から寄贈されたものである。翌年には新収蔵資料披露の企画展を開催し、33点の作品を展示したがその後機会がなく、今回の公開となった。

中村氏は亡くなるまで50年近く編物に携わり自身で編物学院を設立され、短期大学や編物協会などの講師を担当されるなど活躍された方で、長年にわたって培われた高い技術と芸術的なデザインセンスをお持ちだった。

作品を選定するに当たって作品を見直すうちに、かぎ針、棒針を使った手編みや編み機を使ったものがあるなど、また毛糸は羊毛などの天然繊維、アクリルやラメ糸などの合成繊維、天然繊維と合繊繊維の混紡など多種類あり、さらに色も多種類だった。それらを駆使して生地上に花や動物、風景、建物、人物などが描かれ、さらに手編みのモチーフや他の生地を使ってアップリケを施し、実に多彩な模様ができあがっていた。それがまるで魔法のように感じられ、「ニットの魔法」というタイトルが浮かんだ。

## 2. 展示構成

作品は四季折々の模様や色あいが意識されているため、会期の季節から夏秋のデザインを中心に選ぶことにした。ドレス6点、ワンピース17点、ツーピース7点、オールインワン1点、チュニック1点、セーター4点の計36点と参考として編み機2点とした。

また、着用例として作品集の書籍からモデルの着用写真をパネルにして使用した。

## 3. 印刷物

A4判ポスター(写真1)を作成し、その裏面に資料リストを印刷した。

ポスターは大判コピー機でA1判大に印刷し、入口の扉やボードに貼り、A4・A3判で印刷したものを校内の掲示板に貼って学内者へ向けての広報とした。



写真1 ポスター

## 4. 展示作業

作品の展示方法を考えるに当たり、用具類の中にマネキンは数体でトルソーは子ども用が1台だけ、T字

\*川本 利恵(かわもと りえ) 令和3年度生活文化博物館学芸員

台も数台とすべてを着用させることができないためハンガーを使用することに決めた。館内のものを集め自宅からも持参するなどして対応した。ノースリーブのものは木製の棒に肩ひもを掛けて吊るすことにし、また、ドレス類はより華やかさがわかるように全体像を見せたいと思い、急遽現代生活学部生活デザイン学科からトルソーを2体借用することにした。

当館には、全体がガラス張りの「大ケース」と、大ケースの高さ半分あたりから上部がガラス張りの「中ケース」、上からのぞき見る高さの「のぞきケース」、中ケースの幅半分の大きさの「柱ケース」と称する通常4種類の展示ケースがあり、それぞれに資料を振り分けていった。

入口を入って窓側に向かう壁際の大ケース2台にマネキンとT字台に着用させたロングドレス（写真2）とトルソーに着用させたドレスをそれぞれ2点ずつ入れた。窓側に沿って大ケース1台と中ケース3台を並べ、大ケースにはマネキンとT字台に着用させたワンピースとロングドレスを入れ、続く3ケースには肩紐の細いキャミソールドレスやワンピースを3点ずつ棒に通して掛けて吊るした（写真3）。そこから直角に中ケース2台を並べ、ケース内の壁面にS字のフックを取り付けてハンガーを掛けるようにし、それぞれワンピースを3点ずつ入れた（写真4）。またそこから直角に配した中ケース2台に棒に袖を通したワンピース3点、ハンガーに掛けたワンピース3点（写真5）を入れ、続く中ケース1台にはハンガーに掛けたセーター2点と平置きでセーター2点（写真6）を入れた。続いて柱ケースを2台並べ、それぞれワンピースとチュニック（写真7）を1点ずつ平置きで入れた。

次に展示室中央に柱ケース2台とのぞきケース1台を背中合わせにし、またのぞきケース2台を背中合わせにして二つの島を作った。柱ケースにはそれぞれハンガーに掛けたワンピースを入れ、のぞきケースにはワンピース1点を平置き（写真8）して入れた。残るのぞきケースにはそれぞれ参考資料として編み機（写真9）を1台ずつ入れた。その向かいの壁面には、作者の写真と略歴、着用例の写真パネル（写真10）を貼った。



写真2 ロングドレス



写真3 キャミソールドレス



写真4 ワンピース



写真5 ツーピース

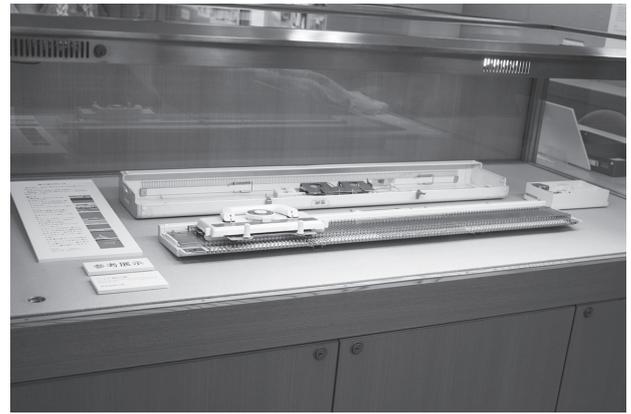


写真9 編み機



写真6 セーター



写真10 略歴・着用例写真パネル



写真7 チュニック



写真8 ツーピース

おわりに

前回の企画展は開催できたのだが、7月12日から9月30日までの期間には第4回目の緊急事態宣言が発出され、大学はその期間およびその後も1か月近く学生の入構禁止措置をとった。当初はそれにならって休館を考えたが、教職員には出勤する人もおり、また学生は許可を得れば入構できるという措置がとられたため学内のみの開館とした。

今回の展示会の展示作品の様や形は制作年代の時代の流行を感じさせるものだが、デザインセンスや技術の高さがわかるものであり、限定的な公開になってしまったことが悔やまれる。今後、機会があればまた企画を考えたい。

## 展示資料一覧

番号	タイトル	年代	作者・製作地
1	ロングドレス	昭和63年(1988)	中村定子
2	アンサンブルドレス	平成6年(1994)	中村定子
3	ロングドレス	1980～90年代	中村定子
4	ロングドレス	1980～90年代	中村定子
5	ツーピース	1980～90年代	中村定子
6	ロングドレス	平成12年(2000)	中村定子
7	キャミソールワンピース	昭和58年(1983)	中村定子
8	キャミソールワンピース	1980～90年代	中村定子
9	オールインワン	1980～90年代	中村定子
10	ワンピース	1980～90年代	中村定子
11	ワンピース	1980～90年代	中村定子
12	キャミソールワンピース	1980～90年代	中村定子
13	ワンピース	1980～90年代	中村定子
14	ワンピース	1980～90年代	中村定子
15	キャミソールワンピース	1980～90年代	中村定子
16	ロングドレス	昭和48年(1973)	中村定子
17	ワンピース	昭和55年(1980)	中村定子
18	ワンピース	平成6年(1994)	中村定子
19	ワンピース	平成6年(1994)	中村定子
20	ワンピース	平成6年(1994)	中村定子
21	ワンピース	平成6年(1994)	中村定子
22	ワンピース	1980～90年代	中村定子
23	ワンピース	1980～90年代	中村定子
24	ワンピース	1980～90年代	中村定子
25	ツーピース	1980～90年代	中村定子
26	ツーピース	1980～90年代	中村定子
27	ツーピース	平成2年(1990)	中村定子
28	セーター	1990年代	中村定子
29	セーター	1990年代	中村定子
30	セーター	1980～90年代	中村定子
31	セーター	1980～90年代	中村定子
32	ワンピース	1980～90年代	中村定子
33	チュニック	1980～90年代	中村定子
34	ツーピース	1980～90年代	中村定子
35	ツーピース	1980～90年代	中村定子
36	ツーピース	1980～90年代	中村定子
37	参考展示 ニット編み機	1970～80年代	中村定子
38	参考展示 ニット編み機	1970～80年代	中村定子

## &lt;VI 展示研究報告 (3) &gt;

## 令和3年度第33回特別展 「新たな出発点—東京家政学院生活文化博物館の30年—」

川本 利恵\*

## はじめに

令和3年度は、第33回特別展「新たな出発点—東京家政学院生活文化博物館の30年—」を、令和3(2021)年10月26日(火)～令和4(2022)年2月4日(金)の期間、千代田三番町キャンパス(以下「三番町」という。)1号館ロビーにおいてパネル展示として、11月8日(月)～令和4(2022)年2月4日(金)の期間、本展示として町田キャンパス(以下「町田」という。)生活文化博物館にて開催した。

当館は昨年度30周年を迎え、特別展も巡回展に参加するという新たな試みをした。平成2(1990)年の開館以降、年に1回(初年度のみ2回)開催してきた特別展の企画は、博物館学を専門とする教員が考案してきたが、退職されたため、次の教員の採用まで館員が考えることになった。そこで一旦これまでの特別展を振り返り、これからの活動に向けてのヒントを得たと思ったところからこの企画は始まった。

まず、手始めに特別展の分けを考えた。開館当初は当時の各学科の教員が持ち回りのようにして企画を担当していた。ポスターやチラシに共催とはうたっていないが、内実は博物館と学科の共催という形だった。第12回特別展から共催や協力の記載が始まり、学内と他館や民間企業などとの協力という形もあった。そして旧短期大学(以下「短大」という。)の研究室から移管された資料を展示し、第1回から第6回まで6回続くシリーズ展となった移管資料展と三つにくれることがわかったため、この区分で構成を考えることにした。

## 1. 資料の選定

資料の選定に当たっては、他館等から借用する展覧会であると手元に残っていないため、その際に収集した資料が多く残る特別展を中心とすることにした。

学内との共催展からは、旧人文学部工芸文化学科の

教員が中心となった第3回特別展「竹と生活文化」から竹製品を、同学部日本文化学科の教員が中心となった第8回特別展「暮らしの中の度量衡—ながさ・かさ・おもさ—」から秤、ものさし、升の資料を選んだ。また、第12回特別展「大江文庫にみる江戸時代の料理ものがたり」は附属図書館(以下「図書館」という。)との共催ということを明確にした企画であり、さらに学内で特別展実行委員会を結成して臨んだという特別感もあることから、特殊コレクションの「大江文庫」から本草書と料理書を選んだ。開館20周年記念とうたった第22回特別展「子どもの誕生と日々の暮らし江戸時代から現代へ」は図書館と現代生活学部児童学科との共催であり、「大江文庫」所蔵の江戸時代の教育書を選んだ。

他館等との共催では、在日ペルー・ボリビア大使館の後援を得た第18回特別展「中央アンデスの編む組む 織る」から、帽子や組紐、肩掛けなどを選んだ。また、近隣地域のエコミュージアムや博物館との協力があつた第20回特別展「写真展 あの時、あの時—相模川から境川周辺風景—」から昭和39(1964)年と平成17(2005)年の空中写真を選んだ。大学の創立90周年記念ということと民間企業と協力した第25回特別展「本気で見せます!江戸の料理」から料理標本を選んだ。

移管資料展のうち、第1回「40年ぶりに目覚めたオートクチュール—P・カルダンとE・ウンガロ—」の洋裁研究室資料からはピエール・カルダンとエマニュエル・ウンガロそれぞれのオートクチュールスーツとドレスを1点ずつ選んだ。第2回「うっとり…レース一本の糸からつくる美空間」・第3回「民族衣装ってポップ 刺繍」の手芸研究室資料からはアンティークレースや刺繍が施されたアジア圏の民族衣装や欧州のバッグ類を選んだ。第4回「きもの、いとおかし—收藏品ベストコレクション—」・第5回「きもの、乙女たち

\*川本 利恵(かわもと りえ) 令和3年度生活文化博物館学芸員

のハレ姿」の和裁研究室資料からは着尺地と帯、打掛などを選び、第6回「染—しぼる、ふせる、おく—」の工芸染色研究室資料からは染色方法の異なる浴衣地やクロス、バッグ類を選んだ。

なお、各研究室名は学科名やカリキュラムによって名称が変更されているが、専門分野が想定でき、かつ慣れ親しんだ名称を使用した。

## 2. タイトルの決定

30年を振り返る企画ということでタイトルを「東京家政学院生活文化博物館の30年」と考えたが、堅いイメージのため副タイトルにまわすことにした。印象に残る言葉がほしいが突飛すぎてもと悩みつつ、これを機会に新たに始まる活動ということを「出発」と変換し、タイトルは「新たな出発点」とした。

## 3. 展示構成

三つのくくりで特別展を区分することは決めており、資料の選定の際には他機関との共催・協力はそれだけで特別感があり、学内でも異なる学科との共催であるなど多様性をもたせ、移管資料展ではそれぞれの研究室資料が同じくらいの分量になるよう配慮した。

展示資料は、料理書や教育書15点、料理標本30点、竹籠類10点、秤類10点、空中写真2点、短大資料（ドレス、レース、刺繍作品、和装、アンデス関連）50点の計117点となった。

三つの区分となるので三部構成とし、名称としては「学内共催展」、「産官学共催展」、「移管資料展」と決めた。

構成は下記の通りである。

- 第1部 学内共催展
- 第2部 産官学共催展
- 第3部 移管資料展

5月26日（水）に館長と打合せを行い、展示の内容や進捗状況の説明をした。また、印刷物についても解説文と特別展一覧を筆者の執筆で掲載したい旨を説明し、館長にはあいさつ文を依頼した。

その後の状況は、毎週開催している博物館定例会議内で報告を行った。

## 4. 印刷物

今回は過去の写真を利用するため、データが残っていない分はネガフィルムやプリント写真をスキャナデータで利用した。

## (1) チラシ

チラシは発行部数を例年通り3000枚とした。展覧会を振り返る展示なので表紙には過去すべての特別展チラシ表面を順番に並べて、それを一面に繰り返して表示する形式とし、資料は掲載しなかった。チラシ裏面には例年通り、あいさつ文と展示資料の一部を掲載した。9月1日（水）に入稿し、10月20日（水）に納品となった。

連なったチラシ表面の倍率を下げることで背景の壁紙のような扱いにして文字情報をその上に配した（写真1）。

チラシ裏面（写真2）はあいさつ文と資料写真6点、町田・三番町両キャンパスの地図を配した。



写真1 チラシ表面



写真2 チラシ裏面



写真3 展示目録表紙



写真5 パネル展示のようす

題名	展示日	開催・協力	展示内容概要
1 創立50周年記念展	1993.10.16(水)～17(木)		創立50周年記念展
2 秋展	1993.10.24(水)～12(金)		秋展
3 日本学生展	1993.11.12(木)～12(金)		日本学生展
4 暮らしの中の文化展	1993.12.05(日)～12(金)		暮らしの中の文化展
5 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
6 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
7 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
8 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
9 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
10 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
11 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
12 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
13 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
14 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
15 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
16 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
17 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
18 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
19 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
20 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	1993.11.06(土)～12(金)		暮らしの中の文化展
21 ハートフル・ミュージアム 暮らしの中の文化展	2009.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
22 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2010.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
23 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2011.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
24 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2012.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
25 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2013.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
26 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2014.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
27 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2015.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
28 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2016.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
29 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2017.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
30 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2018.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
31 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2019.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
32 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2020.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展
33 暮らしの中の文化展—暮らしの中の文化展—	2021.10.16(金)～17(土)		暮らしの中の文化展

写真4 過去の特別展一覧



写真6 机に置いた印刷物

(2) 展示目録

目録の表紙(写真3)にはやはりチラシと同様に過去のチラシを一面に配した上にいくつかの資料を配することにした。チラシと違いを出すために、こちらはチラシよりも倍率を上げ、さらにぼかしをいれて変化をもたせた。

内容はあいさつ文、筆者による解説文、過去の特別展一覧(写真4)、各資料の説明、特別展に関するコラム、展示資料一覧という形式とした。

9月1日(水)に入稿し、10月20日(水)に1,000部納品となった。納品後内容の確認をした際に誤字が見つかり、正誤表を作成して差込みをした。

5. 展示作業

(1) パネル展示

印刷物、解説パネルと垂れ幕が10月20日(水)に納品となり、三番町用の大判印刷したポスター、パネル類とチラシ、展示目録を梱包して学内便で配送した。翌週の10月25日(月)に三番町へ行き、1号館ロビーで展示作業を行った。昨年までは展示ケースがあったが5月末で廃止となったため、これまでのスペースの壁面を利用してパネル展示とした。事前に施設室へ壁面の利用依頼をしていたので、まず垂れ幕を向かって右側へ掛け、空いた空間の中央上段にあいさつ文のパネルを掛け、下段に解説パネル3枚を並べて掛けた(写真5)。また、垂れ幕のそばに机を置き、チラシと展示目録を置いた。机の前には大判コピーしたポスターを貼った(写真6)。今回は本展示の会期が終了するまでそのままとした。

## (2) 本展示

パネル展示の作業と同時に本展示会場である町田の博物館展示室での作業が始まった。まず企画展の片づけを行い、10月27日（水）から展示作業に入った。

当館には、全体がガラス張りの「大ケース」と、大ケースの高さ半分あたりから上部がガラス張りの「中ケース」、上からのぞき見る高さの「のぞきケース」、中ケースの幅半分の大きさの「柱ケース」と称する4種類の展示ケースがあり、計画していた位置に展示ケースを移動してから、それぞれのケースへ資料を振り分けていった。

入口を入れて窓側に向かう壁面に解説パネルと特別展一覧のパネルを貼り、その下部にベニヤ板を組み立てて布で覆った展示台を設置し、第1部の始まりとして、竹籠類を置き、パーテーションで囲った（写真7）。隣に中ケースと柱ケースを並べ、秤、ものさし、升類と両替天秤（写真8）を入れた。窓側に沿って中ケースを3台並べ、2台に江戸時代の料理書（写真9）を、1台に江戸時代の教育書を入れた。続いて柱ケースと中ケースを並べ、第2部の資料としてアンデス地方の袋物や帽子、肩掛けなどを入れた（写真10）。そこから直角に曲がり、中ケース1台と柱ケース1台、中ケース1台を並べ、料理標本を入れた（写真11）。さらに直角に曲がり、大ケース1台、中ケース1台、大ケース2台を並べ、第3部の始まりとして、オートクチュールスーツとドレスを着用させたマネキンを2体入れ（写真12）、次に着尺地と帯（写真13）、続いて衣桁に掛けた打掛、そして民族衣装や壁掛など（写真14）を入れた。それに向かい合う壁面には大学周辺地域の空中写真2枚を掛けた。



写真8 両替天秤



写真9 江戸時代の料理書



写真7 竹籠類



写真10 袋物と帽子



写真11 料理標本



写真14 民族衣装と壁掛



写真12 オートクチュールスーツとドレス



写真15 アンティークレース



写真13 着尺地と帯



写真16 クロス

中央にのぞきケース3台と2台をそれぞれ背中合わせにして島を作り、3台のうち1台には刺繍が施された帽子やバッグ、皮手袋などを入れ、2台にはハンカチや扇子などのアンティークレース（写真15）を入れた。残る2台には、絞り染のクロス（写真16）や浴衣地などを入れた。向かいの壁面には、ベニヤ板に毛氈を巻いた台に衿やケープのアンティークレースを並べ、アクリル板で押さえて落下を防ぎ、壁に立てかけた。

## 6. 広報活動

本学教職員にはチラシや展示目録を配付し、学生には本学構内にポスターを掲示して周知をはかった。また、エントランスの管理棟の入口と第3号棟の入口、図書館の入口に垂れ幕を掛けた。なお、各新聞社、博物館、各県の教育委員会などの関係機関へチラシ、展示目録の配送を行った。

## 7. 特別展開催

昨年度の特別展から見学者に対しては事前予約の案内を出していた。町田の本展示についても同様で、チラシ上およびホームページにも要予約の文言を掲載した。三番町については予約不要としたが、見学である

ことを受付に申し出てほしい旨の文章をチラシに掲載した。

通常であれば開催の週末にはKVA祭（大学祭）が開催予定だったが、感染拡大のおり、今年度も中止となった。

今年も新型コロナウイルス感染症の感染状況に振り回された年だったが、特別展に関しては休館とすることなく会期を全うできたことは幸いだった。

## おわりに

今回は過去の特別展を振り返るということで、改めて収集された資料が教員の専門的な目で選ばれた優れた資料であることがわかった。また、中心となって活動されていた教員が数十年も絶えず企画を考えられたこと、加えて当館だけではなく他機関と協力して内容を広げていくところなどに対して、感心し尊敬の念を覚えた。タイトルのように「新たな出発点」とするはずがさらにプレッシャーがかかった心地である。ただこれからは悩んでとどまったままにならず、館長や研究員の先生方に相談を持ち掛けてみようと考えている。

最後に、多大なご協力をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

## &lt;VI 展示研究報告 (4) &gt;

令和3年度第12回企画展  
「学生成果展」

江良 智美\*<sup>1</sup> 佐々木 麻紀子\*<sup>2</sup> 立川 泰史\*<sup>3</sup> 富田 弘美\*<sup>4</sup>  
馬場 美和子\*<sup>5</sup> 深石 圭子\*<sup>6</sup> 江川 賢一\*<sup>7</sup> 加藤 理津子\*<sup>8</sup>

令和3年度第12回企画展「学生成果展」(会期：令和4(2022)年2月24日(水) - 4月22日(金))を開催した。内容は学生の卒業制作や実習・演習で制作した作品や研究報告を紹介している。

## 1. 現代生活学部生活デザイン学科

江良 智美

## ハンドクラフト演習B

ハンドクラフト演習Bは、テキスタイル製品の装飾技法の一つである刺繍について発展の歴史や文化的背景の知識を深めるとともに、作品制作を通して代表的な刺繍技法を学ぶ科目である。さらに、各種技法を組み合わせたオリジナルの応用作品の制作や作品についてのプレゼンテーションを行い、ハンドクラフトについての理解を深めている。

4年次前期の開講科目であるため、4年間のこれまでの学びをさらに深めたい学生が履修している。



写真1 展示風景

令和3年度は、様々な刺繍技法を用いた刺繍作品を制作し、学生作品展では田村瑛里香さんと中村友梨香さんの作品を展示した(写真1)。

・ユニコーンのクロスステッチ：クロスステッチの基本的な技法を学ぶ。刺繍が初めてであっても一針一針で徐々に模様が浮き上がってくる楽しさがわかるカラフルな作品である(写真2)。

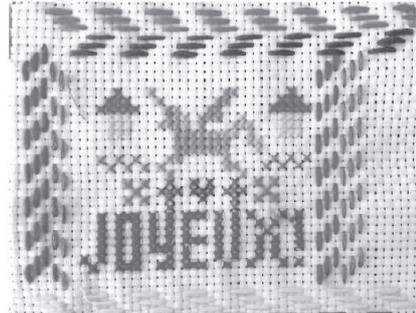


写真2 ユニコーンのクロスステッチ(田村瑛里香)

・リボン刺繍の小さな壁飾り：リボン刺繍のいくつかの技法を合わせて作品を制作する。リボン刺繍は立体感があると同時に触感もあり、新しい表情が表現でき



写真3 リボン刺繍の小さな壁飾り(中村友梨香)

\*<sup>1</sup> 江良 智美(えら さとみ) 令和3年度現代生活学部非常勤講師  
\*<sup>2</sup> 佐々木 麻紀子(ささき まきこ) 令和3年度現代生活学部生活デザイン学科助教  
\*<sup>3</sup> 立川 泰史(たちかわ やすし) 令和3年度現代生活学部児童学科教授  
\*<sup>4</sup> 富田 弘美(とみた ひろみ) 令和3年度現代生活学部現代家政学科准教授  
\*<sup>5</sup> 馬場 美和子(ばば みわこ) 令和3年度現代生活学部非常勤講師  
\*<sup>6</sup> 深石 圭子(ふかいし けいこ) 令和3年度現代生活学部生活デザイン学科准教授  
\*<sup>7</sup> 江川 賢一(えがわ けんいち) 令和3年度人間栄養学部人間栄養学科教授  
\*<sup>8</sup> 加藤 理津子(かとう りつこ) 令和3年度人間栄養学部人間栄養学科准教授

る作品である（写真3）。

・フランス刺繍の巾着袋：フランス刺繍の基本的技法を学ぶ。中村さんの作品は、ロング&ショートステッチやレザー・デイズステッチ、フレンチノットステッチなどを用いて表現したい動物や草花それぞれの質感や表情を表している作品である（写真4）。



写真4 フランス刺繍の巾着袋（中村友梨香）

・ビーズ刺繍のアクセサリ：ビーズ刺繍の技法を学び、同系色の色相で異なる質感のビーズで構成する。田村さんの作品は、ビーズの方向を利用したデザインで、ピアスはビーズの方向を揃え、ブローチは大小のビーズをバランスよく配置した作品である（写真5）。

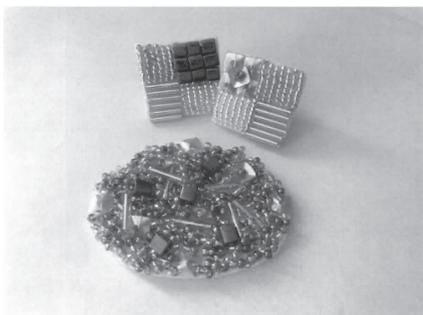


写真5 ビーズ刺繍のアクセサリ（田村瑛里香）

・イニシャルのペンダント・ヘッド：これまで学んだステッチ・技法を使った応用作品となる。小さな枠の中でイニシャルと植物をバランス良く配置した華やかな作品である（写真6）。



写真6 イニシャルのペンダント・ヘッド（田村瑛里香）

・カルトナージュ・ボックス：四方から見て異なるデザイン、パッチワークキルトの技法を用いた応用作品である。中村さんの作品は、梅雨が終わり夏の訪れを喜ぶ動植物をカエルやウサギ、花々で表現した作品である。サテンステッチやブランケットステッチなど表情が出るような技法を用いている（写真7）。



写真7 カルトナージュ・ボックス（中村友梨香）

## 2. 現代生活学部生活デザイン学科

佐々木麻紀子

### 生活デザイン演習C/D

生活デザイン演習C/Dは、生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する科目である。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定されている。

染色プログラムは2講座あり、2年次前期の生活デザイン演習Cでは、板締め染（写真1）・摺込み染（写真2）・墨流し染・絞り染・ろうけつ染・電子レンジ染（写真3）・染色工房で東京都伝統工芸の一つである江戸更紗染など様々な染色技法を体験し小作品の制作を行った。（写真4）昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があり、授業が対面と遠隔が交互に行われるハイブリット形態の授業も取り入れられていた中、少人数で行われた。

学生が初めて体験する染色技法も多いため、授業では1つの染色技法について、試作の時間1コマと作品制作の時間1～2コマを使い、学生がそれぞれイメージするものを試行錯誤して作品制作を行っている。この試作の時間を取ることで技法への理解が深まるとともに完成度の高い作品を展示できたと考えている。

2年次後期の生活デザイン演習Dでは、天然染料を使って絹布を染色し染色堅ろう度試験を行ったうえで、各自の好みの染料で絹シフォンストールの染色作

品を制作した。大学にある染料だけでなく、学生各自の家から染料となるものを探してサンプル染を行ったため、数多くの色見本が制作できた。大学だけでなく家庭で行う場合も考え、電子レンジを使った抽出や染色工程なども取り入れて媒染剤の扱いや加熱の方法等、通常行われる加熱浸染法ではない染色方法も試し、それぞれの染料について紫外線や洗濯、摩擦、アイロンなどの染色堅ろう度試験を行うことで変退色を確認したため、天然染料を使った染色への理解が深まった(写真5)。

展示したストールは、無地染だけでなく、絞りを施したりムラ染にしたりと学生の個性が表現されている作品となった(写真6)。



写真4 江戸更紗染の染色工房での作業風景

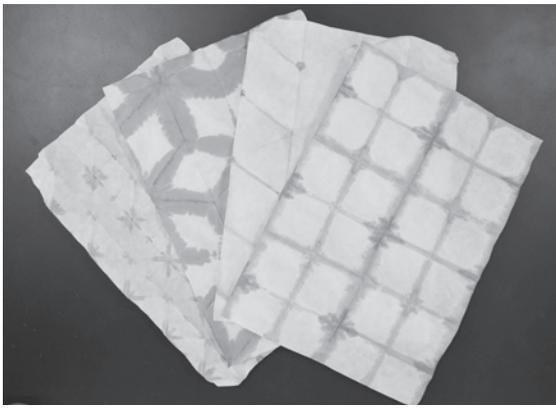


写真1 板締め染の和紙

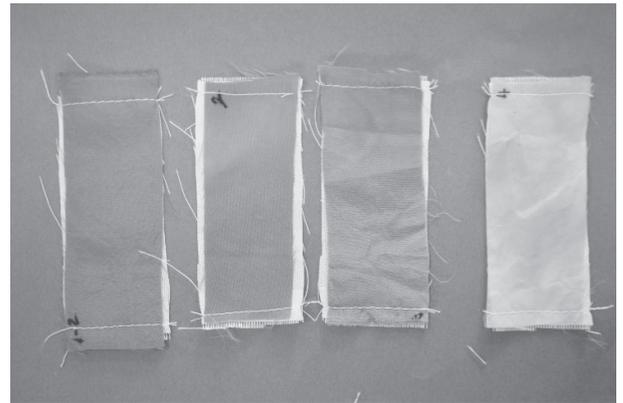


写真5 染色した絹布の一例(左からスオウ、アカネ、ブドウ、タマネギ外皮)



写真2 摺込み染のポストカード



写真6 展示風景



写真3 電子レンジ染のエコバッグ

### 3. 現代生活学部児童学科

立川 泰史

#### 図画工作科教育

##### 1. 「図画工作科教育」という授業について

「図画工作科教育」の授業は、小学校の教諭を目指す学生を対象に、この教科教育の意義と基礎的な知識及び基本的な技能を学ぶ資格科目として位置付けられ

る。この授業は、次年度に学ぶことになる「図画工作科教育法」へ向かういわば“助走路”にあたり、教科の内容領域にある魅力や楽しさを体験的に理解することが目標となっている。図画工作科という教科学習は、前段階に幼児の造形表現活動があり、後には中学校・高等学校における美術科・工芸科につながる。しかし、こうした異校種間を超えた教科内容のつながりや一貫した指導目標をもつという属性は、別々に指導法を学んでいる限り、学生にはなかなか理解しがたいところがあるのも事実である。そこで、本授業では、小学校における図画工作科学習が、幼稚園の表現領域とどのように連携する内容をもつのか、小学校高学年での造形体験や創造的な思考の発達が中学校美術科や高等学校の芸術教育へとどのように発展していくのかなど、そのような視点をもちながら造形表現や鑑賞活動を体験できるように工夫している。

## 2. 小学校高学年の題材で味わう「つくり出す喜び」

写真1は、現行の文科省検定教科書にも掲載されている小学校高学年（5年）の造形題材である。この題材で使用する主要な用具として、電動の糸のこぎりがある。学校では標準備品とされ、誰もが小学校で経験する用具でありながら、大学生にもなると「もはや懐かしい用具」として映るように、日常生活ではなかなか触れる機会のない機材である。こうした特殊な工作機器や用具を実際に手にとり、子どもたちが安全かつ効率的に使えるようになるための指導を思案していくことになる。

また、こうした表現活動では「つくり手にも予想出来ない形」が立ち上がる驚き、偶然にできた形を組み

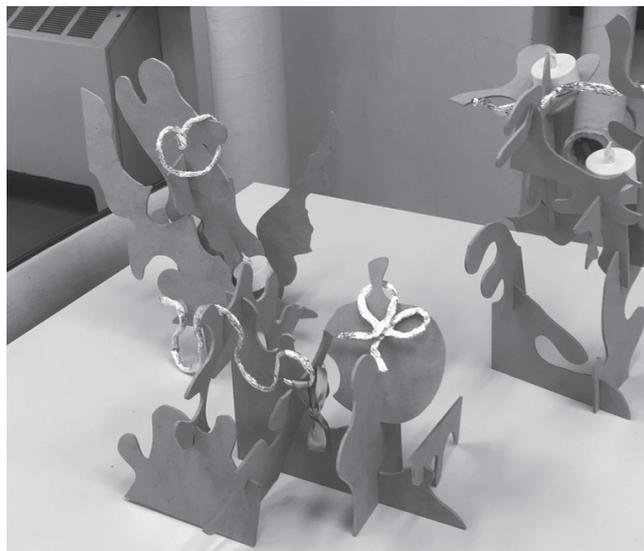


写真1 自由に切った形の組み合わせを楽しむ

作品画像提供：2094108 大澤ひかる

合わせて楽しむといった「つくり出す喜び」を実感することになる。こうした体験を通して、造形活動を指導する際の留意点や予想される子どもの姿をより現実的に思い描く資質・能力が培われる。

ここでは、電動糸のこぎりで心地よく木材を切断できるように、木目のない「MDFボード（集成材）」を材料に選んでいることが指導者の隠れた配慮になっている。また、自由な形の組み合わせを工夫する面白さが、単なる遊びに終始しないよう、「アルミ箔との組み合わせ」という副素材が用意されている。こうした目立たない指導者の配慮が、自身の表現に意味や価値を見いだすきっかけをつくっていることに学生も気付く。

## 3. 領域を超える題材による創造的な思考体験

前述したような表現題材の理解は、材料経験や用具の取り扱いを通して実践的な指導力を培う機会となる。ただ、材料や機器の扱いなどといった「ものづくり」的な技能の取得にこだわってばかりいても、今日芸術教育でめざしている趣旨、すなわち「身近なものによさや美しさなどの自分らしい意味や価値を見出す」という生活者の育成は実現できない。造形的な見方・感じ方、あるいは美的な想像力を発揮し、暮らしの中にある形や色と豊かに関わるというスキルは、「創造的な思考の喜び」に支えられることも知っておきたい。

このような意味でも、表現活動の捉え方を「ものづくり的な側面」から開放し、「意味づくり的な側面」へ着目することも大切になる。「意味づくり的な側面」とは、表現作品の出来栄えに捕らわれず、制作途中に出会う様々な造形的事象を楽しむことに造形活動そのものの意味や価値を感じることである。また、「造形的事象を楽しむ」というのは、例えば「絵の具が水と混ざったり滲んだりする」ような出来事（事象）に立ち会い、移り変わる世界に「よさや美しさ」を見出すことである（写真2）。

こうした題材体験の趣旨は、制作の過程に出会う形や色の変化から感じたことを基に、「次にできること」を試しながら表現の可能世界を広げていく喜びを知ることでもある。それは、作品を必ずしも残さない「造形遊び」という内容領域の中心的なねらいを達成するも、そこで止まらず、「思いついたことを工夫して表わす」という表現の内容領域に越境していく体験でもある。

このように、表現の内容領域を超えて次々とイメージを塗り替えていく体験は、学習指導要領に準拠する



写真2 水滴のなかに、好きな色の絵の具を垂らす

教科書には掲載できない創造的思考の自由さや表現行為そのものの喜びをやる契機ともなっている。図画工作科は、多々ある教科の中の学習のひとつとして位置付けられるが、他方では人々が生まれもっている感性や情操が養われる喜びを実感する活動としても特徴づけられる。他の教科学習ではあまり前面に打出されることのない「創造的な思考の働き」を体験的に理解する場面として、学習指導要領の領域を超える活動を意図的に設定している。

#### 4. 「表現と鑑賞」を一体的・連携的に扱う活動の体験

学齢期にある子どもたちはもとより、本来わたしたちが自由に創造的想像力を働かせていくとき、まず目にした対象や事象が「何物であるか、何事であるか」を見極め、そこで感じたことや認識したことを基に次なる振舞いや所作を決定している。子どもたちが身の回りの事物と出会い、そこから感じたことを基に表現活動に取り組む過程においても、対象を「よく見ること」と「表し方を工夫すること」は一体となって進むという創造的な思考活動の実態が明らかになっている。これは、どんな年齢の子どもでも「自分の手が世界を変えていく様子」を目にしながら自身の表現を「事象」として鑑賞し、よりよく表わすための手だてを探

究しながら表現するという自然な態度でもある。簡潔に言えば、「みる・つくる・つくりかえる」という一連の造形行為は、「表現と鑑賞」を瞬時に繰り返す認識サイクルを循環する高次な思考活動であると捉えられる。今日、図画工作科の指導に限らず、幼児の造形教育や芸術教育においては、こうした人間の本来的な感覚や知覚体験から生起する認知活動と表現活動の連携的な働きが注目されている。こうした傾向が高まる背景には、人工知能の研究や脳科学、神経美学といった新しくも学際的な先行研究の成果がある。しかし、ここで問題になるのは、未来の指導者たる学生が「表現と鑑賞を往来する思考活動の働き」を経験的理解に導く学習場面をどのように設けるかということである。

そこで本授業では、「表現することで鑑賞の目がひらき、見ることを楽しむことで新たな表現に発展する」というプロセスを踏む造形体験を試みている。こうした思考活動の本質に着目すると、それは「小学校低学年の子どもでも、自然に発揮しているスキルだ」という事実気付くことが要件となる。したがって、学生が「表現と鑑賞を循環する思考活動をたどる本質的な特徴」に気付けるように、材料も活動もシンプルな題材を経験することになっている。ここであげる事例題材では、「身近な場所のよさや面白さに気付き、表現を通して感じたことを伝え合う」という学習目標を体験する。学生たちは、子どもたちでも気軽に楽しんでいる「フロッタージュ（擦り出し）」という表現技法を用いて、身の回りにある場所や物の凸凹をクレヨンで紙に転写するというシンプルな活動を行う。普段は気付かない身の回りにある場所や物のフォルムに隠れているよさや面白さを発見するのは鑑賞の能力の発揮であり、それを紙に映し出していく技法や色選びが表現する能力の発揮場面として設定されている（写真3）。

ここでは、ただ各自が校舎内を見渡すのではなく、誰かがフロッタージュで表現した面白い場所を、他の学生たちが探し当てるといったゲーム性を盛り込んだ。実際には小学校低学年の児童を対象にした鑑賞題材として設定される活動であることが裏付けるように、身近な場所や物を「よく見る」ことが本活動の主要要件となる。あたかも犯人が逃亡した足取りを追うのごとく、刑事役を担う学生たちが映し出された場所や物を探して回るというゲーム感が、活動そのものを楽しむための動機付けになっているのも大きな特徴である。

このように、小学校低学年を対象にした「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の体験を通して、教科の目標



写真3 フロッタージュ表現と鑑賞を往来する活動

に準拠する活動構成、導入から展開に至る実践方法、そして評価の観点について楽しく理解を深めていることがわかる。さらに、身の回りにある隠れたよさや面白さを発見する活動が、2～4人のペアまたは小グループの活動として設定することで、自他の見方や感じ方にある違いにも自然な対話を通して気付いていく「協働的な学習形態」の意味を体験することにつながっている。

#### 5. 教科の体系、発展的な内容領域のつながりを実感する

造形教育や芸術教育において特徴的なのは、他の自然科学と同様に、ほぼ確立された学術体系のなかに位置付けられた学習内容をもつということである。ある昆虫に感じた不思議さが後に生物学という学術体系のなかで探究されるように、またある特別な車の姿に抱いた憧れが機械工学などの学術体系で学ばれるように、造形活動で味わう様々な感性的内容が後にファインアートや工芸、あるいはデザインという芸術教育の体系にそって学ばれる。

このように、学習する内容領域の「体系的なつながり」についても、巨視的な視点をもって扱う題材の位置付けを捉えていくことが望まれる。とくに教職課程において、単独の単元や題材の目標と評価という枠組みだけに学生の理解が矮小化されることなく、学齢期全般から青年期までの発達と学びの体系といった大きな視野から局所的な単元題材の意味を理解することが求められる。またそれが、現行学習指導要領で強調される趣旨でもある。

教科の学術体験における位置付けとつながりを理解するという時代の求めを理解するために、本授業ではあえて教科書に掲載されている題材を活用した。ここ

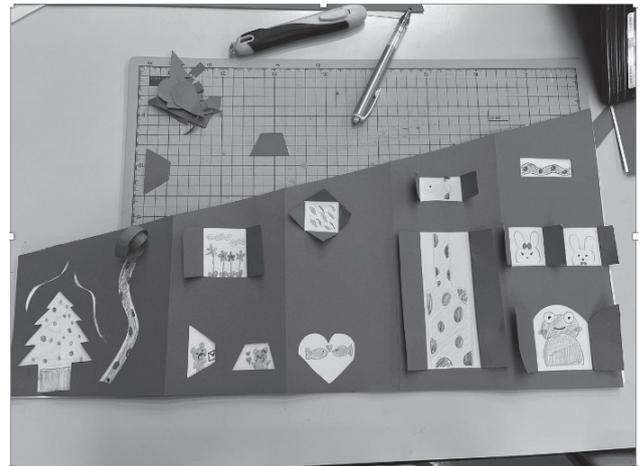


写真4 紙素材の可能性や表現の発展的体系を知る題材経験

作品画像提供：2094112 河西美空

で扱うのは、小学校低学年の児童がすでに慣れ親しんでいる「紙」という素材に触れ、新しい材料の可能性に気付きながら「つくり出す喜び」を味わう題材である。この「まどのあるたてもの」と題する題材は、平面の材料が折ったり曲げたりすることで丈夫になり、立体として立ち上がる不思議さを味わいながら、思いついたことを表わすという内容をもつ（写真4）。

紙という素材に隠れている「弾力」という特性を自然に感じる事がこの題材の主なねらいになるが、木材や金属といった他の素材にも通ずる材料の可能性を秘めること、そうした材料の活かし方が、生活に役立つ工芸や機能美をもつプロダクトデザインの領域にも体系的につながることを実感するという配慮に裏打ちされていることも大切である。

#### 6. 本授業科目における学習成果と展望

図画工作科教育の本授業科目は、小学校の教育実習で実際に指導を行うための基礎的な資質・能力を育むことを直接的な目標にしている。しかし、①つくり出す喜びを味わう、②表現と鑑賞という創造的な思考サイクルを実感すること、③教科学習の内容に内在する学術体系を望む大きな視野をもつことなど、本教科の本質的な特性に触れることは、有能な指導者としての素地となる重要な経験的理解を導く。今後も本授業では、教科学習の基盤にある理念や本質に触れる体験的な活動を重視し、主体的な学習の取組みを支援していきたい。

#### 4. 現代生活学部生活デザイン学科

富田 弘美

##### 舞台衣装のデザイン・制作

##### 1. オペラ『カルメン』第1幕の衣装と頭飾りのデザイン・制作

生活デザイン学科

2019年度卒業生 飯田 真琴（衣装）

2019年度短期留学生 牛 進（頭飾り）

このオペラは、1875年ビゼーの音楽によってパリのオペラ＝コミック座で開催された。その時代の女性は、経済的に自立することが許されず、「女性らしく」着飾って父親や夫などの男性から庇護を受けていた。しかし、煙草工場で働くジプシーの女工カルメンは、自分の意志で自由に行動し、誰とでも喧嘩をするような気性の激しい女である。また、真面目な衛兵伍長のドン・ホセを誘惑し、彼の人生を狂わせるような魔性の女でもある。

の女でもある。

今回のこの公演の時代背景は「現代」である。自由奔放なカルメンのキャラクターと粗野な振る舞いは、ワイルドなイメージの黒の皮革（合成皮革ストレッチ）や赤い金属ファスナーを用いて強い印象を受ける黒と赤の対比や、胸元と裾のファスナーの開閉によって挑発的なスリットが現れるセクシーなデザインで表現した（写真1、2）。また、髪飾りは、加工しやすい塩化ビニルのL字型アングル材料で獲物を捕らえるようなイメージから2本のシャープな弓矢を作り、帽子本体に突き刺した。これは、この先の危険な出来事などを暗示させている（写真3）。

この衣装は、地域連携活動として（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団主催の公演で使用した。デザイン・制作は2019年9月から着手したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため2020年3月14日のハイライトコンサートが中止になり、その後、2021年1月9日に八王子市いちょうホール（大ホール）にてガラコンサートが無観客およびオンラインで開催された。なお、副資材のファスナーは、株式会社YKKによるご提供である。



写真1 カルメンの衣装 オペラ歌手：二瓶純子



写真2 衿元を開いた状態



写真3 頭飾り

## 2. バレエ『くるみ割り人形』金平糖の精の衣装・頭飾りのデザイン・制作

生活デザイン学科 1年生 山本 美久

このバレエは、1892年にチャイコフスキーの音楽によってサンクトペテルブルクのマリンスキー劇場にて開催された。第2幕ではくるみ割り人形であった王子様が主人公クララをお菓子の国に招待し、そのお菓子の国の女王が「金平糖の精」である。「金平糖の精」の金平糖は、ポルトガルから伝わった表面に角状の砂糖の突起のあるお菓子である。他にフランスのドラジェというアーモンドをカラフルな砂糖の衣で覆ったお菓子から「ドラジェの精」、英語では「シュガープラムの精」などとも呼ばれている。いずれにしてもカラフルなパステルトーンでキラキラ輝く可愛い砂糖菓子である。

衣装はスカート部分が水平に広がったクラシックチュチュというもので、ボディスとチュチュ（スカート）で構成されており、チュチュにはギャザーを寄せたチュールが十数段ショートパンツに縫い付けられている（写真4）。生地はシルバーのジャカード織、胸とチュチュの飾り部分とティアラはシュガープラムのイメージから淡い紫のオーガンジーをベースにして、銀色のモチーフブレード、紫・赤紫・銀・クリスタルカラーのビーズやストーンなどが砂糖菓子として散りばめられている（写真5、6）。

この衣装は、地域連携活動として参加した中原由美子氏の構成・演出・振付によるバレエフレイグランド・パフォーマンス第9回公演『くるみ割り人形』全2幕、2021年11月6日、7日、シアター 1010にて使用した。



写真4 金平糖の精の衣装

ダンサー：森 絵里（東京シティバレエ団）  
撮影：和田 修



写真5 胸元（左）とチュチュ（右）の飾り



写真6 金平糖の精のティアラ

## 5. 現代生活学部生活デザイン学科

馬場美和子

ウィービングデザイン演習A/ウィービングデザイン演習B/ファッション・インテリアファブリックデザイン演習

生活デザイン学科では、卓上機や高機を使って、織物作品を制作し、ファッションやインテリアファブリックのデザイン・設計を学ぶ授業を、2年次後期から3年次後期までの間に3科目設定している。

2年次後期に開講されるウィービングデザイン演習Aは、テキスタイル材料学で学んだ織物に関する基礎知識をもとに、卓上機を使用して基礎織の設計及び応用作品としてランチョンマットの製織を行い、テキスタイルデザインの基礎的な理論と技術を学ぶ科目である。授業では、基礎織（平織、斜文織）と「食を彩る」をテーマに、ランチョンマットを制作した。講評会では制作したランチョンマットの上に料理を載せた写真を撮り、プレゼンテーションを行った（写真1、2）。

作品展では料理を載せた写真も同時に展示し、テーマである食を彩るランチョンマットの雰囲気が伝わるようにした（写真3、4）。

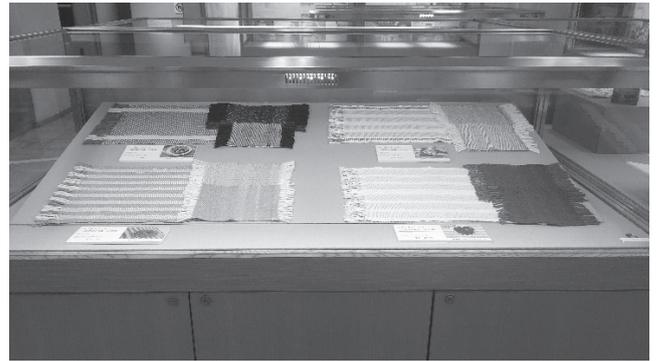


写真4 展示風景

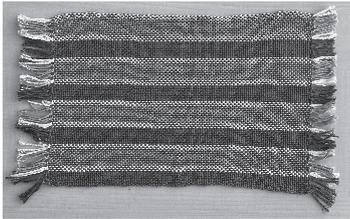


写真1 ランチョンマット（時田菜由）



材料：生絹(ワタ)200g前後(縦横約30cm×30cm)  
 アイロン掛け機、織機、製織機(織機は7号の糸)  
 1.ワタを洗って乾燥し、織機にセットする。織機を準備し、織機にワタをセットする。織機を準備し、織機にワタをセットする。  
 2.織機を準備し、織機にワタをセットする。織機を準備し、織機にワタをセットする。  
 3.ワタで織る。織機を準備し、織機にワタをセットする。  
 4.完成品は、織機から取り出し、アイロンをかける。アイロンをかける。  
 アイロンがけ  
 織機から取り出し、アイロンをかける。織機から取り出し、アイロンをかける。  
 1000122 朝日産業

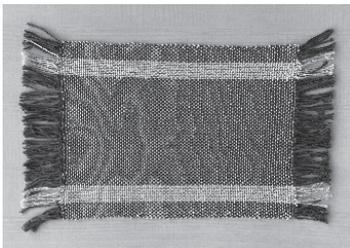


写真2 ランチョンマット（小松花帆）



材料：生絹(ワタ)200g前後(縦横約30cm×30cm)  
 アイロン掛け機、織機、製織機(織機は7号の糸)  
 1.ワタを洗って乾燥し、織機にセットする。織機を準備し、織機にワタをセットする。  
 2.織機を準備し、織機にワタをセットする。織機を準備し、織機にワタをセットする。  
 3.ワタで織る。織機を準備し、織機にワタをセットする。  
 4.完成品は、織機から取り出し、アイロンをかける。アイロンをかける。  
 アイロンがけ  
 織機から取り出し、アイロンをかける。織機から取り出し、アイロンをかける。  
 1000122 朝日産業



写真3 展示風景



写真5 袋織の巾着袋（小川夏生）

3年次前期に開講されるウィービングデザイン演習Bは、基礎織の応用である変化組織・二重織の技法を学び、卓上機または高機を用いて、技法、糸、デザインを工夫した布を制作し、用途を考える。作品によっては、織った布を天然染料のすくも藍で染色している。授業では、変化組織のサンプル製織、袋織で無縫製の巾着袋を制作している。作品展では、小川夏生さんのすくも藍で染色した巾着袋（写真5）やワッフル織のポーチ、吉野織のテーブルセンターを展示した。

3年次後期に開講されるファッション・インテリアファブリックデザイン演習は、ウィービングデザイン演習で織った布や様々な布を参考に、イメージに合ったファッションまたはインテリアテキスタイルの企画を立て、プレゼンテーションボードを作成し、作品制作を行い、用途に応じたテキスタイル設計のプロセスを学ぶ(写真6)。授業では、最初に各自で企画したヴィジュアルイメージボードに沿った織物設計を行い、マフラー・ショールまたはバッグ、クッションカバー、テーブルランナーなどを制作している（写真7）。

学籍番号 1993112 氏名 小川夏生	
タイトル	Sun&Smile
キャッチコピー	太陽のように輝く笑顔がみんなの元に届きますように
コンセプト	自然の色、太陽や笑顔イメージをオレンジや黄色で表現する。明るい雰囲気にしてこのアイテムを身に付けることによって笑顔になってほしいという願いを込める
アイテム	マフラー
サイズ	26cm幅 172cm長さ
カラーイメージ	
作品の背景 (イメージ画像)	



写真6 イメージボードと制作作品の一例(小川夏生)



写真7 展示風景

## 6. 現代生活学部生活デザイン学科

深石 圭子

### はじめに

生活デザイン学科住生活デザイン分野の卒業研究は、卒業制作と研究論文に分けられ、そのどちらかの方式で指導される。令和3年度は19名中、17名が制作に取り組んだ。設計を選択し、自ら課題を見つけ、それを建築で解決する方法を考察し、作品として表現する。

### 「トリノモリ 新と旧が混在する上野で鳥と戯れる複合施設」

伊野 文乃

伊野さんは、東京都台東区の上野駅近くで鳥と触れ合える宿泊可能な温泉施設の設計に取り組んだ(写真1)。

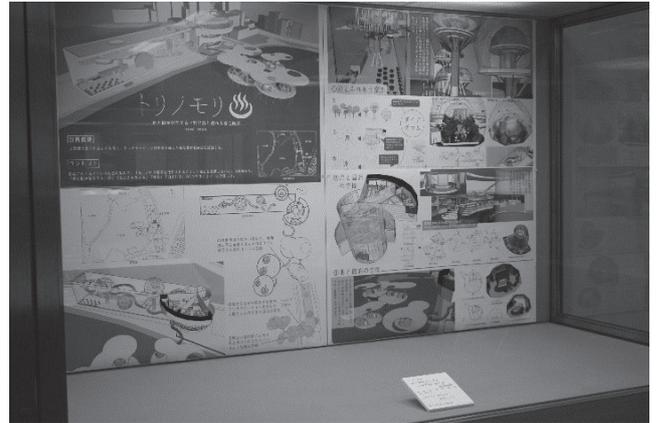


写真1 展示風景

美術館や博物館など歴史や芸術に触れることのできる施設が多い上野であるが、その一方で下町情緒の溢れる町並も所々に残されている。台東区は、東京23区内で最も面積が小さい区にも関わらず、23件の個性ある銭湯が存在する。また、近年は再開発に伴い、多くのビルが立ち並んでいる。本作品は、このように新旧が入り混じる街に、いくつかのモノを掛け合わせることで生まれる新しいモノを見出している。ストレス社会と言われる昨今、心を癒やすことのできる施設を設計するため、作者の好きな「鳥」、「歴史のある銭湯」、そして「泊まる」という行為を掛け合わせた複合施設を提案した。

計画地は、京成上野駅の西側の敷地で、上野の代表的な観光スポットである不忍池を一望できる場所である。施設は、大きく分けて3つの空間に分かれている。一つ目は、熱帯地域の鳥やインコなどの小鳥と種類別

に至近距離で触れ合える鳥の「オアシス空間」である。二つ目は、鳥を見ながら足湯や岩盤浴、バーなどでリラックスでき、きちんと湯に浸かることで心身を癒すことのできる「温浴空間」である。そして三つ目は、施設の目の前に広がる不忍池の湖上で泊まることのできる「宿泊空間」である。また、施設全体的には不忍池に浮かぶ蓮の葉や周囲に神社などがあることから、「和」を意識したデザインとしている。

「オアシス空間」では、あたかも森の中で鳥と触れ合っているように感じられるよう不忍池に面してガラス張りとし、樹木の幹に見立てた構造の上部に鳥の種類に応じて温室を分けて鳥を放す計画とした。来場者は、樹木に見立てた幹にあるエレベーターで半球体の温室まで上がり、各温室に移動しながら、鳥を眺め、触れ合うことができる（写真2）。

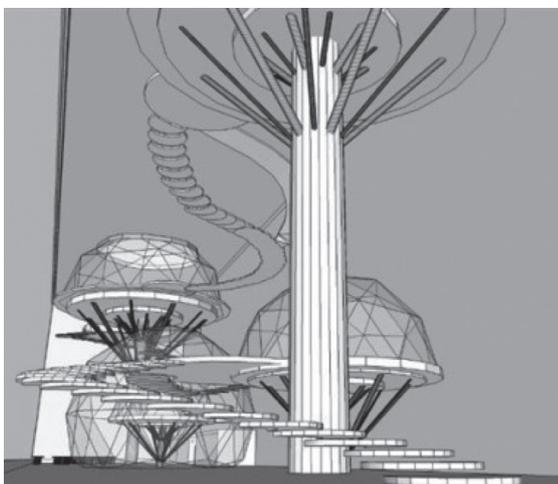


写真2 円形ユニットから成る施設

「温浴空間」は、「オアシス空間」と「宿泊空間」の間に配置されている。その外形は、円柱の形となっており、建物の中には鳥が入っているガラスケースがある。そのため、利用者はほぼどこからでも自然を感じながら過ごすことができる。

湖上に配置した「宿泊空間」は、水の波紋を意識し、円を基本とした曲線で構成され、不忍池との一体感を図っている。一人用と恋人、ファミリー用の2種類の客室を用意し、形状は、「オアシス空間」と同様に半球体にして、施設としての統一感を持たせている。

上野という新旧が入り混じる土地柄を活かし、人々がリラックスできる「オアシス空間」と「温浴空間」、そして、「宿泊空間」として鳥と戯れることのできる複合施設であるが、この3つを融合することで、新しいものを生み出そうと意図した作品であり、効果的なプレゼンテーションを用いて表現された作品である。

## 「Nénuphar クロード・モネの水上美術館」

中村 莉子

印象派を代表するフランスの画家クロード・モネ（1840-1926）（以下、モネという。）の代表作『睡蓮』は、極めて有名な作品であるが、1895年から1926年に渡り制作された睡蓮を題材に描いた一連の絵画の総称である。200点以上にも及ぶこのシリーズは、自ら自宅の日本庭園を意識して設計し、作った庭を模写したもので、同じような構図が多く存在している。同一のモチーフを繰り返し用いながら、季節、天候、時刻などによって微妙に移り変わる光の効果を捉えているのが、『睡蓮』の特徴でもある。このような表現方法は、後の作家にも多大な影響を与えている。

中村さんは、東京都台東区の上野公園内の不忍池の一角に、モネ及びモネのオマージュ作品を飾る美術館を設計した。作品タイトルは、その名も、フランス語で「睡蓮」を意味する。睡蓮の花をモチーフとして不忍池の湖上に建物を配置している。そこには、同じ風景を時間や視点を変えて描いたモネの作品と共に、季節や天候、時間の移ろいを感じられるような意図が込められている（写真3）。



写真3 展示風景

建物の形状は、睡蓮の花の形状を単純化、図形化し、2つの長方形が角度を変えて重なるように組み合わせることで、花びらが折り重なる様子を表現している（写真4）。建物のボリュームとしては、この2つの高さや

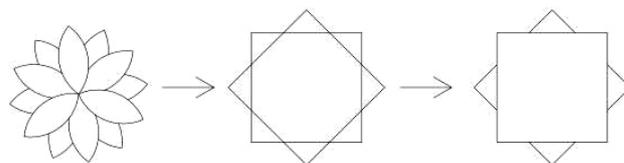


写真4 ダイアグラム

材料の異なる立方体を組み合わせることで、内部空間にもそれぞれに個性を持たせている。また、このボリュームも柱を立てて水面から浮いたように計画している。

建物は、受付兼作業室の棟と5つの展示室が湖上に配置され、各展示室を楕円の通路でつなげた構成になっている（写真5）。各展示室は、先に述べたダイアグラムの考えに従い構成されるが、それぞれ光の入り方や影のつき方、外観・内観の見え方に変化をつけるために、壁の有無やガラスの開口部の位置を少しずつ変化させている。つまり、時と共に見え方が変化するモネの『睡蓮』の表現方法を建物として具現化することで、展示物と対応して、その室内空間も様々な変化が生じるよう計画されている。さらに、展示室をとり囲む中央には、睡蓮の浮かぶ不忍池（スイレン池）が実物として存在しており、その対比も展示方法に、深みを与えている。

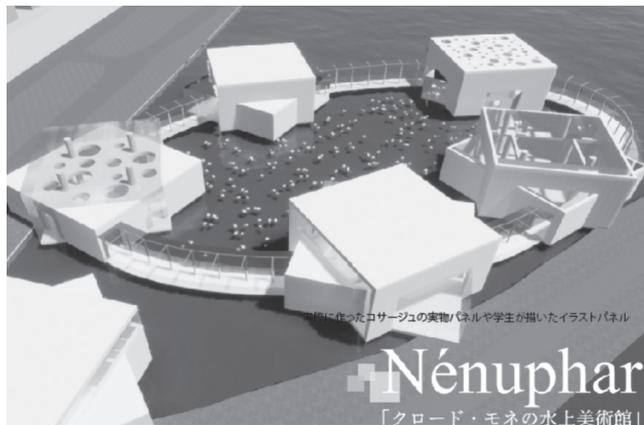


写真5 外観パース

非常にシンプルな建物の構成・形状ではあるが、その中にモネやそのオマージュの展示作品と計画した建物の内部空間に共通点を見出し、壁面とガラス面の構成のバリエーションを豊富にすることで、「見え方」や「感じ方」の違いを来館者に感じてもらうという意図が展示物の表現方法とリンクしており、面白さを感じることができる。

「Lien～集い、繋がり、共存できる宿泊体験施設～」

澤柳 美海

これまで「人と人のつながり」を卒業制作のテーマに取り上げる学生は多く存在する。コロナ禍になり、その重要性を自分の経験として改めて実感した学生も多かったように感じる。

澤柳さんは、神奈川県相模原市緑区にある敷地に、

周辺の自然を活用して、人と人がつながることができ、緑を感じることができる宿泊体験施設を計画・設計した（図6）。この敷地は、西に相模川が流れ、対岸に見える中洲には田園風景が広がる。北や東には樹木が茂っており、南には民家が立ち並ぶ。このような相模原の自然を活かしながら様々な人たちが集まり、たくさんの体験を通して、つながることのできる宿泊体験施設を設計した。



写真6 展示風景

施設の全体的な形状は、この施設が森や川などの自然に囲まれた土地であるため、全体的に葉の形状を意識し、曲線を使って自然の中になじめるようにしている。用途としては、ものづくりが楽しめるアトリエやクラフトルーム、自然を学ぶことができる学習スペース、濃密なコミュニケーションを形成できる宿泊施設や屋外炊事場、イベントのできるホールやプラネタリウム、そしてカフェやレストラン等で構成され、用途毎に内部空間を明確に分けることで、各種体験に集中できるよう配慮している。

個々の建物は、葉脈を模した形状の渡り廊下でつなげることで、互いの行き来や交流することが可能となっている。建物の外壁には、大きな窓ガラスを付けることで、室内にいても外の自然を楽しみながら体験活動ができるようにした。敷地には、全体的に芝生や木材を使用することで建物が自然に溶け込めるように考えられており、元からある自然と一体感が出るよう計画されている（写真7）。建物の高さについても、相模川に向かいボリュームを抑えるように周囲の環境に配慮した計画となっている。

この宿泊体験施設の特徴は、大人から子どもまで様々な自然体験ができるよう工夫されている。アトリエはアーティストの制作の場になることはもちろん、クラフトルームでは、施設の利用者がアーティストから直に制作方法を教えてもらうことができるように

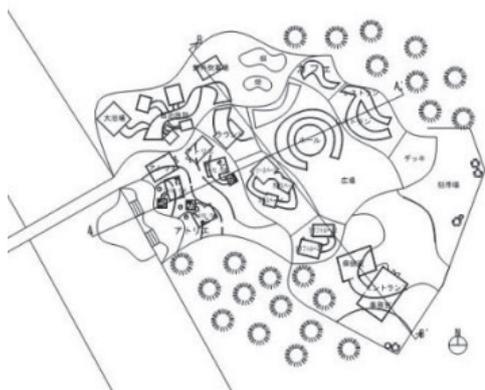


写真7 配置図兼1階平面図

なっており、アーティストとの交流やクラフトやアートをより身近なものとして感じ、より濃厚な自然体験をすることができるようになっている（写真8）。

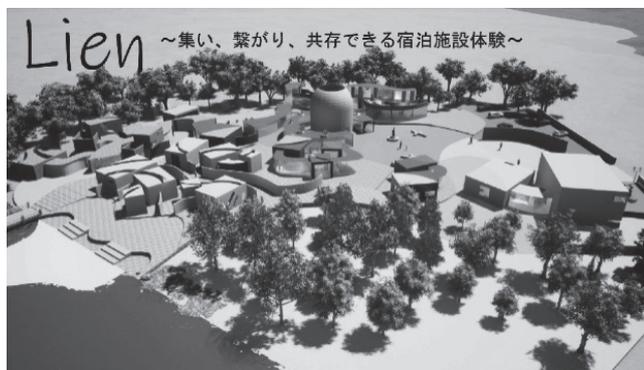


写真8 外観パース

創作活動だけではなく、共同の炊事や宿泊という行為を通して、人々が集い、人々とのつながりが強まるという点に着目した点が、非常に説得力があり、設計された施設に対しても、周辺的环境に配慮した計画が練られている作品である。

## 7. 人間栄養学部人間栄養学科

江川 賢一

### 令和3年度実践栄養プロデュース実習（運動生態学研究室）

令和3年度学生成果展に運動生態学研究室で実施した実践栄養プロデュース実習の成果を出展した。本稿では展示内容の概要を報告する。

運動生態学研究室は運動生態学を標榜したわが国最初の研究室として、平成30（2018）年に開設された。学部における管理栄養士養成課程専門基礎科目「運動

生理学」、専門発展科目「スポーツ選手の栄養学」、大学院における「運動生態学特論」をはじめとして、人々の運動と健康に関する教育研究を展開してきた。昨年度の学生成果展では現代生活学部健康栄養学科4年次の「実践健康栄養プロデュース実習」において1回生（平成28（2016）年入学）3題および2回生（平成29（2017）年入学）8題を出展した。

人間栄養学部人間栄養学科3年次と4年次に配置されている「実践栄養プロデュース実習」では、アスリート、ジュニア選手のほか、一般向けに広くスポーツ栄養を普及するために「スポーツ栄養サポート活動」を実施している。この活動はスポーツ栄養に関する教育と、運動生態学研究室スポーツ栄養研究会のフィールド研究として実施している（写真）。

3回生（平成30年入学）はコロナ禍において活動制限がある状況で実施可能なテーマを模索した。学生自身の出身高校では「高校女子ソフトボールチームにおける栄養教育が試合期の食生活に及ぼす効果」（横田絵里香，葛祐香，森池あおい）について簡便なパンフレットの配布でも選手の食生活が変化することを報告した。学生と交流のある大学では「男子大学野球選手における試合期の練習と試合当日の補食の摂取状況」（上田瑚子，高橋和枝）から練習日も試合当日も補食を摂取していることを報告した。学生自らが試験食を摂取した「アトピー性皮膚炎の既往歴を有する女子大学生におけるたんぱく質付加食がかゆみに及ぼす影響」（渡辺夢季，佐藤美友希，中津川真由）では、1週間の短期効果を認めた。コロナ禍での活動制限の影響を「女子大学生の食生活と健康状態の関連性」（笹川菜々子，佐々木星奈）から検討したところ、朝食欠食の問題が明らかにされた。



写真 「実践栄養プロデュース実習」パネル展示風景

令和4年度はスポーツ栄養関連の研究成果を第68回アメリカスポーツ医学会（サンディエゴ）、日本スポーツ栄養学会第8回大会（相模原市、相模女子大学）、第44回ヨーロッパ臨床栄養代謝学会（ウィーン）のほかに、学生発案のテーマについて第77回日本体力医学会（宇都宮）で発表した。また、人間栄養学部コホート研究「管理栄養士養成課程における女子大学生の運動・食習慣は学業成績と関連するか？」の成果を国際栄養学会議（ICN2022）で発表した。今後、スポーツ栄養学を中心課題とした本実習から、運動生態学の普及・発展に貢献することが期待される。

## 8. 人間栄養学部人間栄養学科

加藤理津子

### 千代田区における和食文化・芸術の体験プログラム開発に関する研究活動

#### 1. 研究活動の背景

本学では、千代田区の様々な事象を多様な切り口で調査・研究する「千代田学」に参加し、区と連携して研究活動を行っています。

千代田区は政治、経済において先進的であると同時に、江戸時代からの文化資源を要するなど多面性も持つ地域であり、食の面においても和食文化を支える老舗が多いことが特徴です。人間栄養学科では令和元～2年度にわたって和食の伝統文化を切り口に学生が千代田区内の老舗や専門店を巡って取材し、千代田区の新たな魅力を発掘する活動を行ってきました。そして、その成果物として「千代田区和食文化体験プラットフォーム」を開発し、ホームページ「たべちヨダ (<https://tabechiyoda.com/>)」を立ち上げました。本ホームページでは、千代田区内で和食の伝統文化を見たり、味わったりできる場を紹介するだけでなく、学生の視点から商品や文化、店主の想いをまとめた取材記録を掲載しています。千代田区に通学しているながら地域を知る機会のなかった学生にとっても、管理栄養士として必要な素養である地域への理解、社会資源を探索して発信する力を養う貴重な機会となりました。

#### 2. 令和3年度の活動内容

##### (1) 千代田区内店舗との商品開発

政府が新型コロナウイルス感染予防のための「新しい生活様式」を推奨した結果、人々の食の消費行動が変化しており、特にテイクアウト、デリバリーといった中食利用率の上昇は今後も続くと考えられます。そ

こで、和食文化体験の拠点を記した「たべちヨダ」を地域資源の循環に活用することを目指し、千代田区内の店舗と共同で新商品の開発を行いました。開発にあたっては、学生が店主に取材し、その内容を具現化することを目指しました。協力店と完成した新商品は以下の通りです（表、写真1）。

表 協力店舗と新商品

店舗名	新商品
レストラン1899 御茶ノ水 (千代田区神田駿河台3-4)	六煎茶セット
神田淡平 (千代田区内神田2-13-1) 天野屋 (千代田区外神田2-18-15)	江戸味噌せんべい
宝来屋 (千代田区九段南2-4-15)	うぐいすあんのほうじ茶 どら焼き



写真1 学生が開発した新商品

##### (2) 新商品を活用した食育活動

子どもたちに食べることを楽しむ心を育む、和食文化やモノづくりへの興味関心を高める、表現力などの感性を養うことを目的に、新商品を活用して東京家政学院中学校の生徒を対象とした和食文化体験プログラムを開催しました（写真2）。



写真2 和食文化体験プログラムの会場

まず、各商品を開発した学生が商品開発の過程および商品について説明した後、生徒に商品を配布しました。なお、試食は感染症予防対策のため各生徒の自宅で行ってもらいました。また、生徒には、新商品についての食レポ記事と商品や店舗をイメージしたデザイン画を作成してもらいました。

生徒から提出されたデザイン画の中から投票で5作品を選出し、その作品をプリントしたエコバッグを制作しました。各協力店にエコバッグを配布し、環境に配慮した販促グッズとして活用していただきました(写真3)。

新商品やエコバッグの制作にかかわった学生や生徒にとっては、和食文化や地域資源に対する関心を高めると同時に、若い世代が食の文化を伝える機会となりました。また、本活動は、千代田区内の店舗と地域住民や利用者とのパイプ役を担い、地域の活性化やイノベーションに貢献できたと考えられます。



写真3 完成したエコバッグと店舗での販促活動

令和3年度第12回企画展  
「教員研究成果展」

佐藤 広美\*<sup>1</sup> 杉野 学\*<sup>2</sup> 原 光彦\*<sup>3</sup>

令和3年度に開催された「教員研究成果展」(会期：令和4(2022)年2月24日(水) - 4月22日(金))では、教員の専門分野における研究成果を紹介している。

令和3年度教員研究成果展展示報告  
現代生活学部現代家政学科

佐藤 広美

教育学研究の歩み

東京家政学院大学を去るにあたって、心のどこかに、拙いものであっても自分が一生懸命に書いたものの記録は残しておきたい、お世話になった方々、学ばせていただいたみなさんに感謝の気持ちのようなものを示しておきたい、という思いで記します。

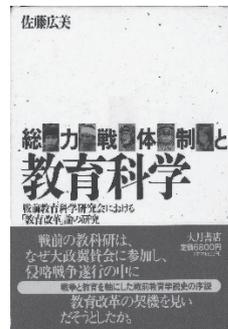
私は、自分の専門は何かを聞かれるといつも困っていました。はっきりしないのです。ほんとうに、ここ数年でやっと日本近現代教育思想史研究かな、と言えるまでになりました。専門性を深めるといよりは、教育と人間の根本的な問題が気になってしかたない、という風な問いを立て続けてきた人間のような気がします。学生さんと一緒に自分と教師の生き方を考えてみる、そのような教育学的志向を抱えてきた人間であったような気がします。私のような研究スタイルを許してくれたのが東京家政学院大学の環境であったのかなと思っています。

専門性にこだわってそこをふかく追い求めるというよりは、むしろ教育の問題に張りつく人間の根本をあれこれ考えていく、そのような研究的な習慣(habit)が形成されてきたということです。あいまいさは残りますが専門を超えて人間の根源にできるだけ触れる、そのような研究をやってみたい。そうしたこだわりが許されたということでしょうか。

一方で、戦時下の教育と教育学を検討した最初の著作『総力戦体制と教育科学』で試みた歴史研究を手放さないようにしようと考えました。教育と教育学における戦争責任問題(=戦後教育学とは何かにつながる)については、今後も考え続けていけたらと思っています。

今、「老齢期の学問」ということを考えはじめています。「加齢は人をラジカルにする」(天野正子)。だんだんと死に近づいていくにしたがって、本当のところ自分のやりたいことはなんだったのだろう。このような問いかけを、人は「老い」を自覚することで始めるような気がするのです。私もラジカルな問いを宿すことのできる歳恰好(老いの準備)になっていけばよいのかなと思っています。

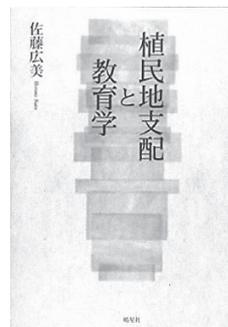
単著書籍



『総力戦体制と教育科学』

佐藤広美著、大月書店、1997年刊

あらすじ：戦前の教育科学研究会(教科研)はなぜ大政翼賛会に参加し、侵略戦争遂行の中に教育改革の契機を見いだそうとしたか。戦争と教育を軸にした戦前教育学説史の序説。



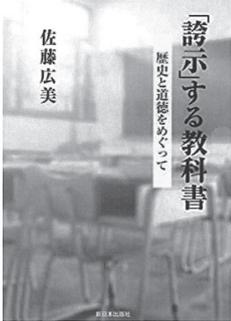
『植民地支配と教育学』

佐藤広美著、皓星社、2018年刊

あらすじ：大東亜共栄圏期、教育学者たちを植民地支配へ導いた「躓きの石」は何だったのか。戦後にいてなお検討されずにきたこの問題に切りこみ、思想的

\*<sup>1</sup> 佐藤 広美 (さとう ひろみ) 令和3年度現代生活学部現代家政学科教授  
\*<sup>2</sup> 杉野 学 (すぎの まなぶ) 令和3年度現代生活学部児童学科教授  
\*<sup>3</sup> 原 光彦 (はら みつひこ) 令和3年度人間栄養学部人間栄養学科教授

根拠を問う。植民地教育史研究で、教育学の反省とあるべき姿を追求し続けてきた著者の論文を一冊にまとめた。

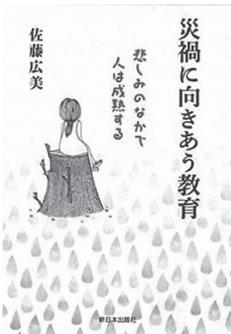


『「誇示」する教科書—歴史と道徳をめぐって』

佐藤広美著、新日本出版社、2019年刊

あらすじ：「日本の支配で植民地が発展」「日本人の国民性は優れている」……このように読める歴史や道徳の教科書が問題

になってきた。その叙述を詳しく分析。またその社会観や人間観、安倍政権との関係を論じるとともに道徳の教育に真摯に向き合った先人の思想も紹介する。教科書が何かを「誇示すること」の危うさに警鐘を鳴らす。

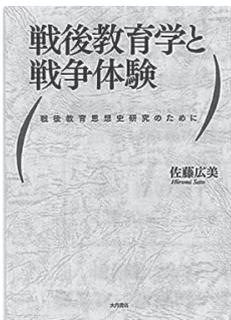


『災禍に向きあう教育—悲しみのなかで人は成熟する』

佐藤広美著、新日本出版社、2019年刊

あらすじ：苦しみ・悲しみを分かち合いながら再生をめざす。たたかいの中で自分の内なるものを見つめる……受け入れがたい

出来事の中で人は何を考えるのか。そこにある風景、地域の持つ意味とは何か。東日本大震災、水俣、ヒロシマ、沖縄…数々の災禍を生き延びた人々の事例から、その思想を教育と子どもの幸せにどう生かすかを探求する。



『戦後教育学と戦争体験—戦後教育思想史研究のために』

佐藤広美著、大月書店、2021年刊

あらすじ：敗戦後、教育科学研究会（教科研）を再開した教育学者たちは、自らの戦争体験と教育学界の戦争協力の過去をど

のように総括し思想化したのか。中心となった勝田守一、宗像誠也、山住正己らの思想を検証し平和への教育学として継承する。

その他、監修編集（解説）、編著・共著（分担執筆）、調査報告集、論稿、書評、学会口頭発表、エッセイ、時論、講演、座談、インタビューなど多数あり。

略歴

- 1954年8月18日 北海道夕張に生まれる
- 1977年3月 北海道教育大学札幌分校卒業
- 1982年3月 東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程教育学専攻修了
- 1988年6月 東京都立大学大学院人文学部研究科博士課程教育学専攻満期退学
- 1988年7月 東京都立大学人文学部助手
- 1996年4月 東京家政学院大学家政学部助教授
- 2007年4月 東京家政学院大学家政学部教授
- 2011年4月 東京家政学院大学現代生活学部教授

学位

- 阿部重孝における教育制度論の形成 東京都立大学教育学修士 1982年3月
- 総力戦体制と教育科学—戦前教育科学研究会における「教育改革論」の研究、東京都立大学 博士（教育学） 1995年3月

所属学会・研究会

- 日本教育学会、日本教育法学会、日本教育政策学会、教育史学会、日本教育史学会、日本教育史研究会、日本植民地教育史研究会、教育科学研究会、地域民主教育全国交流研究会、

諸活動

- 1997年 日本植民地教育史研究会事務局長
- 2003年 『教育』編集長（9月～2006年6月）
- 2007年 教育科学研究会副委員長
- 2010年 『教育』編集長（11月～2012年11月）
- 2019年 日本植民地教育史研究会代表（2021年3月まで）
- 教育科学研究会委員長（2022年8月まで）

## 主な著作紹介

### 【著書】

1. 『特別支援学校における学校組織マネジメントの実際』  
単著、平成27（2015）年11月、ジアース教育新社、260頁
2. 『発達障害の理解と指導』  
杉野学、梅田真理、柳瀬洋美編著、平成30（2018）年3月、大学図書出版、第1章20頁執筆
3. 『特別支援教育の基礎』  
杉野学、長沼俊夫、徳永亜希雄編著、平成30（2018）年3月、大学図書出版、第1章20頁、第5章15頁、第16章6頁執筆
4. 『特別支援教育概論』  
杉野学編著、平成31（2019）年3月、大学図書出版、第1章10頁、第2章10頁、第12章10頁執筆
5. 『特別支援教育論』 単著、平成31（2019）年3月、大学図書出版、166頁
6. 『エピソードでひもとく知的障害児の理解と支援』  
単著、令和2（2020）年3月、大学図書出版、191頁
7. 『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』  
杉野学、上田征三編著、令和2（2020）年5月、大学図書出版、第1章14頁執筆
8. 『共に学ぶ特別支援教育の基礎と実践』  
単著、令和3（2021）年8月、ジアース教育新社、233頁

### 【紀要等】

1. 「キャリア教育のカリキュラム・マネジメントの方法に関する考察」  
単著、平成29（2017）年8月、東京家政学院大学紀要第57号20頁

#### <概要>

A特別支援学校（肢体不自由）のキャリア教育に関するカリキュラム・マネジメントの事例に基づき、肢体不自由教育におけるキャリア教育のカリキュラム・マネジメントの方法を検討することを目的とした。本論考では、キャリア教育のカリキュラム・マネジメントに、PDCAサイクルを取り入れた「学校経営計画PDCA一覧表（試案）」と、キャリア教育の推進状況を自己診断する「自己変革型キャリア教育推進シート

（試案）」を併用することで、学校経営計画・教育課程編成・授業改善を関連づけたカリキュラム・マネジメントを展開する方法を考察した。結果から、両試案を併用したカリキュラム・マネジメントを、校内で組織的・計画的に進めることが、キャリア教育を推進するために効果的であることが示唆された。

2. 「日本語指導のカリキュラム・マネジメントに関する考察」  
単著、平成30（2018）年1月、現代児童学研究会研究紀要第1号、20頁

#### <概要>

日本語指導のカリキュラム・マネジメントに関する「特別の教育課程」を構成する要素や、その基盤となる外国人児童生徒に対する教育的配慮の内容を明らかにすることを目的とした。まず、新学習指導要領に基づき特別な教育課程を編成する際の要素を捉えた。次に、特別支援学級担任へのアンケート結果を基にして、外国人児童生徒に対する教育的配慮の在り方を検討した。これらの結果から、特別の教育課程を編成・実施する際に必要な10要素とPDCAサイクルの流れ及び担任の教育的配慮などの6要素が、日本語指導のカリキュラム・マネジメントを推進するために必要な要素であることが示唆された。

3. 「学級担任による貧困の問題を抱える子どもへの教育的配慮に関する考察」  
単著、平成30（2018）年3月、東京家政学院大学第4回教師教育研究会、6頁

#### <概要>

貧困の子どもを担当する際の教育上の配慮を明らかにすることを目的として、東京都A区立小学校特別支援学級担任22名を対象に、貧困の子どもに対する担任の教育的配慮に関する質問紙調査を行った。貧困の子どもに対する「教育上の配慮点」に関する自由記述の回答内容を、①子どもへの配慮、②保護者への配慮、③教材費等の徴収、④学用品等の準備、⑤関係機関との連携、⑥その他に類別した。特別支援教育における個別の教育支援計画作成や校内委員会による組織的な支援の手法を用いて、地域関係機関も含めた組織的で総合的な一元化したチーム対策を推進することの重要性について論述した。

4. 「特別支援学校（知的障害）の授業改善の方法に関する考察」  
単著、平成30（2018）年8月、東京家政学院大学

## 紀要第58号、17頁

## &lt;概要&gt;

特別支援学校（知的障害）におけるカリキュラム・マネジメントに着目して、PDCAサイクルを踏まえた授業改善を推進するための方法を検討することを目的とした。特別支援学校（知的障害）用の授業の自己診断シート（試案）を作成し研究授業で活用することで、授業者の自律的な授業改善を推進する方法を考察した。その結果、講師による授業者への指導・助言と自己診断シートを併せて授業の振り返りを行うことが、学習指導を充実するために効果的であることが示唆された。

## 5. 「カリキュラム・マネジメントと関連付けた授業改善の方法に関する研究」

単著、令和元（2019）年6月、現代児童学研究会研究紀要第2号、19頁

## &lt;概要&gt;

カリキュラム・マネジメントの視点で、特別支援学校（知的障害）における授業改善の方法について検討することを目的とした。まず、新学習指導要領で示されたカリキュラム・マネジメントと授業改善との関連について概説した。次に、A特別支援学校（知的障害）における授業研究に基づき、PDCAサイクルを踏まえた自己診断シート（試案）を活用した授業改善の方法を検討した。これらの結果から、自己診断シート（試案）を活用してPDCAの流れで授業評価を行い再構成した授業を実践することが、カリキュラム・マネジメントによる組織的な授業改善を推進するための方法の一つであることを検討した。

## 6. 「小学校の特別支援教育体制に関する考察」

単著、令和元（2019）年8月、東京家政学院大学紀要第59号、21頁

## &lt;概要&gt;

インクルーシブ教育システムに着目して、特別支援教育の意義や推進の方向及び校内委員会の組織運営と教育相談の基本的考えやあり方を概説した。次に、小学校教員を対象に発達障害等の特別な教育的支援を必要とする児童への指導・支援と困難を感じていることに関する調査を実施し担任の支援状況を把握するとともに、学級経営や校内支援体制の在り方について検討した。インクルーシブ教育システムにおいては、特別支援教育の視点で学級経営や教育相談を行うことが重要であり、合理的配慮に基づいた指導・支援を充実することについて論考した。

## 7. 「発達障害児への合理的配慮に基づく支援に関する一考察」

単著、令和2（2020）年8月、東京家政学院大学紀要第60号、20頁

## &lt;概要&gt;

学校教育における合理的配慮に着目して、関係する法令等や学習指導要領との関連を踏まえながら、通常の学級における発達障害等のある児童生徒への支援のあり方について概説した。また、小学校通常の学級担任を対象に発達障害等の特別な支援を必要とする児童への学習指導上の問題点や支援に関する調査を実施することによって担任の支援状況を把握するとともに、合理的配慮の3観点との関連についても明らかにした。学習指導上の支援は、合理的配慮「教育内容・方法」の「学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮」、「情緒・コミュニケーション及び教材の配慮」を中心として、障害特性や学習の基盤となる意欲・態度面及び書字指導への支援など、多岐に渡ることが判明される。合理的配慮について教科ごとの配慮点や、自立活動の指導との関連で、通常の学級における支援のあり方を論考した。

## 8. 「合理的配慮に基づくHR指導に関する一考察」

単著、令和3（2021）年3月、東京都高等学校特別活動研究会紀要第56号、21頁

## &lt;概要&gt;

高等学校通常の学級に在籍する肢体不自由のある生徒へのHR担任の実践例を基にして、HR指導への活用を資するためのHR支援シート（試案）と作成手順を提言することを目的とした。まずHR支援シート（試案）作成については、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）と学校生活カード（個別の指導計画）の中から、HR支援に関連する項目を選択しシートを作成した。次に、実践事例を基にして特別な教育的ニーズのある生徒に対するHR担任の効果的支援をPDCAサイクルで分析し、必要な支援例を抽出した。これらを基にして、HR支援シート（試案）を作成し効果的な支援内容・方法の提言を行った。

### 私のライフワークとしての小児肥満研究

専門分野である小児肥満に関する研究成果として、日本肥満学会誌「肥満研究」に掲載された論文や日本小児保健協会での活動、共働事業などを紹介します。

### 日本肥満学会誌「肥満研究」関係

### 肥満研究に関する雑感

私が、初めて日本肥満学会の学術集会に参加したのは、卒後2年目の1987年に仙台で開催された第8回学術集会であった。私は卒後小児科学に入局していたが、小児科以外の学術集会に参加するのも発表するのもこの時が初めてであった。当時の肥満学会は、食欲調節や摂食行動、脂肪代謝と自律神経系に関する研究等が盛んで、基礎から臨床までの興味深い研究結果が報告されており、学術集会のアカデミックな雰囲気と bench to bedside の姿勢に強い憧れと共感を覚えた。この時の発表を契機として小児肥満の臨床研究を始め、第8回以降現在まですべての学術集会に参加・発表させていただいている。国際学会に初めて参加したのも、1990年に神戸で開催された6th International Congress on Obesity (ICO) であった。その後、1994年トロントで開催の7th ICO、1998年パリ開催の8th ICO、2002年シドニー開催の10th ICOにも参加して、多くの著名な先生方と交流できたことは研究を続ける上で大きな励みになった。

わが国の肥満研究は、1994年のレプチン発見からアディポサイトカインに関する研究が盛んになり、その後のアディポネクチン等に関する研究成果から、過剰な内臓脂肪蓄積がアディポサイトカインバランスの乱れや全身性の慢性炎症を引き起こし、さまざまな生活習慣病を生じさせることが明らかになった。小児肥満領域でも、過剰な内臓脂肪蓄積が肥満に伴う健康障害と関係があることが確認され、小児肥満症や小児期メタボリックシンドローム (MetS) の診断基準を策定するに至った。

私は、2015年に教育施設に異動して栄養学の教鞭をとる傍ら小児肥満診療も継続している。私が行ってきた小児肥満に関する研究は、疫学調査から始まり、体組織や体脂肪分布、アディポサイトカイン、早期動脈硬化、腸内細菌叢と移っていったが、現在、最も興

味があるのは小児肥満症の治療である。肥満小児の栄養調査を行うと、早食いの者はそうでない者より、エネルギー摂取量が多く、内臓脂肪蓄積の程度が強く、血圧や肝逸脱酵素が高かった。食欲に関する研究は、学会の黎明期から連綿と続けられており、肥満治療の論理的根拠を構築するために極めて重要と思われる。

いわゆる“美味しいもの”は食欲を亢進させる。“美味しいもの”とは、エネルギーのもとになる糖質(甘味)、タンパク質のもとになるアミノ酸(うま味)、主なミネラルである食塩(塩味)を含む食品であり、とくに糖質は報酬系を刺激するため依存を形成しやすい。糖質依存の形成には、ドーパミン、 $\beta$ エンドルフィン、オレキシンなどが関与している。人間は、空腹だから食べるばかりでなく、美味しいから食べる、寂しいから食べるなど情動も食欲に大きく関係し、情動は環境や社会状況の影響を受ける。

COVID-19パンデミック下の現在、新鮮で安価な食品へのアクセスが難しくなり、直接的な人的交流が制限され、多くの人たちは慢性的なストレスに耐えながら生活している。これらはすべて肥満を憎悪させる要因であり、ストレス下の食欲調節や食行動に関する研究は、極めて今日的な課題といえる。

フランスの法律家・政治家であり「味覚の生理学」(日本語題名:美味礼讃)の著者であるブリア=サヴァランは、著書の冒頭に“国民の盛衰はその食べ方いかんによる”という格言を掲げている。

学会員の先生方のさらなるご活躍によって、日本肥満学会が主体となって国民が健康で幸福になるためのエビデンスに基づいた“食べ方”を発信することを大いに期待している。

(「肥満研究」(Vol.27 No.1 2021) <巻頭言>より抜粋)

### 小児肥満症診療ガイドライン策定と肥満症対策

索引用語：小児肥満症、ガイドライン、小児生活習慣病予防健診

肥満は成人後の心血管病 (cardiovascular disease : CVD) や2型糖尿病 (type 2 diabetes mellitus : T2DM) の発症リスクを高めるだけでなく、小児期からさまざまな健康障害を引き起こす。肥満は健康障害のない「肥満」と、健康障害を合併するか、合併が予測される「肥満症」に二分される。日本肥満学会は2000年、世界に先駆けて「肥満症」の概念を発表し、2002年に同学会の小児適正体格検討委員会が「小児肥満症判定基準」を策定し、小児でも医学的管理が必

要な「肥満症」の概念が明確になった。その後、小児の高血圧や糖尿病の診断基準が改訂されたことから、小児肥満症判定基準が見直され、2014年に小児肥満症診断基準（概要）が発表された。

そして、その内容を元に「小児肥満症診療ガイドライン2017」（GL2017）が発刊された。GL2017は6歳以上18歳未満に適用され、診断項目に早期動脈硬化症や高non HDL-C血症が加えられ、参考項目に運動器検診結果を反映する運動器機能障害や developmental origins of health and disease (DOHaD) の概念を反映する出生体重が加えられた。

肥満は遺伝的素因に望ましくない生活習慣が蓄積されることで形成されるため、肥満に伴う健康障害は予防可能である。肥満症対策は早期に行うほど効果的である。小児肥満症の予防効果を上げるには、教育現場の校医や教職員、スポーツ現場の指導者の協力と、地域社会や家庭の「小児肥満症」への正しい理解が不可欠である。

そこで、GL2017の執筆者が中心になって、GL2017の内容を平易に解説した「子どもの肥満症Q & A」を作成した。

さらに、GL2017に掲載されている小児肥満症や小児期メタボリックシンドローム (metabolicsyndrome: MetS) の診断基準に準拠した新しい小児生活習慣病予防健診システムを構築した。多数の疫学調査から学童期以降の肥満の多くは、その起源が幼児期にあることが明らかになったため、幼児期からの肥満予防を目的とする「幼児肥満ガイド」も作成した。

(「肥満研究」(Vol.26 No.3 2020) <解説企画>より抜粋)

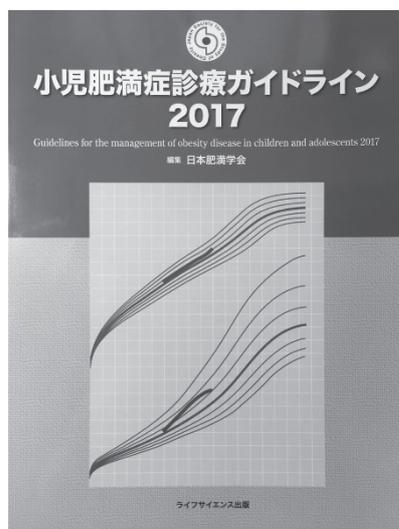


写真1 日本肥満学会編集の書籍

## 簡易型自記式食事歴法質問票 (BDHQ) で評価した肥満小児の脂肪摂取量やイソフラボン摂取量と腹囲身長比との関係

原 光彦\*<sup>1,2,3</sup>、齊藤恵美子\*<sup>1,2</sup>、阿部百合子\*<sup>2,3</sup>、岡田知雄\*<sup>3,5</sup>

\*<sup>1</sup>東京家政学院大学現代生活学部健康栄養学科、\*<sup>2</sup>東京都立広尾病院小児科、\*<sup>3</sup>日本大学医学部小児科学系小児科学分野、\*<sup>4</sup>NTT東日本関東病院小児科 \*<sup>5</sup>神奈川工科大学バイオ科学部栄養生命科学科

索引用語：BDHQ、肥満、腹囲身長比、イソフラボン、ゲニステイン

小児の肥満症やメタボリックシンドローム (Metabolic syndrome: MetS) の予防や治療には、日常の食事摂取状況のアセスメントが必要である。今回、小児でも妥当性が証明されている簡易型自記式食事歴法質問票 (brief-type self-administered diet history questionnaire BDHQ) を用いて、6～15歳の原発性肥満小児28名 (男児20名、女児8名) を対象に、食事摂取状況アセスメントを行い、どの栄養素摂取が内臓脂肪蓄積の簡易指標と関連があるか検討した。対象全員に、身体計測、血圧測定、空腹時採血による血液検査を行い、内臓脂肪蓄積の簡易指標としては、臍周囲長 (waist circumference: WC) と腹囲身長比 (waist-to-height ratio: WHtR) を用いた。対象の平均年齢と標準偏差は、 $9.9 \pm 2.0$ 歳、平均肥満度は $+43.6 \pm 12.4\%$ 。エネルギー摂取量/推定エネルギー必要量 (EN/EER) は、 $0.99 \pm 0.28$ で、脂肪エネルギー比率は $30.2 \pm 4.5\%$ 。総食物繊維摂取量は $11.0 \pm 3.3\text{g/day}$ 、イソフラボン主要成分であるゲニステイン摂取量は $17.2 \pm 11.3\text{mg/day}$ であった。単相間では、WHtRと脂肪エネルギー比率との間に有意な正相関 ( $r = 0.51$ ,  $p < 0.01$ ) が、総食物繊維、ダイゼイン、ゲニステインとの間に有意な負の相関が見られた。 ( $r = -0.435$ ,  $p < 0.05$ ,  $r = -0.566$ ,  $p < 0.01$ ,  $r = -0.566$ ,  $p < 0.01$ ) ステップワイズ重回帰分析では、WHtRを説明する因子として脂肪エネルギー比率とゲニステイン摂取量が採用された。 ( $r^2 = 0.410$ ,  $p < 0.01$ )。今回対象とした原発性肥満小児の内臓脂肪蓄積の簡易指標であるWHtRは、脂質の過剰摂取やゲニステインの摂取不足と関連があることが明らかになった。

(「肥満研究」(Vol.23 No.2 2017) <原著>より抜粋)

原 光彦<sup>\*1,2,3</sup>、斉藤恵美子<sup>\*1,2</sup>、阿部百合子<sup>\*2,3</sup>、朝原崇<sup>\*4</sup>、高橋 琢也<sup>\*4</sup>、山城雄一郎<sup>\*5</sup>

<sup>\*1</sup>東京家政学院大学人間栄養学部人間栄養学科、<sup>\*2</sup>東京都立広尾病院小児科、<sup>\*3</sup>日本大学医学部小児科学系小児科学分野、<sup>\*4</sup>株式会社ヤクルト本社中央研究所、<sup>\*5</sup>順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座

索引用語：小児肥満、腸内細菌叢、潜在性菌血症、慢性炎症

【目的】日本人小児の肥満や動脈硬化危険因子 (risk factor: RF) 集積の有無による腸内細菌叢の違いや肥満に伴う潜在性菌血症の有無を明らかにする。【対象】6歳から16歳の小児20例。【方法】糞便を検体として細菌16S及び23S rRNA を標的とした定量的 RT-PCR 法による細菌叢解析を行った。体格の判定には肥満度を用い +20%以上を肥満とした。小児メタボリックシンドローム (Metabolic syndrome: MetS) 診断基準に含まれる腹部肥満以外のRFの有無で、RFあり群とRFなし群に分け、肥満やRFの有無による腸内細菌叢の特徴を検討した。さらに、血液を検体として同様の菌叢解析法を用いて肥満小児に潜在性菌血症が存在するか否かも検討した。肥満やRFの有無と腸内細菌叢の検討には、2型糖尿病発症例を除外した19例を、潜在性菌血症の有無の検討には20例を対象とした。【結果】糞便中の総菌数と肥満度には負の相関 ( $r = -0.53$ ,  $p < 0.05$ ) があり、非肥満群の症例が少ないものの、肥満群は非肥満群より、*Bacteroides fragilis* groupが少なかった。RFあり群は腹部肥満のみのRFなし群を比較して、高感度CRPが有意に高く、*Lactobacillus gasseri* subgroup 菌数が少なくなる傾向が認められた。20例中1例 (5%) に潜在性菌血症が認められ、肥満合併症のない中等度肥満男児であった。【結論】日本人肥満小児には、成人で報告されているような肥満惹起性の腸内細菌叢の偏倚が認められた。さらにRFあり群には腸内細菌叢の偏倚に加えて慢性炎症指標の上昇が認められた。20例中1例に潜在性菌血症が認められた。

(「肥満研究」(Vol.24 No.3 2018) <原著>より抜粋)

## 第67回日本小児保健協会学術集会優秀演題賞 受賞

学術集会で登録があった一般演題から学術集会プログラム委員より若手研究奨励賞と優秀演題賞が選出された。

### 優秀演題賞

新しい小児生活習慣病予防健診システムを用いた健診結果

— 現行の健診システムの抽出率との比較 —

原 光彦 (東京家政学院大学 人間栄養学部 人間栄養学科)

## 公益財団法人 日本小児保健協会 栄養委員会

提言：With コロナ時代の子どもの食事 (一般向け)

原 光彦<sup>1)</sup>、堤 ちはる<sup>2)</sup>、太田百合子<sup>3)</sup>、長谷川智子<sup>4)</sup>、岩田富士彦<sup>5)</sup>、花木啓一<sup>6)</sup>、桑田弘美<sup>7)</sup>、岡田知雄<sup>8)</sup>

- 1) 東京家政学院大学 人間栄養学部 人間栄養学科
- 2) 相模女子大学栄養科学部 健康栄養学科
- 3) 東洋大学ライフデザイン学部
- 4) 大正大学心理社会学部
- 5) わかくさこどもクリニック
- 6) 鳥取大学医学部保健学科
- 7) 滋賀医科大学医学部 臨床看護学講座

### 【はじめに】

急速に世界中に広がった新型コロナウイルス感染症は、2021年1月時点でも収まる気配がなく、我が国では、更なる感染拡大によって首都圏中心に緊急事態宣言が再発出される事態に至っています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延は、国民生活に大きな影響を及ぼし、子ども達の健やかな成長・発達に対する悪影響が懸念されます。

小児科医、管理栄養士、看護師、発達心理学の研究者で構成される日本小児保健協会栄養委員会では、様々な制約がある現状の中で、可能なかぎり子ども達の健やかな成長・発達を促すことを目指して、一般の方に向けたこどもの栄養に関する提言を作成しました。この提言が、With コロナ時代の子どもの望ましい食生活の維持や改善に役立てば大変嬉しく思います。

## 【新型コロナウイルス感染拡大下の子どもの栄養に関する問題点】

新型コロナウイルス蔓延に伴い、2020年に行われた休校に伴う給食の停止、経済活動の減弱による景気低迷、現在も続く三密を回避する生活やテレワークの推進と外出制限などは、子ども達の食生活にも大きな影響を及ぼしています。

- 1) 給食停止による栄養バランスの悪化（\*2020年5～6月には、ほぼ給食再開）
- 2) 景気低迷に伴う貧困による、摂取エネルギーや栄養素不足
- 3) 三密回避による直接的なコミュニケーションの減少とストレス増大
- 4) テレワークの普及による、家庭での食事の簡略化やマンネリ化
- 5) 外出制限による消費エネルギーの減少に伴う肥満の増加や悪化

新型コロナウイルス感染症が蔓延している現在、基本的な感染予防対策とともに、成長・発達の過程にある子ども達の栄養問題にも目を向ける必要があります。適切な栄養状態の維持は、感染症に対する防衛体力を高め、落ち着いた環境で美味しくバランスの良い食事を摂ることは、子ども達の不安を軽減し未来への希望を灯すからです。

## 【提言】Withコロナ時代の子どもの食事

- 1) 水分を十分に与えましょう  
（子どもは体重1kgあたりの水分の必要量が大人より多いです）
- 2) おやつは、自然な食物を選びましょう  
（菓子類より、いも類、果物、牛乳・乳製品などが適しています）
- 3) 新鮮で良質なたんぱく質を与えましょう  
（ハム・ソーセージより、魚、脂が少ない肉、大豆・大豆製品、卵などを利用しましょう）  
\*ただし、食物アレルギーで制限中の食品は除いてください
- 4) 飽和脂肪酸を控え不飽和脂肪酸を与えましょう  
（飽和脂肪酸を多く含むものは、バターや脂の多い牛肉・豚肉など、不飽和脂肪酸を多く含むものは、青魚、アボカド、オリーブ油などです）
- 5) トランス脂肪酸の摂りすぎに注意しましょう  
（トランス脂肪酸は、ファーストフード、ピザ、ドーナツやフライドポテトなどの揚げ物、クッキーなどの焼菓子、マーガリンに入っていることが多

いです）

\*トランス脂肪酸は、悪玉コレステロールを上昇させ動脈硬化を進行させます

- 6) 不足しがちな食物繊維を与えましょう  
（食物繊維は、麦ご飯、全粒粉のパン、野菜、きのこ、海藻などに含まれています）
- 7) 砂糖や食塩の摂りすぎに注意しましょう  
（味が濃いものは、食欲を増し、肥満などの生活習慣病の原因になります）
- 8) 外食より自宅で調理しましょう  
（インスタント製品や惣菜は上手に利用し、インスタント麺などの加工品を使う際は、野菜や海藻などを加えましょう）
- 9) メニュー決定や調理に子どもを参加させましょう  
（何らかの形で子どもが参加した料理は、美味しくいただけます）
- 10) 必要なら公的支援や専門家のアドバイスを受けましょう  
（経済的理由で食べるものがない場合や、子どもに持病がある場合は一人で抱え込まないようにしましょう）

## 【最後に】

子どもの生活は、食べること、遊ぶこと、寝ること成り立っています。子ども達は、必要な食べ物を適切な環境で食べることで、成長していきます。そして、健やかな成長・発達には、体を使って遊ぶことも非常に大切です。現在の、新型コロナウイルス感染症蔓延による生活の変化は、子ども達からバランスのとれた美味しい食事を楽しく食べる機会や、体を動かしてストレスを発散する機会を奪っています。栄養とは、「心と体を養い、人や社会を栄えさせる営み」です。家族は、最も小さく基本的な社会の単位であり、家族の起源は、「ともに食べること（共食）」と考えられています。

現在、コロナ禍の影響で、家で食事をする機会が増えています。この機会に、家での食事内容を見直すことによって、子どもの健康的な食事に関する理解が深まり、簡単な調理技術を身につけさせることができれば、子どもにとって一生の宝となるでしょう。この提言によって、子ども達の栄養に関する問題が、“禍（わざわい）転じて福となす”ことを祈っております。

日本小児保健協会 栄養委員会委員長 原 光彦

## 【参考資料】

- 1) 新型コロナウイルス感染症に関するQ&A:日本小児科学会HP  
[http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content\\_id=326](http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=326) (2021年1月19日 確認)
- 2) 児玉浩子、松田依果、岡山和代：平日を在宅で過ごす子どもの食・栄養・健康の問題と対応 日医雑誌, 2020, 149 (5) : 883-887.
- 3) Asakura K, Sasaki S: School lunches in Japan: their contribution to healthier nutrition intake among elementary-school and junior high-school children. Public Health Nutr, 2017, 20 (9) : 1523-1533.
- 4) 家で食事をつくると、こんないいことあるよ 日本栄養改善学会HP  
<http://jsnd.jp/shokuji.html> (2021年1月19日 確認)
- 5) WHO Nutrition News. Feeding babies and young children during COVID-19 outbreak  
<http://www.emro.who.int/nutrition/nutrition-infocus/feeding-babies-and-young-children-during-the-covid-19-outbreak.html> (2021年1月19日 確認)

## 【付録】 提言に関するQ&A (保護者の方へ)

- Q 1. 子どもがお菓子を欲しがるので、つい与えてしまいがちです。
- A 1. グラグラ食べる習慣になっているなら、買い置きはせず、見えるところには置きません。10時と15時というように親子で食べる時間を決めましょう。1日のおやつエネルギー量のめやすは1～2歳で100～150kcal、3歳以上は150～250kcalです。個人差があるので適量は次の食事に影響しない量とします。内容は、自然な食物にすると食事ですりきれない栄養素を補うことができます。小学生頃は、適量を自分でコントロールできるように、量や組み合わせを教えたり、食事の後に食べるなどルールを決めて自立を促しましょう。

### \*ポイント：

水、麦茶などの水分と固形物を組み合わせます。また、カルシウムの不足が指摘されているので牛乳・乳製品を意識するとよいでしょう。エネルギーは表示を見て水分と固形物を合わせて計算します。ジュースと

チョコレート菓子の組み合わせのように、甘いものばかりに偏ることを避けます。

- Q 2. 子どもに朝食を用意しても食べません。どうしたら食べられるようになりますか？
- A 2. 大人と一緒に食べることで食べるようになることが多いです。お腹が空いた状態にするために早起きの習慣にいきましょう。味噌汁やシチューのような水分のあるものはのど越しよく、野菜などもやわらかくなるので、食べやすく、食欲をそそります。サンドイッチやおにぎり等手でつかみやすいものも便利です。ワンパターンでもかまいませんので、おにぎりや味噌汁、サンドイッチと牛乳などがお勧めです。

### \*ポイント：

夕食時に多めに汁物を作り、残りを冷所に保存して、朝食時に再加熱して利用します。好きな具材を子どもがパンにはさめば、わざわざサンドイッチを作らなくても済みます。粉末やレトルトなどの汁・スープを利用したり、バナナやヨーグルトから始めてもよいでしょう。納豆や卵料理などを定番にすることもお勧めです。

- Q 3. バランスのとれた食事を教えて欲しいです。
- A 3. 食事の準備をするとき、惣菜を買うときは、主食、主菜、副菜の皿数をイメージします。献立を考える際には、順序を意識します。①主食(ごはん・パン・麺・シリアル)を決めます。②主菜(肉・魚介類・大豆・大豆製品、卵)を決め、調理方法(ゆでる、煮る、焼く、炒める、揚げるなど)も決めます。③副菜(野菜、いも、海藻、きのこ)を主菜の調理方法と同じにならないように決めます。④汁物・スープ(主菜、副菜に利用していない食材)を決めます。彩りがある緑黄色野菜や果物は、栄養的な価値があるばかりでなく、料理の見た目を華やかにして食欲を増す効果がありますので、積極的に摂ることが勧められます。給食などの展示や毎月の献立表も、料理の組み合わせなどが参考になります。保育園、学校などでは、3色食品群、食事バランスガイドなどから栄養素の役割を教えてください。家庭でもそれらを活用するとよいでしょう。

- Q 4. バランスよく作っても全量食べてくれないため、

つらくなってしまいます。

- A 4. 子どもはバランスよく食べられないことが多いです。初めて目にするものは、恐怖心を抱いたりする「食わず嫌い」がみられることがあります。保護者や先生など普段から接している（信頼関係の構築された）人から、励まされたり、誘われたりすることで安心感や自己肯定感がうまれるとともに、自己主張が発達してその後我慢を覚えていくという過程があるので、嫌いな食べ物を無理強いする必要はありません。調理方法（切り方、かたさ、味付けなど）や環境（食材に触れる、友達と食べる、食べる場所を変える、弁当に入れるなど）を工夫して試しながら見守ります。食べる喜びを求めて食べ物を選ぶ（自主性をもたせる）ほうが、成長とともに栄養面で優れた食べ物の組み合わせを作ることができると確認されています。そこで、残さず食べることよりも、まずは食材に興味をもたせたり、楽しく食べることを優先しましょう。

- Q 5. 家庭で食に興味をもたせるには、どんなことができますか？

- A 5. 食に興味をもたせるには、普段の生活のなかで、食に結び付けて遊んだり、体験したりして楽しく過ごすことが勧められます。それらを通して、食欲という生理的欲求を満たす楽しさ、心地よさを感じられるようにしていきます。

そこで、①手洗い、キッチンや食卓を清潔・安全にする環境整備、②子どもにふさわしい遊びや睡眠、食事などの生活リズムの確立、③言葉がけ、関わりなどで安らぎや安心感を与え、情緒の安定を図ることに努めます。

そのうえで、散歩をしながら畑の作物や近所のお家の庭の果物を観察する、一緒に買い物に行く、箸や食器を運ぶなど配膳や片付けの手伝いをする、一緒に料理をするなどの体験を通して食に興味をもたせることができます。

保育園、学校でもさまざまな食育が行われていますが、家庭でも楽しく食を体験したり、学んだりすることで、知識、表現力、思考力、意欲などが自然に養われることでしょう。

- Q 6. 子どもと一緒に食事を作ると、どんな良いことがありますか？

- A 6. 新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、人と人との直接的な交流が少なくなっています。

更に、学校教育の現場でも、遠隔授業の導入などによって、以前より実体験を通して学ぶ機会が少なくなっています。子どもと一緒に食事を作ることは、子どもや親にとって様々な利点があります。例えば、楽しみを与えること、食材に関する知識が増えること、様々な調理法を学べること、段取りや協力の大切さを学べること、できあがった料理をより美味しく感謝して頂くことができること、料理のレパートリーが増えて家庭の味が伝承できること、自分は他の人に役立っていることを実感することができること、達成感が得られること、親子の絆が強まることなどがあげられます。

一方、子と一緒に食事の準備をすると、いつもより時間がかかったり、失敗する可能性が高くなるなどの問題点もありますが、何度か経験を積み事で手際も良くなり失敗の回数も減っていきます。初めから上手にできる子どもは少ないので、失敗した経験も成長の糧になると考えて、簡単な料理から取り組むと良いでしょう。一人でも簡単な料理ができることは、大人になった後の、心身の健康を保つ上でもとても大切なことなのです。日本栄養改善学会も、家で食事を作ることの大切さをホームページ上で紹介しています。

- Q 7. 食を通じて子どもの心に寄り添うには、家ではどのようにすればよいですか？

- A 7. コロナ禍により、多人数での外出制限が続いている状況だからこそ、これまで以上に家族での食事を楽しみましょう。

私たちは食事が終わったとき、何気なく「ああ、おいしかった！」と口に出すことがあります。「おいしかった！」というのは、食べ物の匂いや味ばかりでなく、食卓の雰囲気良かったり、食卓での会話が楽しかったことをまとめて表現していることが少なくありません。

幼い子どもの好き嫌いへの対応は、子どもに嫌いな食べ物を強要するのではなく、楽しい食卓を心がけ、嫌いな食べ物を事前に取り除かずに、子どもが食べようと思えば、いつでも食べられるようにしておくとういでしょう。子どもが楽しい気持ちで食事に臨んだところ、他の人がおいしそうにその食べ物を食べているのを見て、ふと手を伸ばして食べてみたら、意外とおいしかった…そのような経験を積み重ねることに

よって、だんだんと食べられるようになることも多いです。子どもの様子を長い目でゆったり見守ることをお勧めします。

家庭での食事のあり方は多様化しており、家族揃って手作りの料理を頂くことは難しくなっています。調理時間がないときは調理済み食品を上手に利用して、子どもと一緒に食べることを優先する、子どもだけで食事をとらざるを得ないときは、誰かがそばにいて声をかけるなどの工夫をすれば、日常の食事が子どもにとって楽しく豊かな時間として記憶に残ることでしょう。

## 日本小児科学会関係

### 日本の子どもたちの栄養問題

東京家政学院大学 人間栄養学部 教授 原光彦 氏

栄養不良は途上国だけの問題ではありません。日本以外の先進国の子どもの5人に1人は過体重と言われ、2016年のデータでは、肥満小児の割合が41.86パーセントの米国を筆頭に、先進国で肥満の割合が高くなっています。

日本は14.42パーセントときわめて低い数値ではあったものの、コロナ禍で栄養に関する諸問題が噴出しています。学校給食の停止による栄養バランスの悪化、テレワークの影響による食事の簡略化・マンネリ化、外出制限による運動不足・メンタルストレスの増加、貧困による栄養素不足などがあげられます。肥満傾向の子どももコロナ禍で増えており、高血圧や糖尿病といった身体的問題に加え、自尊心の低下やいじめといった心理的問題も子どもたちを苦しめています。

一方、神経性やせ症の子どももコロナ禍以前より増加しています。若年女性のやせは胎児の栄養不足につ

ながり、摂取する栄養が少ないことを想定して低体重で生まれてくる子どもは、少しの食べ過ぎで肥満やメタボになりやすい身体になってしまいます。コロナ禍によって日本でも子どもの栄養に様々な問題が生じていることを受け、ウィズ・コロナ時代の子どもの食事に関して、十分な水分を摂る、自然な食物を選ぶ、砂糖や食塩の摂りすぎに注意するといった提言を発信しています。

(日本小児科学会ホームページより抜粋)

### 「つながる食育推進事業」関係

福島県の新地町食育推進委員会に委員として参加し、本学人間栄養学科も連携機関として参加したプロジェクトです。この活動から、レシピ集などの冊子が発行され、中心となって活躍された教諭が表彰されるなど、確かな成果があらわれている事業です。平成29年度および30年度の成果報告書から抜粋しています。

### 平成29年度「つながる食育推進事業」成果報告書

受託者名 福島県

モデル校名称 新地町立新地小学校

対象学年及び人数 全学年 200人

栄養教諭等の配置 平成28年度から栄養教諭が1人配置

#### 1 取組テーマ

「新地の子どもは、さ・わ・や・か・だ!」をスローガンに、食を中心とした生活習慣の改善等による健康課題の解消

#### 【ポイント】

和食を中心とした食生活への回帰を食の安全・安心とともに推進しながら、実態に基づき食を中心とした生活習慣の改善について継続的に指導すれば、自ずと摂取エネルギーと消費エネルギーの不均衡状態が改善され、肥満傾向児の出現率が低下するとともに児童や保護者の「健康なからだづくり」の意識向上が期待できる。加えて、地場産物活用によって食べる喜びや郷土愛の育成が期待できる。

事業展開の軸は、以下の3つとする。

- (1) 「さ・わ・や・か・だ」の実践のための食育講座(和食・地場産物活用)や食育講演会と各教科との連携を図った食に関する指導  
\* 「さ…魚、わ…和食、や…野菜 か…海藻だ…だし、大豆製品」



写真2 日本小児科学会ホームページ画面

(東京家政学院大学の原光彦教授が提唱している「さわやかダイエット」を参考)

- (2) 放射性物質検査の結果を基にした学校給食への地場産物活用と家庭への啓発
- (3) ICTを活用した調査とデータ処理による、リアルタイムな情報発信と課題解決への意欲付け

これらの事業展開により、子どもたちが主体的に「食と健康」を捉えることで、肥満傾向児出現率を4月比で-20%を目指す。併せて、健康関連データ、児童や保護者の「食と生活」に関する意識や保護者の地場産物活用の改善も目指す。

### 平成30年度「つながる食育推進事業」成果報告書

受託者名 福島県  
モデル校名称 新地町立新地小学校  
対象学年及び人数 全学年 191人  
栄養教諭等の配置 平成28年度から栄養教諭が1人配置

#### 1 取組テーマ

「さわやかだ!」をスローガンに、学校・家庭・地域の連携による食を中心とした生活習慣の改善と健康課題等の解消

#### 【ポイント】

学校・家庭・地域が連携しながら、「さわやかだ」を基盤とした食に関する指導や食育講座、食育講演会等を実態に基づいて実践していけば、家庭での食習慣・生活習慣の見直しが図られ、栄養バランスや生活リズムの乱れ、児童の摂取・消費エネルギーの不均衡状態が改善されるとともに、児童・保護者の「健康なからだづくり」に対する意識の向上や肥満・痩身傾向児の出現率の低下が期待できる。同時に学校給食や食に関する実践の中で安心・安全な地場産物の有用性をアピールしていくことで、食べる喜びや郷土愛の育成、根強い風評被害の払拭が期待できる。

事業展開の軸は、以下の3つとする。

- (4) 「さわやかだ」「地場産物活用」を基盤とした食に関する指導や食育講座、食育講演会の充実と学校・家庭・地域との連携強化  
\*「さ…魚、わ…和食、や…野菜 か…海藻だ…だし、大豆製品」  
(東京家政学院大学の原光彦教授が提唱している「さわやかダイエット」を参考)
- (5) 学校・家庭が連携し、全児童対象で実施する健康活動「すこやか」や肥満・痩身傾

向児対象の個別健康指導「すくすく教室」の充実

- (6) 学校給食での地場産物活用の推進と家庭への啓発活動の充実

これらの事業を、新地町教育委員会の協力の下、栄養教諭を中心にモデル校で事業を展開し、児童・保護者が様々な体験的活動を通して主体的に「食と健康」に関わることで、肥満傾向児出現率を10%以下、痩身傾向児出現率ゼロ及び健康関連データ、児童や保護者の「食と生活」に関する意識の向上、学校給食での地場産物活用率の向上をきっかけとした家庭での地場産物活用率の改善を目指す。

### 平成30年度「つながる食育推進事業」成果報告書

受託者名 福島県  
モデル校名称 三春町立三春中学校  
対象学年及び人数 全学年 324名  
栄養教諭等の配置 平成25年度から栄養教諭が1人配置

#### 取組テーマ

「つながる食育」～生徒の「今」、そして、「未来」につながる食に関する指導～

東日本大震災の原発事故から7年が経過し、帰還する地域が多くなるなどして、福島県内の児童生徒の屋外での活動制限は部分的なものとなったものの、生活習慣の変化に伴い肥満傾向児の出現率が高い状況が続くと共に、本校においては、痩身傾向児の出現率も全国より高く課題となってきた。

本事業では、教育活動全体を視野に、食に関する指導、食や健康に関する教育相談体制を構築する中で、教科等横断的な学習を展開し、食に関する知識について関連性・系統性をもって学ぶ学習を位置づけた。また、生徒一人一人の食生活状況調査や発育状況調査、活動量調査、摂取基準値の設定など、個々の課題を生徒自らに把握させ、課題に応じて主体的に望ましい食習慣のあり方について考え、それを現在の家庭につなげ、学習の定着をもって自らの将来につなげていくことによって、家庭での食生活を含め、生涯にわたって、望ましい食生活を送ることができる食に関する自己管理能力の育成を目指す。

〈具体的な取組〉

- ① 生徒一人一人の生活習慣と運動量・体格等の実態の把握・分析
- ② 食生活の課題と変容を把握させる食育指導と保健

- 体育科を中心とした身体運動プログラムへの取組
- ③ 食の流通や安全などの視点から、食料生産を通じて持続可能な社会を見つめさせる取組
  - ④ 給食試食会・料理教室を通じ、望ましい食生活のあり方に関する啓発活動
  - ⑤ 栄養教諭配置校での「スーパー食育スクール事業」と「つながる食育」事業の長期にわたる実践・評価をもとにした、「共食」を含めた「つながる食育」の成果と課題の検証
  - ⑥ 健康指導と食育相談を系統的に設定し、食と健康の関連を意識させる取組
  - ⑦ 本事業の実績・評価を基にした実践プログラムの県下への啓発活動

以上のような取組を通して、望ましい食習慣を形成し、現在の生徒、さらには、未来につながる自己管理能力を身に付けられる食に関する指導の実践・評価にあたる。



写真3 出版されたレシピ集



写真4 文部科学省からの表彰状



写真5 大学での授業風景

## &lt;VI 展示研究報告 (6) &gt;

## 地域連携・研究センター企画展

川本 利恵\*

## はじめに

平成28年(2016)度6月より、千代田三番町キャンパス1号館ロビーに展示ケース2台を常時置いて1年を通じて展示を行うことになったが、令和3(2021)年度5月末をもって廃止となった。展示ケースの管理・運用は地域連携・研究センター(以下「センター」という。)が所管し、展示企画・期間をセンターに申し込んで展示を行うため、最後となる企画を申込み開催した。

## 企画展「東京家政学院の学び」展

令和3(2021)年4月23日(金)から5月27日(金)にかけて「東京家政学院の学び」展を開催した。これは新入生を迎えるにあたり、本学の創立者大江スミの建学の精神や授業に対する考え方を伝えるとともに創立当初の学生の学びの内容がどのようなものだったかを垣間見る機会としてもらうために企画したものである。

大江スミ著作の教科書(写真1)、学生の講義ノートや和裁の部分縫い(写真2)を展示した。

学生は企画展開催時には分散登校していたが、4月26日(月)からオンライン授業へ変更となったため、会期中に見学できた者が少数であったことは残念であった。

## 展示資料一覧

資料名	年代	大きさ	著作者	備考
『家事实習教科書(全)』	昭和18(1943)年	20.3×14.3×1.0	大江スミ	河野要子(現姓:山下)使用 東京家政専門17回卒(昭和19(1944)年9月)
『礼儀作法全集』全九巻	昭和13-14(1938-39)年	21.1×19.3×1.2	大江スミ	河野要子(現姓:山下)使用 東京家政専門17回卒(昭和19(1944)年9月)
講義ノート「西洋料理」	昭和元(1926)年	21.0×16.5×0.7		小池とみ子(小池登美、現姓同じ)使用 家政学院本科1回卒(昭和3(1928)年3月)
講義ノート「日本料理」	昭和2(1927)年	20.8×16.0×0.9		小池とみ子(小池登美、現姓同じ)使用 家政学院本科1回卒(昭和3(1928)年3月)
部分縫い	昭和3(1928)年	49.3×37.0他		2点 柳原敏子(現姓:安並)使用 家政学院本科3回卒(昭和5(1930)年3月)
講義ノート	昭和4(1929)年頃	20.9×16.4他		7冊(園芸、割烹(中村先生)、衣類整理、和裁、割烹、婦人衛生、看護) 柳原敏子(現姓:安並)使用 家政学院本科3回卒(昭和5(1930)年3月)



写真1 大江スミ著作教科書

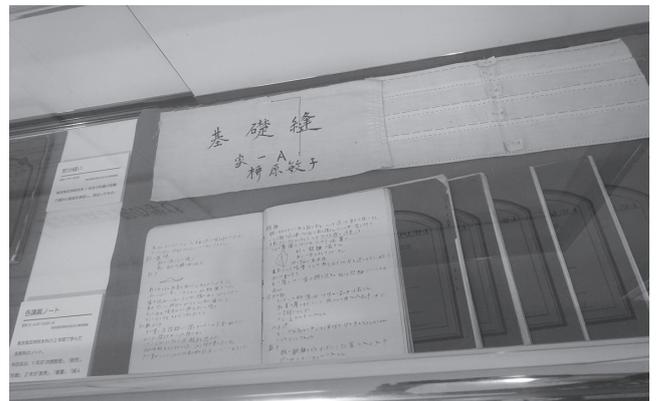


写真2 講義ノートと部分縫い

\*川本 利恵(かわもと りえ) 令和3年度生活文化博物館学芸員

## 令和3年度博物館実習（館園実習）を振り返って

田尾 誠敏\*

### 1. はじめに

本学では、博物館学芸員の資格取得を目的として学芸員課程を設置しているが、その締めくくりとして博物館実習を実施している。博物館実習は、前期に行う学内実習、夏期集中授業として行う館園実習、主に後期の休日等を利用して行う見学実習という三種から構成される。このうち館園実習は、実際の博物館業務に携わることを目途とした実習で、本学では大学が運営する生活文化博物館で、実際の展示作業を模擬的に行っている。

学芸員課程は現代生活学部を対象に開講しているため、千代田三番町キャンパスの現代家政学科の受講生と、町田キャンパスの生活デザイン学科の受講生が合同で行うことにしている。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大による度重なる緊急事態宣言の延長を受けて、6月1日付で出された「対面授業実施に関する調査について」で提示された実験実習等予備期間（7月26日～8月25日）に準ずる形で、大学の一斉休暇が明けた8月17日から20日までの4日間とし、翌8月21日は続けて見学実習に充てた。

### 2. 館園実習の概要

館園実習は、主に講義形式の解説や作業手順の説明を教室で行い、展示の実務作業は生活文化博物館の展示室で行った。館園実習の事前打ち合わせおよび実習期間の全般にわたって、生活文化博物館の川本利恵学芸員の手を煩わせた。

第1日目の午前は、教室においてガイダンスを行った。名札、実習ノート（実習簿）、実習要項を配布し、館園実習全体の作業内容と日程および注意事項、ならびに実習簿の記入方法を説明した。実習は班を編成して作業に当たることにしたが、両キャンパスの受講生が各4名であったので、キャンパスごとに2班を編成した。班ごとの共同作業となるので、特に新型コロナ

ウイルス感染対策として、マスクの常用とこまめな手指の消毒を心がけること、熱中症対策として水分の補給をし、体調がすぐれない場合は早めに申し出るように注意を促した。このあと、生活文化博物館の川本学芸員を交えて受講生の自己紹介を終え、生活文化博物館の概要と施設の紹介、4か所ある収蔵庫の状況を案内していただいた。実習作業の中心は、企画から立案して行うパネル展示であるため、午後に講義形式で展示企画の立て方を概説し、引き続いて各班で展示企画の検討に入った（写真1）。インターネットや図書館を活用して調べた展示企画のテーマ候補をいくつか挙げた上で、生活文化博物館の設置目的や来館者の傾向なども踏まえて、テーマを絞り込むようにした（写真2、3）。

第2日目からは、展示を実現するための本格的な作業へと移った。展示企画の候補を一本化し、展示資料や解説素材などの調査や取材を行った。千代田三番町キャンパス班は図書館と生活文化博物館を中心に、町田キャンパス班はバスで現地まで出向き、それぞれ調査を行った。展示テーマとコンセプトが各班で固まったので、この日の最後に、決定したテーマとコンセプト



写真1-1 千代田三番町キャンパス班による展示テーマの検討

\*田尾 誠敏（たお まさとし）令和3年度現代生活学部非常勤講師



写真1-2 町田キャンパス班による展示テーマの検討



写真4-2 町田キャンパス班による展示テーマの発表

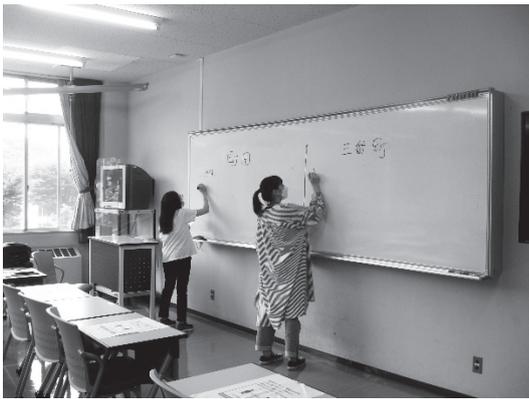


写真2 展示テーマ検討のためのワークショップ

トを発表した(写真4)。千代田三番町キャンパス班が「多摩キャンパスがあった?!」、町田キャンパス班が「夕焼けに魅せられて～雨紅のあしあと～」である。

第3日目は、さらなる資料調査や取材内容の検討と並行して(写真5、6)、生活文化博物館の展示壁面にある既存パネルを撤去し、展示パネルの仮レイアウトを行った(写真7)。また、パネルのサイズや解説文のフォント・文字数を決定し、午後には解説原稿の作成に取り掛かった(写真8)。

最終日の第4日目は、解説原稿の作成および校正と並行して、ハレパネ(のり付スチレンボード)による展示パネル作成の要領を説明し、パネルの作成を行った(写真9)。夕方に、出来上がったパネルの列品(展示)作業を川本学芸員の補助で行い(写真10)、展示が完成した。この展示をもとに、各班の代表者がギャラリートーク(展示解説)を行い(写真12、14)、4日間にわたる館園実習を終了した。

夏期一斉休暇期間が月曜日までであったため、実習期間は火曜日から金曜日までの4日間となった。この短い期間で、展示のテーマを企画し、調査、原稿作成、パネル作成、展示作業を手際よく行った。展示テーマについても、千代田三番町キャンパス班は、現在は使われていない「多摩キャンパス」という名称に関心をもち、現町田キャンパス創設当時の状況を回顧する展示を行った。また町田キャンパス班は、誰もが知る童謡「夕焼け小焼け」が町田キャンパスのある相原とゆかりがあることに興味を抱き、その作者である中村雨紅の生涯についても調べた。両班とも短期間の作業であったが、充実した展示内容となった。パネル展示は夏休み中の短期間で終了し、新型コロナウイルス禍の安定しない時期だったこともあり、多くの来館者の目に触れることがなかったのは残念であった。以下に両班の展示概要を記して稿を閉じたい。

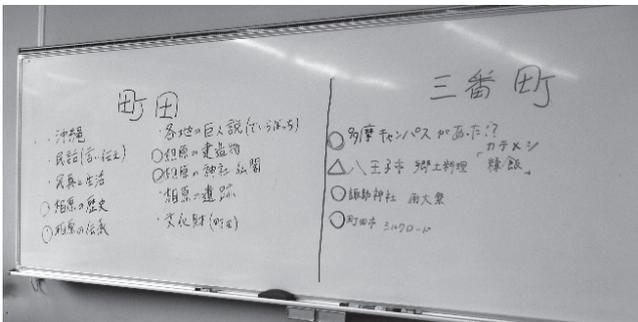


写真3 展示テーマの候補



写真4-1 千代田三番町キャンパス班による展示テーマの発表



写真5-1 千代田三番町キャンパス班による資料調査と取材（川本学芸員からの聞き取り調査）



写真5-2 千代田三番町キャンパス班による資料調査と取材（現在の町田キャンパスを撮影）



写真6-1 町田キャンパス班による資料調査と取材（諏訪神社での現地調査）



写真6-2 町田キャンパス班による資料調査と取材（資料の検討）



写真7-1 千代田三番町キャンパス班による展示の仮レイアウト



写真7-2 町田キャンパス班による展示の仮レイアウト



写真8-1 千代田三番町キャンパス班による解説原稿の作成



写真8-2 町田キャンパス班による解説原稿の作成



写真9 展示パネルの作成



写真10-1 千代田三番町キャンパス班による列品（展示）作業



写真10-2 町田キャンパス班による列品（展示）作業

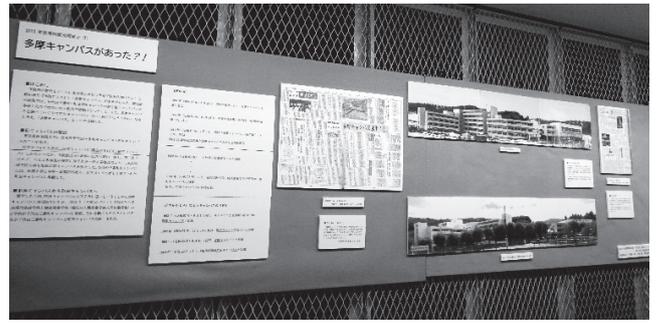


写真11 「多摩キャンパスがあった?!」展示風景



写真12 千代田三番町キャンパス班によるギャラリートーク（展示解説）

### 3. 館園実習の成果

A. 千代田三番町キャンパス班（現代生活学部現代家政学科 安部菜奈子・伊藤 舞・齋藤夏希・小島夕渚）  
【多摩キャンパスがあった?!】（写真11）

#### (1) はじめに

学院内の歴史をテーマに実習展示を行う予定で資料を調べたところ、略年表や『学院だより』に「多摩キャンパス」の名称があった。調査前の段階では、千代田三番町・町田両キャンパスの他に違うキャンパスが存在したのではないかと班内で話題になったこと、また、多摩キャンパスを調べていく中で町田キャンパスについて深く知るきっかけになると考え、「多摩キャンパス」をテーマに選んだ。

#### (2) 新キャンパスの開設

東京家政学院大学には現在千代田三番町キャンパスと町田キャンパスの二つがある。大学ができた当初は三番町キャンパス（現在の千代田三番町キャンパス）しかなかったが、学院創立60周年の記念行事の一環と、第二次ベビーブームによる学生の増加に伴う郊外への大学進出によって、東京家政学院大学も相原に新キャンパスを設立した。当時の三番町キャンパスには、短期大学と中・高校が残り、大学はすべて新しく設立された町田キャンパスに移動した。

### (3) 多摩キャンパスから町田キャンパスへ

開学した当初、町田キャンパスは八王子市に近いということから多摩キャンパスと呼ばれていたが、平成23（2011）年4月に現代生活学部現代家政学科と健康栄養学科（現在の人間栄養学部人間栄養学科）の2学科が千代田三番町キャンパスに移転した。それを機に大学のキャンパス名が千代田三番町キャンパスと町田キャンパスに改められた。



写真13 「夕焼けに魅せられて ~雨紅のあしあと~」  
展示風景

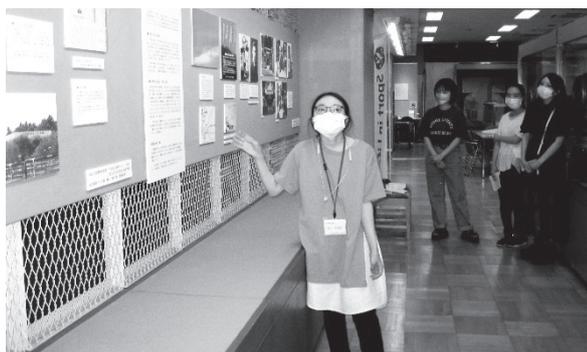


写真14 町田キャンパス班によるギャラリートーク  
(展示解説)

B. 町田キャンパス班（現代生活学部生活デザイン学科：市橋るり子・井上明日香（班長）・金澤奈名子・時田茉由）

【夕焼けに魅せられて ~雨紅のあしあと~】（写真13）  
(1) はじめに

実習展示のテーマを考えるにあたり、町田キャンパスがある相原の民話や童謡を調べていたところ、童謡「夕焼け小焼け」が相原にゆかりがあることが分かった。さらに、作者自身も相原に住んでいたことがあつ

たということがわかり、作者である中村雨紅と相原のかかわりを探った。

### (2) 夕焼け小焼けと相原

「夕焼け小焼け」は中村雨紅が大正（1919）8年に作詞、草川信が作曲し、大正12（1923）年7月に発表された童謡である。作詞した当時、雨紅は叔母方に当たる相原村諏訪神社宮司中村家の養子となり相原に住んでいたこと、歌詞にある夕焼けの景色が相原から見る夕焼けに似ていること、城山町の普門寺の鐘の音が聞こえてきたことなど、あてはまる点が多いことから、舞台は相原とされている。

雨紅自身は作詞した時の背景をはっきりと覚えていないようであったが、東京とふるさとの往復時、ときには途中で日暮れとなり、幼い頃を思い出し、ふと郷愁の感傷も加わって、この詩が生まれた。

### (3) 中村雨紅の生涯と「夕焼け小焼け」

中村雨紅の本名は高井宮吉で、明治30（1897）年、八王子市に高井丹吾の次男として生まれた。大正5（1916）年、現・東京工学芸大学卒業後、日暮里の小学校に奉職。大正6（1917）年に相原町中相原の中村武造の養子となる。高井家と中村家は宮司職で親戚関係にある。雨紅は20～26歳の間中村家に本籍を置く。22歳の時「夕焼け小焼け」を作詞。ペンネームとして養子先の「中村」の姓と師である野口雨情のように偉くなりたいと「雨」の一字をもらい、「紅」はそれに染まるという思いが込められている。そして大正12（1923）年、作曲家である草川信に作曲を依頼し、世に発表された。

同年、雨紅が宮司職にならないことがはっきりとしたため、養子関係は解消。同時に本城千代子と結婚する。その後、従妹にあたる高井フクを養子に迎えた。昭和元年、現・厚木東高校の教師を務め、昭和47（1972）年、75歳で逝去する。

### (4) 諏訪神社と歌碑

相原諏訪神社は、町田市相原町にある神社。相原諏訪神社は、別当高岳坊長温が氏子と共に信州（長野県）下諏訪大社を丸山の地に勧請して養和元（1181）年に創建、相原山大明神と称していた。往古は相原全体の鎮守だった。

雨紅が養子となった中村家は、本神宮の宮司職を務めていた。このため、神宮境内に「夕焼け小焼け」の歌碑が置かれている。

## 日程表

1日目：8月17日（火曜日）		
時 限	内 容	備 考
2 限 10：40～12：10	10：00 集合（1階1202教室）	○生活文化博物館の施設と事業を知る。 ○班は基本的に各キャンパスで2班に編成し、代表者（班長）を選出します。
	10：15 実習のオリエンテーション (1) 自己紹介、班編成 (2) 実習の概要説明 (3) 日程の説明、IDの配布 (4) 生活文化博物館の概要説明	
昼 休 み		
3 限 13：00～14：30	13：00 展示の企画と工程	○博物館で実際に行われる展示の企画と工程について説明します。
4 限 14：40～16：10	14：40 展示企画の検討（1）	○班ごとに話し合い、パネル展示の企画を検討する。ユニークで楽しい企画をめざそう。
5 限 16：20～17：50	16：20 本日のまとめ・翌日の作業内容の確認 16：20 実習日誌の記入 17：30 解散	
2日目：8月18日（水曜日）		
時 限	内 容	備 考
1 限 9：00～10：30	10：00 集合（1階1202教室）	○パネル展示の企画を絞り込み、テーマを決定する。併せて展示パネルに使用する素材や説明をするための資料を調べる。
	10：15 本日の予定の確認	
2 限 10：40～12：10	10：30 展示企画の検討（2）	
昼 休 み		
3 限 13：00～14：30	13：00 展示企画の検討（3）	○午前中に引き続き、決定したパネル展示のテーマに沿って、パネルに使用する素材や説明をするための資料を調べる。
4 限 14：40～16：10	15：30 展示テーマの発表	○決定した展示のテーマとコンセプトを発表する。
5 限 16：20～17：50	16：20 本日のまとめ・翌日の作業内容の確認 16：20 実習日誌の記入 17：30 解散	
3日目：8月19日（木曜日）		
時 限	内 容	備 考
1 限 9：00～10：30	10：00 集合（1階1202教室）	○展示パネルを作成する手順やコツを解説する。 模擬資料を用いてパネル制作を体験する。
	10：15 本日の予定の確認	
	10：30 展示パネルの制作の実際	
2 限 10：40～12：10	13：00 パネル制作の準備	○展示で使用するパネルの準備として、最終的な写真の選択と打ち出し、文字原稿の作成を行う。
昼 休 み		
3 限 13：00～14：30	13：00 パネル制作の準備	○展示で使用するパネルの準備として、最終的な写真の選択と、文字原稿の作成を行う。
4 限 14：40～16：10	15：00 展示パネルの制作	○選択した写真素材や作成した文字原稿をプリントし、展示パネルを作成する。
5 限 16：20～17：50	16：20 本日のまとめ・翌日の作業内容の確認 16：20 実習日誌の記入 17：30 解散	
4日目：8月20日（金曜日）		
時 限	内 容	備 考
1 限 9：00～10：30	10：00 集合（1階1202教室）	○指示に従って既存展示を撤収し、今回の展示スペースを確保する。
	10：15 本日の予定の確認	
	10：30 既存展示の撤収作業	
2 限 10：40～12：10		
昼 休 み		
3 限 13：00～14：30	13：00 列品作業（パネルの展示）	○制作したパネルをレイアウトして展示を行う。 ○各班で打ち合わせを行い、展示解説のプレゼンを行う。
4 限 14：40～16：10	14：40 展示解説打ち合わせ	
	15：50 展示解説（ギャラリートーク）	
5 限 16：20～17：50	16：20 本日のまとめ 16：40 実習日誌の記入 17：20 翌日の見学実習の説明 17：30 解散	

## 令和3年度生活文化博物館害虫調査報告

川本 利恵\*

### 1. 環境調査報告の性格

生活文化博物館では、毎年8月から9月にかけて博物館施設内の虫害やカビによる生物被害調査を業者へ委託して実施している。この調査報告にもとづいて清掃や燻蒸のなどの虫害対策処置の方向性を定める指針としている。

【調査者】 株式会社フミテック  
東京都港区芝浦2-13-6

【調査対象】 展示室、書庫(1105)  
収蔵庫1(1106)、収蔵庫2(1107)

【調査年月日】 自 令和3年8月23日  
至 令和3年9月22日

### 2. 実施報告

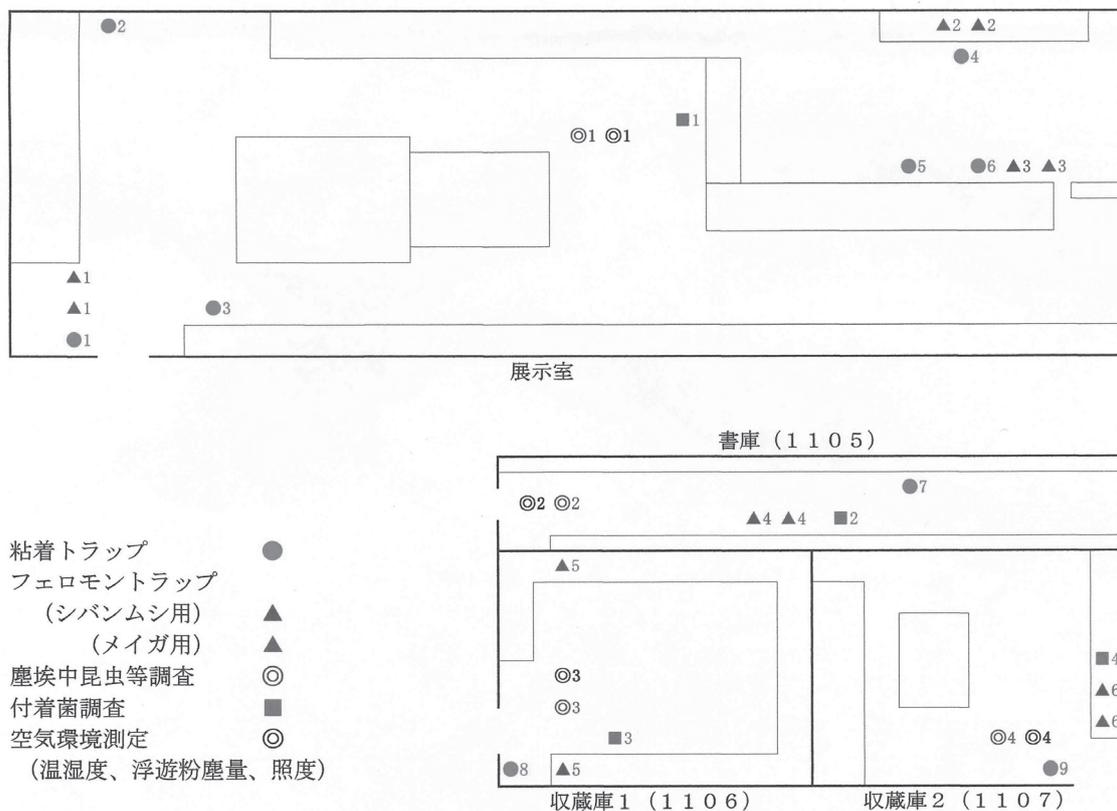
【施主】 東京家政学院大学  
東京都町田市相原町2600番地

【調査場所】 東京家政学院 生活文化博物館  
東京都町田市相原町2600番地

【関係者氏名一覧】(敬称略)

東京家政学院大学  
大学事務局 情報化推進室  
生活文化博物館 川本利恵  
株式会社フミテック 日向弘明、渡辺詩織、  
宅間陽一朗

環境調査実施図面



\*川本 利恵 (かわもと りえ) 令和3年度生活文化博物館学芸員

## 昆虫生息調査結果

粘着トラップ 図面表示 ● フェロモントラップシバンムシ用 図面表示 ▲  
 フェロモントラップメイガ用 図面表示 ▲

調査場所	図面No.	捕獲虫	捕獲数	捕獲総数
展示室	● 1	コナチャタテ科ヒラタチャタテ	2	12
		コオロギ科	1	
		コメツキムシ科	1	
		トビムシ科	3	
		チョウバエ科	2	
		コバエ類	3	
	● 2	コオロギ科	1	7
		コメツキムシ科	1	
		チョウバエ科	1	
		コバエ類	4	
	● 3	コオロギ科	1	6
		コメツキムシ科	2	
		クモ類	1	
		コバエ類	2	
	● 4	コバエ類	3	3
	● 5	トビムシ科	2	6
		ハサミムシ科	1	
		コバエ類	3	
● 6	コバエ類	1	1	
▲ 1	なし	0	0	
▲ 1	コバエ類	1	1	
▲ 2	なし	0	0	
▲ 2	なし	0	0	
▲ 3	なし	0	0	
▲ 3	なし	0	0	
書庫	● 7	コバエ類	2	2
	▲ 4	なし	0	0
	▲ 4	なし	0	0
収蔵庫 1	● 8	トビムシ科	1	3
		コバエ類	2	
	▲ 5	なし	0	0
	▲ 5	なし	0	0
収蔵庫 2	● 9	なし	0	0
	▲ 6	なし	0	0
	▲ 6	なし	0	0

 文化財加害虫

塵埃中昆虫等調査 図面表示 ◎

調査場所	図面No.	捕獲虫	捕獲数	捕獲総数
展示室	◎ 1	なし	0	0
書庫	◎ 2	なし	0	0
収蔵庫 1	◎ 3	アリ科	1	1
収蔵庫 2	◎ 4	なし	0	0

付着菌調査 図面表示 ■

調査場所	図面No.	一般真菌類	コロニー数	好稠性真菌類	コロニー数
展示室	■ 1	なし	0	アスペルギルス	1
書庫	■ 2	なし	0	アスペルギルス	1
収蔵庫 1	■ 3	クラドスポリウム	1	なし	0
収蔵庫 2	■ 4	なし	0	なし	0

※好稠性真菌類…水分を嫌う真菌類の総称。完全乾性カビ。

空気環境測定 図面表示 ◎

測定項目		温度	相対湿度		浮遊粉塵量	照度
測定場所		20±2℃	55±5%		0.15mg/m <sup>3</sup> 以下	300Lx以下
			湿球	%		
展示室	◎ 1	24.6	22.3	83.0	0.003	230
書庫	◎ 2	26.4	23.6	83.0	0.025	152
収蔵庫 1	◎ 3	26.4	24.0	84.0	0.022	150
収蔵庫 2	◎ 4	26.2	23.4	80.0	0.019	151
外気		35.0	27.8	67.6	0.016	

〈調査結果より〉

- ・展示室でヒラタチャタテが捕獲された。
- ・展示室でコバエ類やコオロギ科等の昆虫類の侵入が確認された。
- ・展示室、書庫、収蔵庫1で真菌類の分離が確認された。
- ・各室とも浮遊粉塵量、照度は基準値以下であったが、温度、湿度は基準値以上であった。

〈今後の対策として〉

- ・トビムシ科等の侵入及び付着菌が確認された収蔵庫1は生物等が生息しない環境にする為、除塵防黴施工を検討する。
- ・害虫侵入予防として、各室出入口付近には自然蒸散型忌避剤（商品名：バーミガードGEL）の配置を検討する。
- ・各室出入口には粘着トラップを恒常的に配置し、館内に侵入する害虫の個体数減少に努める。
- ・館内各通路の床面は集塵機等を用いた日常の清掃を徹底し、害虫の餌となる塵埃除去に努める。
- ・より良い保存環境、展示環境維持の為、定期的な生息調査を継続していく必要がある。

※対策案を受け、市販の防虫財を出入口に吊るすことにした。

〈捕獲された加害昆虫〉

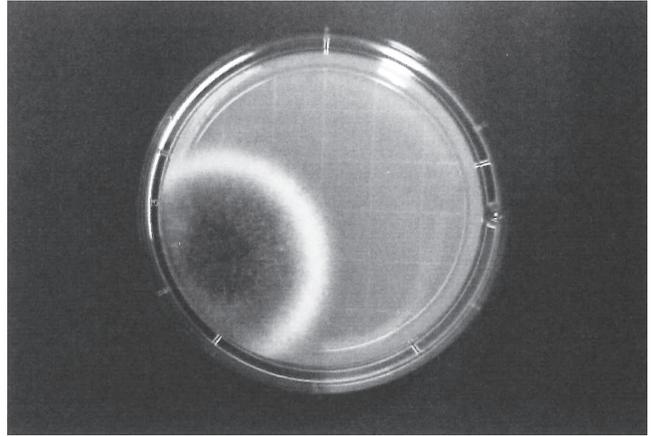


ヒラタチャタテ

〈チャタテムシ目コナチャタテ科ヒラタチャタテ〉

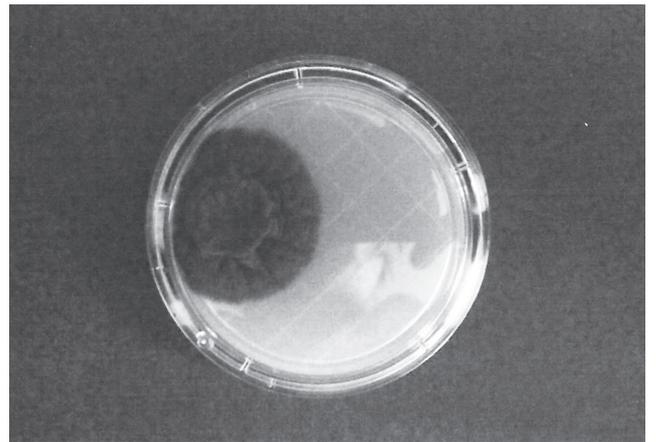
- 【加害対象物】書籍、動植物標本
- 【体長】1.0～1.3mm内外
- 【体色】頭部は赤褐色、背面は暗褐色
- 【生態】完全単為生殖で雄はいない。本種を含めコナチャタテ科は30～40%RH以下では生存できない。
- 【加害の特徴】糊付けした紙を好み、発生頻度はかなり高い。

〈採取されたカビ〉



アスペルギルス菌 (*Aspergillus*)

- 【分類】真菌類
- 【形状】ビロード状で平坦な集落を形成集落は緑青色を呈する。
- 【特徴】水のある所には育成しない。レンズ、刀剣、紙類など完全な乾燥物体に育成する。



クラドスポリウム菌 (*cladosporium*)

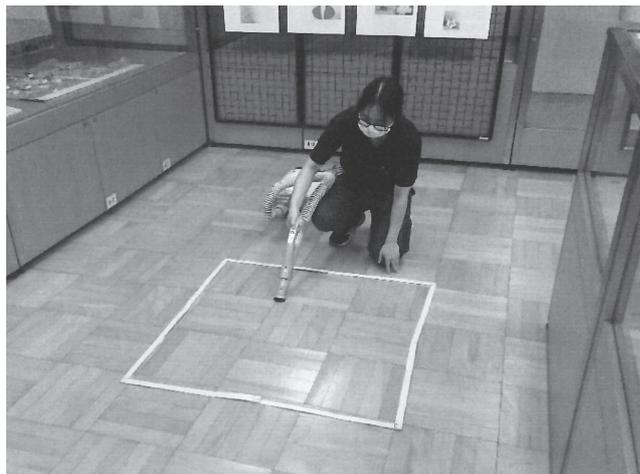
- 【分類】真菌類
- 【形状】暗緑色～黒緑色、放射状に発育
- 【特徴】文化財表面にフォクシングとよばれる染みを残す恐れがある。

写真のカビはCP加ポテトデキストロース寒天培地で25℃、7日間培養し発生したものである。

〈環境調査実施写真〉



粘着トラップ及び  
シバンムシ用フェロモントラップの設置



塵埃中昆虫等調査試料採取



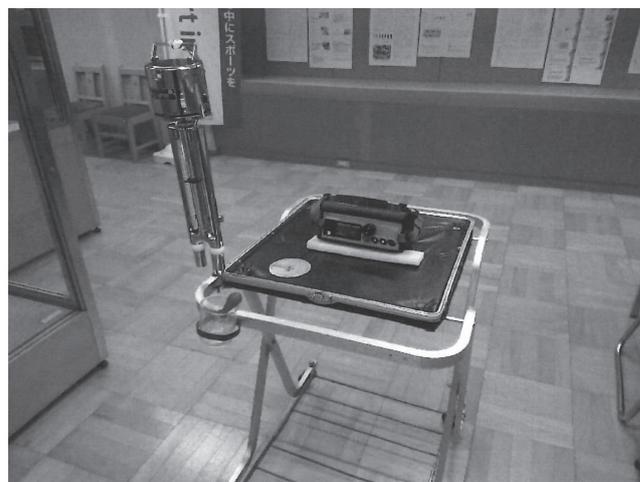
メイガ用フェロモントラップの設置



照度測定



付着菌試料採取



温・湿度及び浮遊粉塵量測定

## 令和3年度 生活文化博物館日誌抄 (2021: 4/1 - 2022: 3/31)

## 2021年

- 4月 3日 (土) 大学・大学院入学式  
 23日 (金) 「学生成果展」・「教員研究成果展」閉幕  
 「ロビー企画展」開幕  
 (於:千代田三番町キャンパス)
- 5月 7日 (金) 寄贈資料搬入  
 21日 (金) 令和3年度 第1回博物館運営委員会  
 27日 (木) 「ロビー企画展」閉幕  
 (於:千代田三番町キャンパス)  
 28日 (金) 令和3年度 第1回博物館研究員会議  
 「ロビー企画展」片付け  
 (於:千代田三番町キャンパス)
- 6月 7日 (月) 「第10回企画展」開幕  
 ※緊急事態宣言解除により6月21日 (月)  
 から開館  
 13日 (日) オープンキャンパス開催  
 27日 (日) オープンキャンパス開催
- 7月 11日 (日) オープンキャンパス開催  
 30日 (金) 「第10回企画展」閉幕
- 8月 9日 (月) オープンキャンパス  
 17日 (火) ~ 20日 (金) 館園実習 実習生8名  
 21日 (土) オープンキャンパス  
 23日 (月) ~ 9月22日 (水) 環境調査 (害虫生息  
 状況調査)
- 9月 21日 (火) 「第11回企画展」開幕
- 10月 22日 (金) 「第11回企画展」閉幕  
 26日 (火) 「第33回特別展」パネル展示開幕  
 (於:千代田三番町キャンパス)
- 11月 8日 (月) 「第33回特別展」本展示開幕  
 ~ 12日 (金) 歴史民俗資料館等専門職  
 員研修会オンライン受講 (9日を除く)  
 (於:国立歴史民俗博物館・千葉県佐倉市)
- 12月 9日 (木) 菱川師宣記念館へ料理標本8点貸出  
 (同館展示に出品)  
 16日 (木) 令和3年度 第2回博物館運営委員会  
 17日 (金) 令和3年度 第2回博物館研究員会議  
 24日 (金) 仕事納め

## 2022年

- 1月 6日 (水) 仕事始め
- 2月 2日 (水) 理事長見学  
 4日 (金) 「第33回特別展」パネル展示閉幕  
 (於:千代田三番町キャンパス)  
 「第33回特別展」本展示閉幕
- 7日 (月) 「第33回特別展」パネル展示片付け  
 (於:千代田三番町キャンパス)
- 24日 (水) 「学生成果展」・「教員研究成果展」開幕
- 3月 4日 (金) 菱川師宣記念館より料理標本8点返却  
 (同館展示に出品)  
 19日 (土) 卒業式  
 31日 (木) 『博物館年報』第31号発行

# 東京家政学院生活文化博物館規程

## (総則)

第1条 この規程は、東京家政学院大学学則第6条3項に基づき定める。

## (目的)

第2条 東京家政学院生活文化博物館（以下「博物館」という。）は、東京家政学院大学（以下「本学」という。）における生活文化に関する教育・研究に必要な実物資料その他の資料を収集、保管、展示し、本学の教職員及び学生の利用に供するとともに、教育的配慮のもとに一般に公開することを目的とする。

## (所在地)

第3条 博物館は、東京都町田市相原町2600番地に置く。

## (館長及び職員)

第4条 博物館に博物館長（以下「館長」という。）、研究員（学芸員を含む。）、大学事務局の職員を置く。

- 2 館長は、博物館の業務を掌理し、業務遂行に伴う事務について総括する。
- 3 館長の選出は、東京家政学院生活文化博物館長選考規程の定めるところによる。
- 4 研究員（学芸員を含む。）は、博物館の業務についての専門的事項をつかさどる。
- 5 研究員（学芸員を含む。）は、館長が委嘱する。
- 6 大学事務局は、博物館運営の事務を整理する。

## (運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を審議するため、博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会に関する事項は別に定める。

## (運営規程)

第6条 博物館の運営に関する具体的事項は別に定める。

## (事務)

第7条 博物館業務の事務は、大学事務局において行う。

### 附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

### 附 則

この規則は、平成3年2月25日から施行する。

### 附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

### 附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

### 附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

### 附 則

この東京家政学院生活文化博物館規則は、東京家政学院生活文化博物館規程に改正し、平成27年4月1日から施行する。

### 附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

# 東京家政学院生活文化博物館運営規程

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 この規程は、東京家政学院生活文化博物館（以下「博物館」という。）規程第6条の規定に基づき、博物館の運営に関する具体的事項を定める。

### (用語の定義)

第2条 この規程における用語の定義は、次の各号による。

- (1) 施設とは、本学の施設のうち、博物館用に充てられる次の施設をいう。
  - ア 専用施設（専ら博物館用に充てられる建物、室又は屋外施設）
  - イ 共用施設（専用施設以外の施設であって、その全部又は一部を長期若しくは一時的に博物館用に充てられる建物、室若しくは屋外施設）
- (2) 資料とは、博物館が保管する次の資料をいう。
  - ア 実物及び標本
  - イ 模写、模型及び複製
  - ウ 文献及び図表
  - エ 音響・映像資料
  - オ その他生活文化に関する資料
- (3) 開館とは、資料の展示された専用施設又は共用施設を開放することをいい、閉館とは、それらを閉鎖することをいう。
- (4) 公開事業とは、博物館の実施する次の事業をいう。
  - ア 常設展示（一定の資料を常時展示すること。）
  - イ 特別展示（特別の目的により選定した資料を期間を限って展示すること。）
  - ウ 講演会、講習会、映写会、研究会その他の行事を公開すること。
  - エ 出版物を作成し、及び頒布すること。

## 第2章 開館及び閉館

### (開館日及び閉館日)

第3条 開館日及び閉館日は次のとおりとする。

- (1) 博物館は、学則に定める休業日を除き、原則として開館するものとする。
- (2) 休館日は東京家政学院大学学則（以下「大学学則」という。）第15条の定める日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律178号）に規定する休日、創立記念日（5月21日）春季休業（4月1日から4月7日まで）夏季休業（8月1日から9月20日まで）冬季休業（12月26日から翌年1月7日まで）とする。
- (3) 大学学則第15条の定める日のほか、館内整理、陳列替え、資料補修、ばく書その他特別の事由があるときは、その都度閉館する。

### (開館時間)

第4条 開館時間は次の通りとする。

- (1) 平日 9時30分から16時30分まで（入館は16時まで）
- (2) 土曜日 9時30分から11時30分まで（入館は11時まで）

### (特別の開館)

第5条 館長は特別の事由のあるときは、期間を限って、前2条の規定にかかわらず開館の日及び時間を別に定めることができる。

(館内規律)

第6条 博物館の利用者は、次の行為をしてはならない。

- (1) 資料を汚損し、又は傷つけること。
- (2) 静粛を乱すこと。
- (3) 係員の指示に従わないこと。
- (4) その他館長の指示する禁止事項に反すること。

(入館料)

第7条 入館は、原則として無料とする。ただし、特別の公開事業に際して閲覧料・聴講料等を徴収することができる。

### 第3章 資料の収集及び管理

(管理事務責任者)

第8条 資料の収集・管理を適正円滑に行うため、管理事務責任者を置き、学術情報グループ課長がこれにあたる。

(資料の収集)

第9条 資料の収集は、購入、受贈、受託、借入又は学内における制作によるものとする。

2 収集する資料の決定は、博物館の目的、整備計画及び予算を考慮し、資料収集専門部会の議を経て館長が行う。

(受贈・受託)

第10条 館長は、資料を寄贈又は寄託しようとする者があるときは、資料収集専門部会の議を経てこれを受け入れることができる。

(会計上の区分)

第11条 購入又は受贈した資料の会計上の区分は、次のとおりとする。

- (1) 固定資産とするもの（本条第2号に掲げるものを除く資料）
- (2) 消耗品とするもの
  - ア 教材用資料（将来固定資産とするものを除く。）
  - イ 逐次刊行物（将未固定資産とするものを除く。）
  - ウ 事務用資料
  - エ 長期保存を必要としない資料

(資料の価格)

第12条 購入又は受贈した資料の取得価格は、次のとおりとする。

- (1) 購入した資料は、購入価格
- (2) 受贈した資料は、定価又はその評価価格
- (3) 学内において制作された資料は、それに要した実費価格

(資料の発注)

第13条 資料の発注は、所定の手続きによる。

(検収)

第14条 資料を受け入れる際は、納品書及び注文書控等により確実に検収しなければならない。

(登録)

第15条 第11条第1号により固定資産とする資料は、所定の標識を付し、資料原簿に登録する。

(点検)

第16条 固定資産である資料の点検は、定期的に又は必要に応じて行う。

(除籍)

第17条 特に館長が除籍を必要と認めた資料は、所定の手続きにより除籍する。

## 第4章 資料の利用

第18条 次の各号の一に該当する者は、館の資料を利用することができる。

- (1) 本学の教職員
- (2) 本学の学生
- (3) その他館長が許可した者

(資料の展示、閲覧)

第19条 博物館の保管する資料は、所定の場所に展示し、公開して閲覧に供することを原則とする。

(展示されていない資料の閲覧)

第20条 館長は、次に掲げる者に限り、展示されていない資料について、条件を付して閲覧させることができる。

- (1) 本学の専任教職員
- (2) 館長が特に許可した者

(館外における使用)

第21条 館長は、次に掲げる場合は、特に支障のない資料について、館外において使用することを許可することができる。

- (1) 本学の教職員が教育・研究のため、所属の組織の長の承認を経て、資料の学内における使用を願い出た場合。ただし、期間は1年以内とする。
  - (2) 本学の教職員が教育・研究のため、所属の組織の長の承認を経て、資料の学外における使用を願い出た場合。ただし、期間は3か月以内とする。
- 2 館長は、使用者が特別の事情により前項の規定による使用期間の更新を願い出た場合は、条件を付してこれを許可することができる。

(貸付)

第22条 館長は、次に掲げる場合は、資料の貸付を、期間その他の条件を付して許可することができる。

- (1) 資料の制作者が、その資料の貸付を願い出た場合
- (2) 資料の寄贈者が、その資料の貸付を願い出た場合
- (3) 他の博物館又は博物館に相当する施設が資料の貸付を願い出た場合
- (4) その他特に必要と認めた場合

(撮影、模写、模型又は複製の制作)

第23条 館長は、次に掲げる場合は、資料の撮影、模写、模型又は複製の制作を、条件を付して許可することができる。

- (1) 本学の教職員が願い出た場合
- (2) 本学の学生が、教員の承認を経て願い出た場合
- (3) その他特に必要と認めた場合

(出版、放送)

第24条 館長は、出版又は放送のために資料を使用することを願い出た者には、条件を付してこれを許可することができる。

(使用の停止)

第25条 館長は、第21条から前条までに至る規定による使用の期間中において、その資料につき必要があると認めるときは、本館職員をして調査させ、使用の停止、期間の制限、許可の取消等、必要な処置を講ずることができる。

(著作権に関する責任)

第26条 資料の使用により生ずる著作権法に定められた責任は、すべて利用した者が負うものとする。

(亡失等の弁償)

第27条 資料を損傷又は忘失した者は、法令の定めるところにより、損害を弁償しなければならない。

(通用細則)

第28条 この規程の運用にあたり、必要な細則は別に定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成3年2月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この東京家政学院生活文化博物館規則は、東京家政学院生活文化博物館規程に改正し、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

## 東京家政学院生活文化博物館年報 第32号

---

2023年3月24日 印刷

2023年3月31日 発行

発行者 東京家政学院生活文化博物館  
〒194-0292 東京都町田市相原町2600番地  
電 話 042-782-9814

印刷者 株式会社 相模プリント  
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17  
電 話 042-772-1275

---

TOKYO KASEI GAKUIN  
THE MUSEUM OF DAILY LIFE

※本号の編集は、編集員である高尾純宏、立川泰史（生活文化博物館館長）、正地里江、川本利恵が担当し、込山弥彦（情報化推進室長）と久保準一（情報化推進室主幹）が補佐した。

